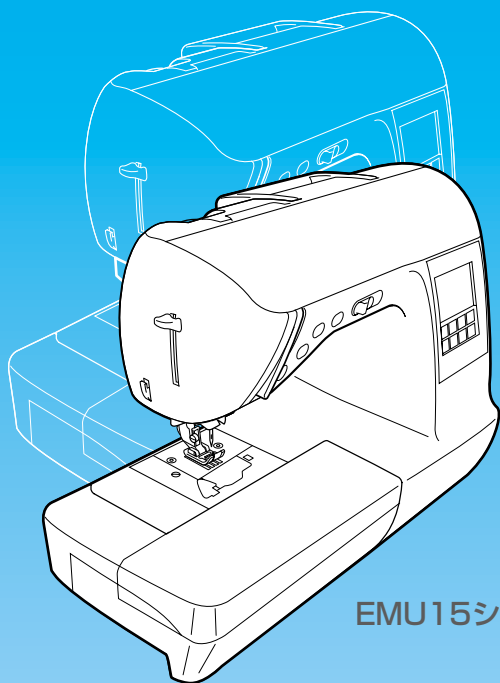


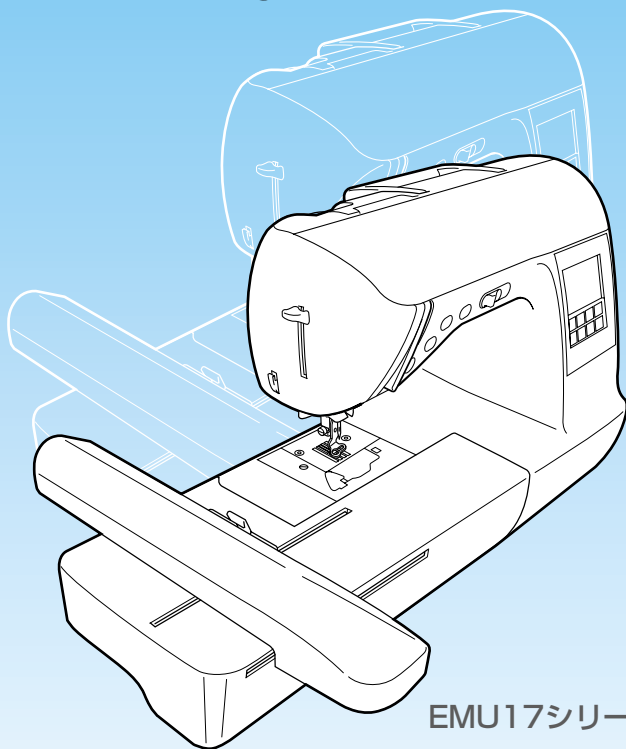
コンピュータミシン

取扱説明書

EMU17/EMU15シリーズ



EMU15シリーズ



EMU17シリーズ

brother

1 めう前の準備

めう前に必要な準備を説明します。

2 めい方の基本

基本のめい方と上手にめうコツなどを説明します。

3 いろいろなめい方

いろいろなめい方とその使い方を説明します。

4 刺しゅう (EMU17シリーズのみ)

刺しゅうの手順を説明します。

5 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使用されている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



分解してはいけません



感電の危険があります



水に濡らしてはいけません



火災の危険があります



特定しない義務行為



やけどの危険があります



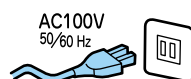
電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、次のことから守ってください。

！ 警告



- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 運転中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき



！ 注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



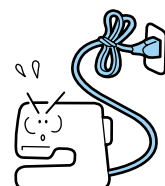
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



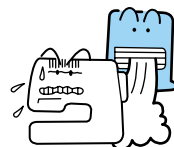
！ 注意



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。



- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



！ 注意



- ミシン本体の重さは約8kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたり、すべて落としたりして、ケガの原因となります。



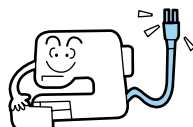
- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



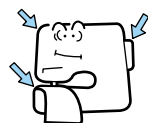
- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。



- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



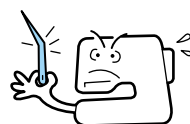
- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



！ 注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。



- 刺しゅう機を取り付けたままミシンを移動させないでください。刺しゅう機が落下してケガをするおそれがあります。



お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用として使用する場合は保証はいたしかねますのでご了承ください。
- 仕様および外観は、品質改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

もくじ

安全にお使いいただくために	1
はじめに	11
製品の特長	11
付属品を確認してください	12
付属品 (EMU17 シリーズ／EMU15 シリーズ共通)	12
付属品 (EMU17 シリーズ)	15
別売オプション (EMU17 シリーズ)	16
付属品 (EMU15 シリーズ)	18
別売オプション (EMU15 シリーズ)	19
付属品早見表	21
各部の名前とはたらき	22
前面	22
針・押え部分	23
右側面・背面	23
操作スイッチ	24
操作パネル	25

1 めう前の準備 27

電源を入れましょう	28
電源に関する注意	28
電源を入れる	29
電源を切る	29
液晶画面の操作	30
液晶画面の見方	30
ミシンの設定を確認・変更する	31
ミシンの使い方を確認する	33
糸をセットしましょう	35
下糸を巻く	35
下糸をセットする	39
上糸を通す	41
2本針を使う	45
下糸を引き出してからめう	48
針を交換する	49
針の種類と使い分け	49
針を交換する	50
押えを交換する	52
押えを交換する	52
押えホルダーを取り外す	54

筒ものや大きなものをぬう	55
フリーアームにする	55
エクストラテーブルを使う	55
ワイドテーブルを使う	57

2 ぬい方の基本 59

ぬってみましょう	60
ソーイングの手順	60
布地をセットする	61
ミシンをスタートさせる	62
返しぬい／止めぬいをする	64
糸を切る	66
ぬい目を調節する	68
模様の幅を調節する	68
ぬい目の長さを調節する	69
糸調子を調節する	69
便利な機能	70
自動で返しぬい／止めぬいをする	70
自動で糸を切る	71
模様を反転させる	72
模様の設定を記憶させる	72
上手にぬうコツ	74
試しぬいをする	74
ぬう方向を変える	74
カーブをぬう	74
押え圧を調節する	75
厚い布地をぬう	75
薄い布地をぬう	76
伸びる布地をぬう	76
ぬいしろの幅をそろえる	76
ニーリフターを使う（EMU15シリーズのみ）	77

3 いろいろなぬい方 79

ぬい方を選びましょう	80
模様の種類	80
模様を選ぶ	81
ぬいしろを始末する	85
たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり	85
ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり	86
サイドカッター押え<S>を使ったたち目かがり	87
地ぬいをする	89
しつけぬい	89
地ぬい	89

すそ上げをする	91
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける	93
ボタン穴かがりをする	94
ボタンを付ける	98
ファスナーを付ける	100
つき合わせ	100
片返し	102
伸びる布地やゴムテープをぬう	105
伸縮ぬい	105
ゴムテープ付け	106
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	107
アップリケ	107
パッチワーク（クレイジーキルト）	109
ピーシング	109
キルティング	110
フリーモーションキルト	111
振幅コントロールを使ったサテンぬい	112
丈夫にしたいところをぬう	114
三重ぬい	114
かんどめ	115
つくろいぬい（ダーニング）	117
はとめ穴を作る	119
飾りぬいをする	120
ファゴティング	121
スカラップ	122
スモッキング	122
シェルタック	123
つき合わせ	124
ヘアルーム	125
いろいろな模様をぬう	128
模様をきれいにぬうには	128
模様のぬい方	128
模様を組み合わせる	129
模様をくり返しぬう	130
模様を確認する	130
模様の大きさを変える	131
模様の密度を変える	131
模様の長さを変える	132
模様を反転させる	133
模様を記憶させる	133
模様を調整する	135

4 刺しゅう (EMU17シリーズのみ)..... 137

きれいに刺しゅうをするには	138
用意するもの	138
刺しゅうの手順	140
刺しゅう押え <Q> を取り付ける	141
刺しゅう押え <Q> を取り付ける	141
刺しゅう押え <Q> を取り外す	143
刺しゅう機を取り付ける	144
刺しゅう機を取り付ける	144
刺しゅう機を取り外す	146
布地を用意する	148
布地に接着芯を貼る	148
布地を刺しゅう枠に張る	149
刺しゅう枠を取り付ける	152
刺しゅう枠を取り付ける	152
刺しゅう枠を取り外す	153
刺しゅう模様を選びましょう	154
刺しゅう模様の種類	154
液晶画面の操作	155
文字模様を選ぶ	156
絵柄模様を選ぶ	159
枠模様を選ぶ	159
刺しゅうカードを使う	160
刺しゅうをしてみましょう	162
絵柄模様を刺しゅうする	162
アプリケをする	164
こんなとき	166
レイアウトを調整する	166
糸調子を調節する	168
刺しゅうし直したいとき	168
途中で糸がなくなったとき	169
刺しゅうを中断するとき	169
模様の記憶機能を使う	172
模様を記憶させる	174
模様を呼び出す	174
パソコンから模様を呼び出す	175

5 付録 177

お手入れ 178

本体表面の掃除 178

かまの掃除 178

困ったとき 180

液晶画面のメッセージ表示 184

液晶画面に何も表示されないとき 187

電子音 187

アフターサービス 189

アップグレードの方法 190

本体仕様 191

さくいん 192

はじめに

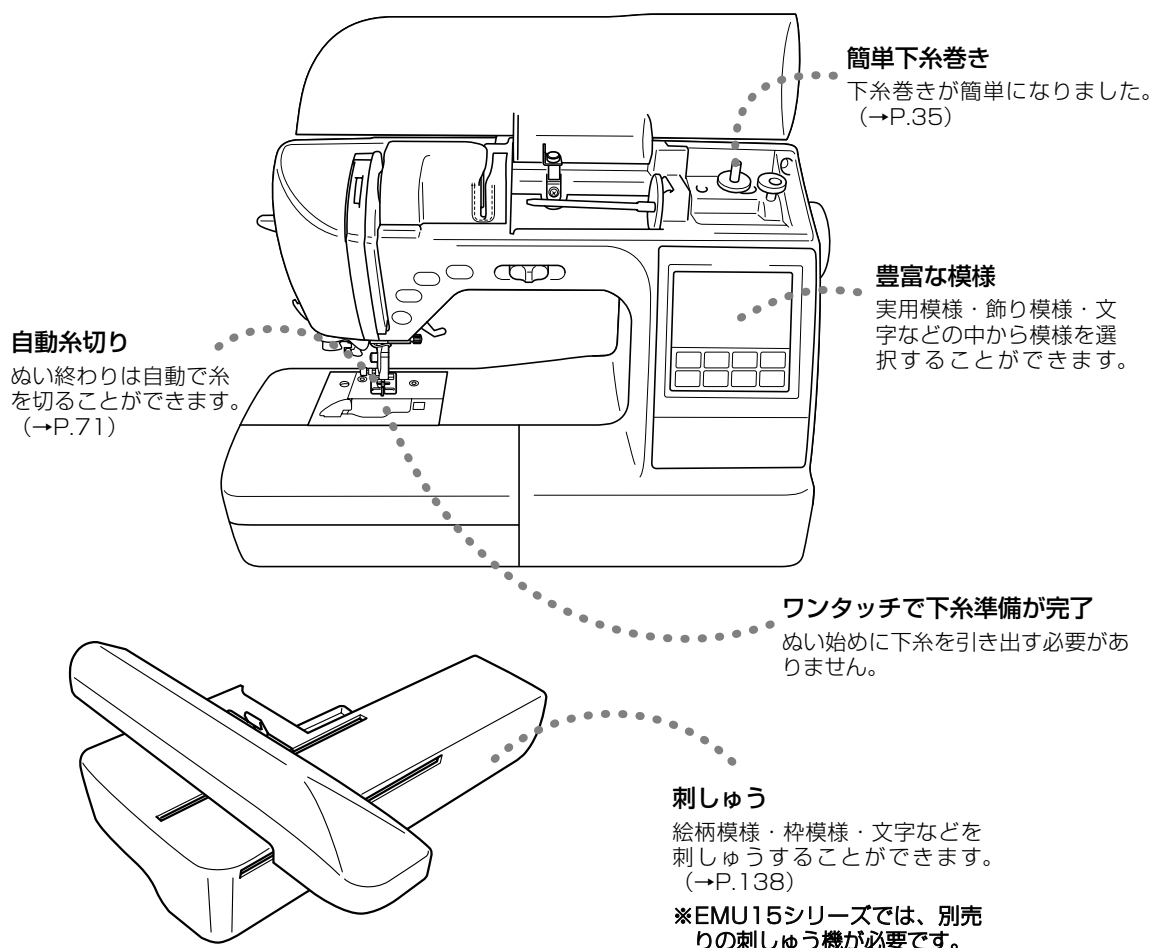
このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」(→P.1)をよくお読みいただき、この取扱説明書
をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また、取扱説明書は読み終わったあともいつでもご覧になれるところに保管してください。

製品の特長

この取扱説明書は、EMU17シリーズおよびEMU15シリーズ用です。お買い上げの製品に合わせて
説明をお読みください。

EMU17シリーズ：実用模様・飾り模様・文字をぬったり、絵柄模様・枠模様・文字を刺しゅうしたり
することができます。

EMU15シリーズ：実用模様・飾り模様・文字をぬうことができます。また、別売りの刺しゅう機をご
購入すると、絵柄模様・枠模様・文字を刺しゅうすることもできます。



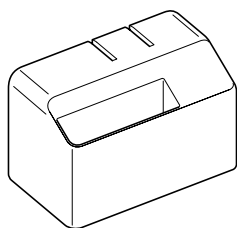
付属品を確認してください

箱を開けたら、お買い上げの製品に合わせて、まず次の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品（EMU17シリーズ／EMU15シリーズ共通）

ハードケース

ミシンを使用しないときは、ケースをかぶせて収納してください。



フットコントローラー

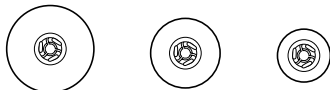
ミシンを足で操作するとき 사용합니다。



糸こま押え

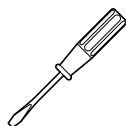
上糸をセットするとき 사용합니다。糸こまの大きさによって大／中／小を使い分けます。

購入時、糸こま押え（中）はミシンの糸たて棒にセットされています。



ドライバー

ミシン針を交換するときなどに 사용합니다。



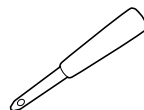
針板ドライバー

針板カバーを開閉するとき 사용합니다。



はとめ穴パンチ

はとめ穴をあけるとき 사용합니다。



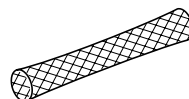
ミシンブラシ

かまなどの細かい部分のほこりを取り除くとき 사용합니다。



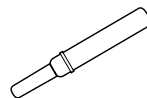
糸こまネット

張りが強い糸をセットするとき 사용합니다。



リッパー

ぬい目をほどこいたり、ボタン穴を切り開くとき 사용합니다。



はさみ

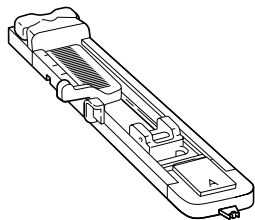
糸などを切ります。



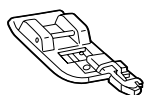
押え

ぬい方に合った押えが用意されています。押えには A・G・I・J・M・N・R の記号が記されています。詳細は、「押えを交換する」(→P.52) で説明します。

ボタン穴かがり押え <A>



たち目かがり押え <G>

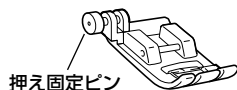


片押え <I>

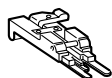


ジグザグ押え <J>

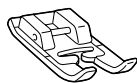
押え固定ピンが付いています。
※購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。



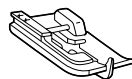
ボタン付け押え <M>



模様ぬい押え <N>



まつりぬい押え <R>



ボビン

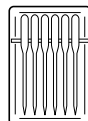
下糸を巻いて使用します。本製品純正のボビンが 4 個付属されています。そのうちの 1 個は、購入時にかまにセットされています。



ミシン針 (HA × 1)

4 種類 (計 6 本) の針が付属されています。糸の太さや布地によって使い分けます。

● 詳細は、「針の種類と使い分け」(→P.49) で説明します。



黄	#11 (2本)
赤	#14 (2本)
緑	#16 (1本)
ニット用金	#11 (1本)

ぬい糸

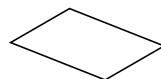
実用ぬい用のシャップスパン #60 白です。

※刺しゅうには使用できません。



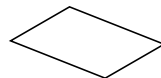
布地ブロード

薄地をぬうときの試しぬいに使用します。



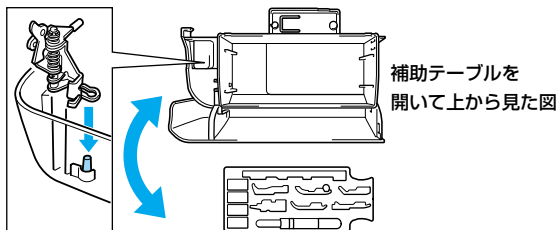
サンフェロン

フェルトに接着芯を貼ったものです。刺しゅうの試しぬいを使用します。



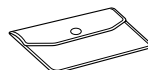
付属品トレイ

補助テーブル内にセットし、押え・リッパー・ボビンを収納します。



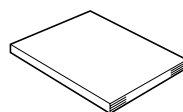
付属品バック

付属品を収納します。



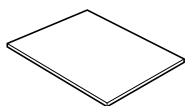
取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



操作早見表

下糸・上糸のセットと刺しゅうの手順、模様のサンプルが確認できます。



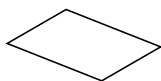
取扱説明 DVD

ミシンの基本的な使い方をDVDで紹介しています。



保証書

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。

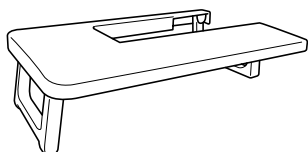


付属品 (EMU17 シリーズ)

EMU17シリーズ／EMU15シリーズ共通の付属品（→P.12）の他に、EMU17シリーズには、次の部品が付属されています。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

エクストラテーブル

大きなものをぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。



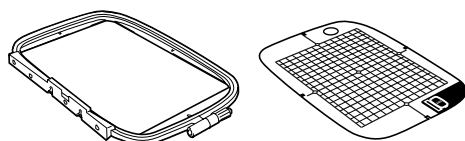
USB ケーブル

ミシンとパソコンを接続するときに使用します。



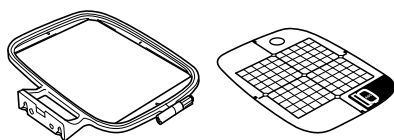
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]

縦 18 × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。



刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]

縦 10 × 横 10cm までの範囲で刺しゅうができます。



刺しゅう押え <Q>

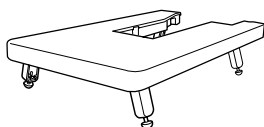


別売オプション（EMU17シリーズ）

EMU17シリーズには、オプション品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にお問い合わせください。

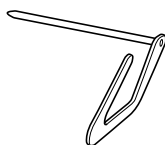
ワイドテーブル

大きな作品をぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。（モデル：WT5）



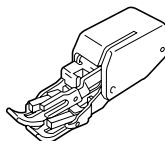
キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。（モデル：F016N）



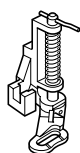
ウォーキングフット

ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうときに使用します。（モデル：F033）



キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。（モデル：F005N）



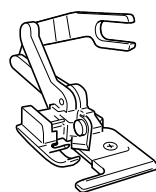
ガイド付まつりぬい押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます（モデル：F017N）



サイドカッター押え

布端を切りながら、たち目かがりなどをするときに使用します。（モデル：F054）



ウィングニードル

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに使用します。（モデル：WN001）



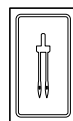
補助糸たて棒

2本針でぬうときに使用します。（部品コード：XC4654-051）

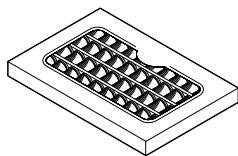


2本針

2色の糸を同時に使用して、並行に模様をぬうときに使用します。（部品コード：X59296-101）



刺しゅう糸



ウルトラパス 39 色セット

(モデル：ETS39)

ウルトラパス 23 色セット

(モデル：ETS23)

ウルトラパス 22 色セット

(モデル：ETS22)

カントリー糸 40 色セット

(モデル：CTS40)

カントリー糸 21 色セット

(モデル：CTS21)

刺しゅう専用下糸 500m 巻き

(モデル：EBT01)

刺しゅう専用下糸 1300m 巻き

(モデル：EBT02)

刺しゅう用接着芯

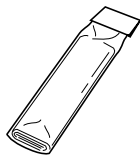
刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。

(モデル：BM3)



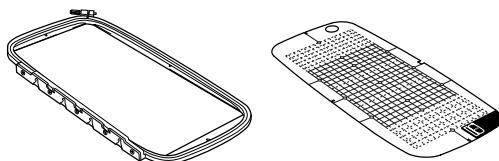
刺しゅう用水溶性シート

薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。(モデル：BM4)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [LL]

縦 30 × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。(モデル：EF85)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]

小さい布地を張るときに使用します。縦 2 × 横 6cm までの刺しゅうができます。(モデル：EF82)



刺しゅうカード

刺しゅう模様が内蔵されているカードです。ミシン本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。※外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。

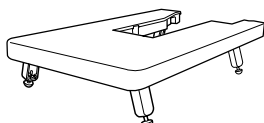


付属品 (EMU15 シリーズ)

EMU17 シリーズ／EMU15 シリーズ共通の付属品 (→P.12) の他に、EMU15 シリーズには、次の部品が付属されています。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ワイドテーブル

大きな作品をぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。



ニーリフター

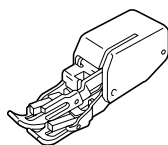
ひざで押えを上げ下げするときに使用します。ワイドテーブルの裏面に取り付けて収納します。

※ 購入時は、ワイドテーブルの裏面に取り付けられています。



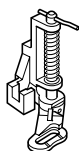
ウォーキングフット

ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうときに使用します。



キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。



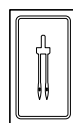
補助糸たて棒

2本針でぬうときに使用します。



2本針

2色の糸を同時に使用して、並行に模様をぬうときに使用します。

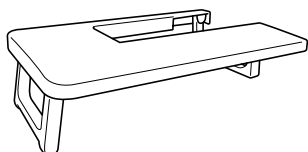


別売オプション（EMU15シリーズ）

EMU15シリーズには、オプション品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にお問い合わせください。

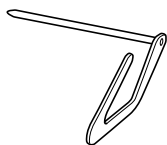
エクストラテーブル

大きなものをぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。（モデル：EXT1）



キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。（モデル：FO16N）



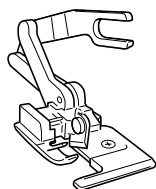
ガイド付まつりぬい押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます（モデル：FO17N）



サイドカッター押え

布端を切りながら、たち目かがりなどをするときに使用します。（モデル：FO54）

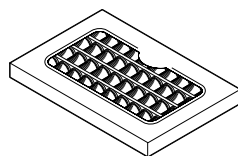


ウィングニードル

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに使用します。（モデル：WN001）



刺しゅう糸



ウルトラボス 39色セット
（モデル：ETS39）

ウルトラボス 23色セット
（モデル：ETS23）

ウルトラボス 22色セット
（モデル：ETS22）

カントリー糸 40色セット
（モデル：CTS40）

カントリー糸 21色セット
（モデル：CTS21）

刺しゅう専用下糸 500m 巻き
（モデル：EBT01）

刺しゅう専用下糸 1300m 巻き
（モデル：EBT02）

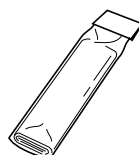
刺しゅう用接着芯

刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。
（モデル：BM3）



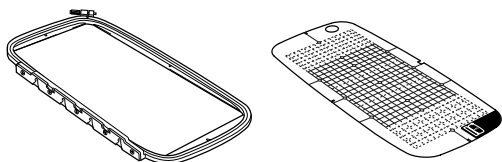
刺しゅう用水溶性シート

薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。（モデル：BM4）



刺しゅう枠・刺しゅうシート [LL]

縦 30 × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。(モデル：EF85)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]

小さい布地を張るときに使用します。縦2×横6cm までの刺しゅうができます。(モデル：EF82)



刺しゅうカード

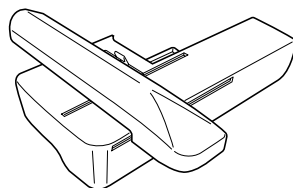
刺しゅう模様が内蔵されているカードです。ミシン本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。※外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。



別売刺しゅう機セット

次の部品が同梱されています。
(モデル：ES150)

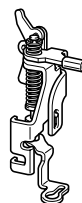
刺しゅう機



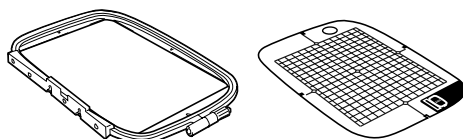
USB ケーブル



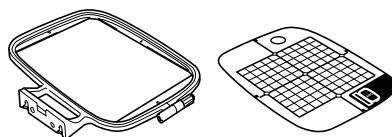
刺しゅう押え <Q>



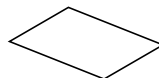
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]



刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]



取扱説明書



付属品早見表

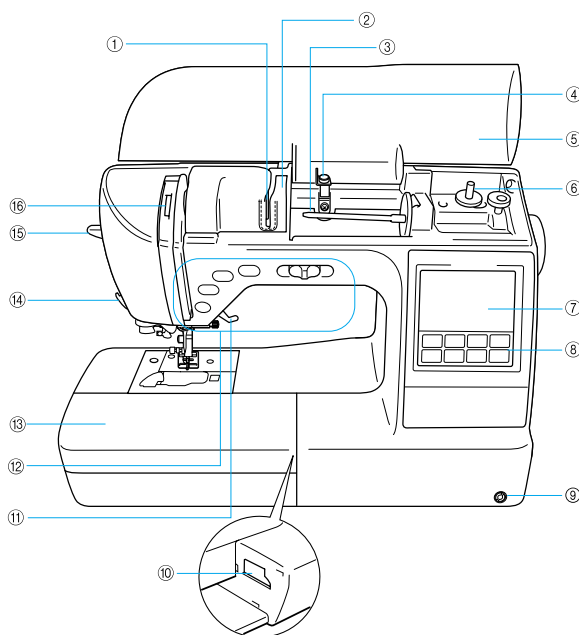
部品名	EMU17シリーズ	EMU15シリーズ
ハードケース	●	●
エクストラテーブル	●	△
ワイドテーブル	△	●
フットコンローラー	●	●
糸こま押え [大] [中] [小]	●	●
ドライバー	●	●
針板ドライバー	●	●
はとめ穴バンチ	●	●
ミシンブラシ	●	●
糸こまネット	●	●
リッパー	●	●
はさみ	●	●
ボビン	●	●
ぬい糸	●	●
付属品トレイ	●	●
付属品バック	●	●
補助糸たて棒	△	●
キルター	△	△
ニーリフター	—	●
刺しゅう機	●	△*
USBケーブル	●	△*
取扱説明書	●	●
操作早見表	●	●
取扱説明DVD	●	●
保証書	●	●
押え		
ボタン穴かがり押え<A>	●	●
たち目かがり押え<G>	●	●
片押え<I>	●	●
ジグザグ押え<J>	●	●
ボタン付け押え<M>	●	●
模様ぬい押え<N>	●	●
まつりぬい押え<R>	●	●
刺しゅう押え<Q>	●	△*
ウォーキングフット	△	●
キルト押え	△	●
ガイド付まつりぬい押え	△	△
サイドカッター押え	△	△
針		
ミシン針 (HA×1)	●	●
2本針	△	●
ウィングニードル	△	△
刺しゅう糸		
ウルトラボス39色セット	△	△
ウルトラボス23色セット	△	△
ウルトラボス22色セット	△	△
カントリー糸40色セット	△	△
カントリー糸21色セット	△	△
刺しゅう専用下糸500m巻き	△	△
刺しゅう専用下糸1300m巻き	△	△
接着芯		
刺しゅう用接着芯	△	△
刺しゅう用水溶性シート	△	△
その他の刺しゅう用品		
刺しゅう枠・刺しゅうシート [LL]	△	△
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]	●	△*
刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]	●	△*
刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]	△	△
布地ブロード	●	●
サンフェロン	●	●
刺しゅうカード	△	△

●：付属品 △：オプション品 —：使用できません
*別売刺しゅう機セットに同梱されています。

各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



① 糸案内板

上糸を通すときに糸をかけます。

② 糸案内カバー

上糸を通すときに糸をかけます。

③ 糸たて棒

糸こまを差し込みます。

④ 下糸巻き案内

下糸を巻くときに糸をかけます。

⑤ 上ふた

上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。

⑥ 下糸巻き装置

下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦ 液晶画面

選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。

⑧ 操作パネル

模様を選択したり、ミシンの使い方を確認したりします。(→ P.25)

⑨ ニーリフター差し込み口 (EMU15シリーズのみ)

ニーリフターを差し込みます。

※ニーリフターは、EMU17シリーズには使用できません。

⑩ 刺しゅう機差し込み口

刺しゅう機のコネクタを差し込みます。

※刺しゅう機は、EMU15シリーズではオプション品です。

⑪ 押えレバー

押えを上げ下げします。

⑫ 操作スイッチとスピードコントロールレバー

ミシンをスタートさせるときや針を上げ下げするときなど、ミシンのさまざまな操作に使用します。(→ P.24)

⑬ 補助テーブル

中に押えやボビンなどを収納します。そで口などの筒ものをぬうときには取り外します。

⑭ 糸切り

ぬい終わったときに、糸を引っかけて切ります。

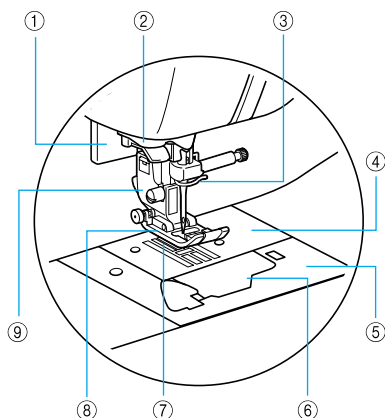
⑮ 糸通しレバー

針穴に糸を通すときに使用します。

⑯ てんびん確認窓

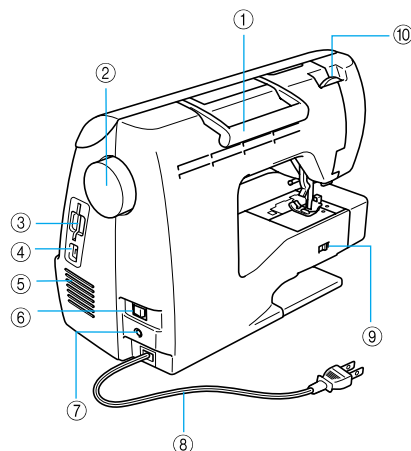
てんびんの位置を確認します。

針・押え部分



- ① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。
- ② 糸案内皿
針穴に糸を通すときに糸をかけます。
- ③ 針棒系かけ
上糸をかけます。
- ④ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。
- ⑤ 針板カバー
かまの掃除をするときに取り外します。
- ⑥ 針板ふた
下糸をセットするときに開けます。
- ⑦ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑧ 押え
布地を押さえます。付属の押えの中からぬい方に合った押えを使用します。
※付属の押えは、EMU15 シリーズでは 9 種類、EMU17 シリーズでは 8 種類です。
- ⑨ 押えホルダー
押えを取り付けます。

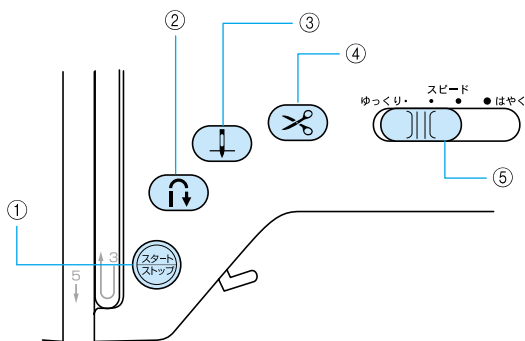
右側面・背面



- ① ハンドル
ミシンの持ち運びに使用します。
- ② プーリー
ぬい目を 1 針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ③ 刺しゅうカード差し込み口
別売りの刺しゅうカードを差し込みます。
- ④ USB ポートコネクター
USB ケーブルを差し込み、パソコンに接続します。
※ USB ケーブルは、EMU15 シリーズではオプション品です。
- ⑤ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。
- ⑥ 電源スイッチ
電源を入れるときと切るときに押します。
- ⑦ フットコントローラージャック
フットコントローラーのプラグを差し込みます。
- ⑧ 電源コード
家庭用電源コンセント(AC100V)に接続します。
- ⑨ ドロップレバー
送り歯を下げるときに使用します。
- ⑩ 押え圧ダイヤル
押え圧を調節します。

操作スイッチ

操作スイッチで、ミシンの基本的な操作が簡単に行えます。



① スタート/ストップスイッチ

ミシンをスタートさせるときとストップさせるときに押します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。購入時は、針が下がった（布地に刺さった）状態でストップするように設定されています。詳細は、「ミシンをスタートさせる」（→P.62）で説明します。

スイッチはミシンの状態によって色が変わります。

緑：スタートできる状態のとき／縫製中

赤：スタートできない状態のとき

橙：下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき

② 返しぬいスイッチ

ぬい始めやぬい終わりの、返しぬいまたは止めぬいをするときに押します。返しぬいの場合は、スイッチを押している間逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、スイッチを押したままにすると、同じ場所で3～5針重ねてぬって止まります。詳細は、「返しぬい／止めぬいをする」（→P.64）で説明します。

③ 針上下スイッチ

針を上げ下げするときに押します。ぬい方向を変えるときや細かいところをぬうときに使用します。また、繰り返し押すと、1針ずつぬうことができます。

④ 糸切りスイッチ

ぬい終わりに、上糸と下糸を自動的に切るときに押します。詳細は、「糸を切る」（→P.66）で説明します。

⑤ スピードコントロールレバー

ぬう速度を調節するときに使用します。左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

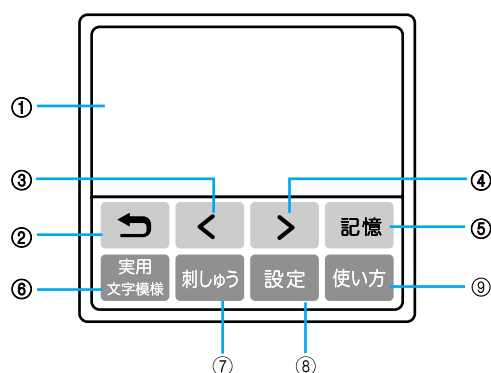
注意



- 糸を切った後に糸切りスイッチを押さないでください。針が折れたり糸がからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネル

前面の操作パネルで、模様を選択したり設定したりすることができます。



① 液晶画面

選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面に表示されるキーを指で押して操作します。詳細は、「液晶画面の操作」(→P.30)で説明します。

② 戻るキー

液晶画面の表示を 1 つ前に戻すときに押します。

③ 前ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、前の画面を表示します。

④ 次ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、次の画面を表示します。

⑤ 記憶キー

組み合わせ模様や文字模様をミシンに記憶させるときに押します。

⑥ 実用／文字模様キー

直線ぬい、ジグザグ、ボタン穴かがり、まつりぬいなどの実用ぬいをするときや、文字やサテンステッチ、クロスステッチなどの模様をぬうときに押します。

⑦ 刺しゅうキー

刺しゅうをするときに押します。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

⑧ 設定キー

針停止位置やブザー音などの設定を変更するときに押します。

⑨ 使い方キー

ミシンの使い方を確認するときに押します。上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換についての簡単な説明が表示されます。



1

ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう	28
液晶画面の操作	30
糸をセットしましょう	35
針を交換する	49
押えを交換する	52
筒ものや大きなものをぬう	55

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

警告



- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。



- ・ ミシンのそばを離れるとき
- ・ ミシンを使用したあと
- ・ 運転中に停電したとき
- ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- ・ 雷が鳴りはじめたとき

注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

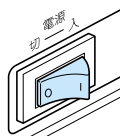
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。

- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

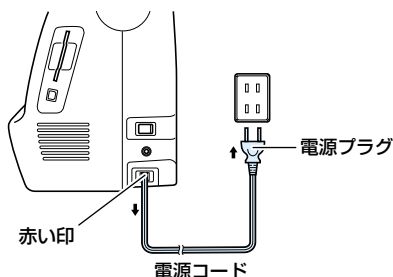
電源を入れる

ミシンの電源を入れます。

- 1 電源スイッチが「切」になっていることを確認します。



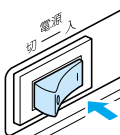
- 2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。



お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側 (I 側) を押して「入」にします。



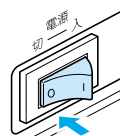
- ▶ 電源が入り、ランプと液晶画面、 (スタート/ストップスイッチ) が点灯します。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動させるときは、必ず電源を切ってください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。

- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側 (O 側) を押して「切」にします。



- ▶ 電源が切れ、ランプと液晶画面、 (スタート/ストップスイッチ) が消灯します。

- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源プラグを持って抜いてください。

- 4 電源コードを少し引っ張って手を離し、収納します。



お願い

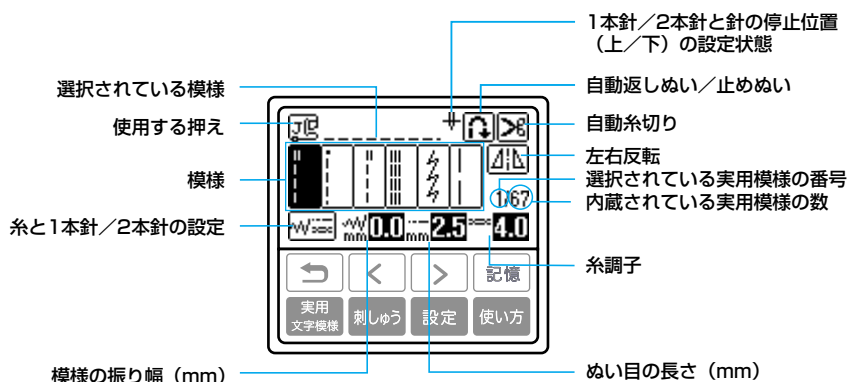
- 運転中に停電が発生したときは、電源を切ってから電源プラグを抜いてください。次に電源を入れるときは、手順に従って正しく操作してください。

液晶画面の操作

ミシン本体前面の液晶画面には、選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面下の操作キーを押して表示を切り替えて、直接指で液晶画面に触れて操作します。操作キーについては、「操作パネル」(→P.25)を参照してください。

液晶画面の見方

電源を入れると液晶画面が点灯し、次の実用模様の選択画面が表示されます。



お知らせ

- 模様グループの選択画面を表示させるときは、**実用文字模様**を押します。詳細は、「模様の種類」(P.80)で説明します。
- 刺しゅう機が取り付けられているときは、他の画面が表示されます。詳細は、「刺しゅう模様の種類」(→P.154)で説明します。
※刺しゅう機は、EMU15シリーズではオプション品です。
- 液晶画面に表示されるメッセージについては、「液晶画面のメッセージ表示」(→P.184)を参照してください。
- 機種によっては、電源を入れるとアニメーションが表示されます。アニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れると上記の画面が表示されます。

ミシンの設定を確認・変更する

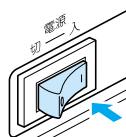
ミシンの機能やぬい方など、設定画面に表示される以下の項目を確認・変更することができます。操作のしかたは次ページで説明します。

項目	表示	内容	設定
針位置		ミシンがストップしたときの針の停止位置を切り替えます。	下 上
振幅 コントロール		スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を調節できるように設定します。(→P.112)	
模様調整 (たて)		模様がくずれたときに、模様を上下方向に調整します。	-9 ~ +9
糸色表示		刺しゅうの色替の糸色表示を切り替えます。(→P.155)	ブラザー刺しゅう糸番号/ カントリー糸番号/ ぬい時間/針数/糸色名
刺しゅう糸調子		刺しゅうのときの糸調子を調節します。	-8 ~ +8
刺しゅう 最高速度		刺しゅうのときの最高速度を切り替えます。	速く ゆっくり
ブザー		操作音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。(→P.187)	
オープニング画面		電源を入れたときのオープニング画面を表示するかしないかを設定します。 ● 設定できない機種もあります。	
基線切り替え		電源を入れたときに自動的に選択される直線模様を切り替えます。	左基線 中基線
言語		液晶画面に表示される言語を設定します。	日本語/ENGLISH/ DEUTSCH/FRANCAIS/ ITALIANO/NEDERLANDS/ ESPAÑOL/PORTUGUÉS/ OTHERS
画面調整		液晶画面の明るさを調整します。	明 暗
プロダクトNO.	—	ミシンのプロダクトナンバーを示します。	—
バージョン	—	ミシンにインストールされているプログラムのバージョンを示します。	—

お知らせ

- 上記の反転表示は購入時の初期設定です。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

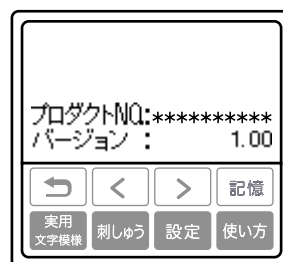
2 操作パネルの **設定** (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

3 設定を確認・変更します。

[<] (前ページキー) [] (次ページキー)
で画面を切り替えます。



【例】 針位置を上に変更する場合



4 終わったら、 (戻るキー)を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

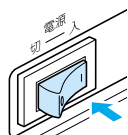
- 「プロダクトNO.」は、マシン固有の番号です。
- 「バージョン」はマシンにインストールされているプログラムのバージョンです。アップグレードについては、お近くの販売店または「マシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせいただくか、ブラザー工業のホームページ (<http://www.brother.co.jp>) で今後掲載される情報を参照してください。
- 変更した設定は、電源を切ってももとに戻りません。

ミシンの使い方を確認する

次の項目については、簡単な説明を液晶画面に表示させて確認することができます。

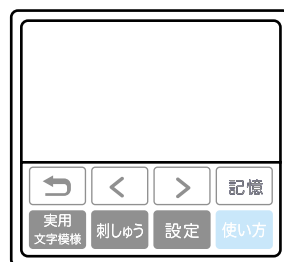
上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換

1 電源を入れます。



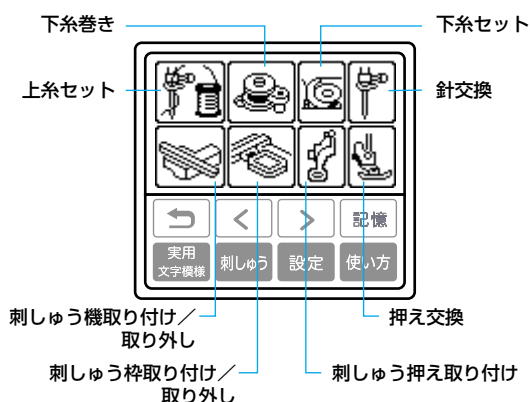
▶ 液晶画面が点灯します。

2 操作パネルの (使い方キー) を押します。



▶ 項目の選択画面が表示されます。

3 説明を表示させる項目のキーを押します。



▶ 最初の説明画面が表示されます。

お知らせ

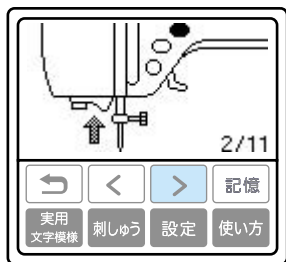
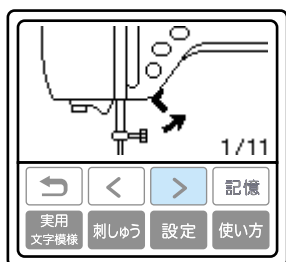
- EMU15 シリーズで刺しゅうをする場合は、別売りの刺しゅう機が必要です。

4 **>** (次ページキー) を押して、次の画面に切り替えます。

< (前ページキー) を押すと、前の画面に戻ります。

↩ (戻るキー) を押すと、項目の選択画面に戻ります。

【例】 上糸セットを押した場合



...



5 終わったら、**↩** (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

- 各項目についての詳細は、本取扱説明書で説明します。

糸をセットしましょう

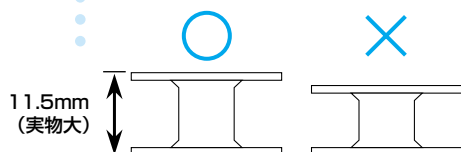
下糸用の糸を巻いたボビンをセットしたあと、上糸用の糸を通します。

下糸を巻く

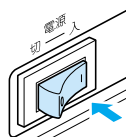
下糸用の糸をボビンに巻きます。糸こまとボビンを用意します。

！ 注意

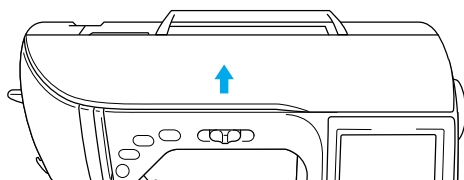
- 付属のボビンは本製品純正のものです。必ず付属品または純正ボビンを使用してください。他のボビンを使用すると、ケガや故障の原因となります。



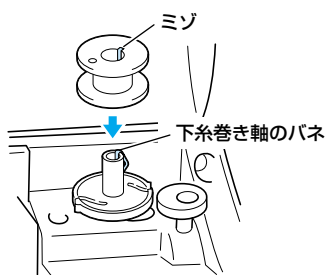
1 電源を入れます。



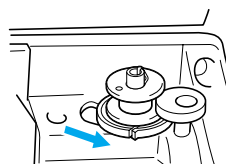
2 上ふたを開けます。



3 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。

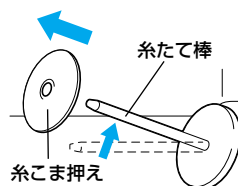


4 ボビンを右側へカチッと音がするまで押します。



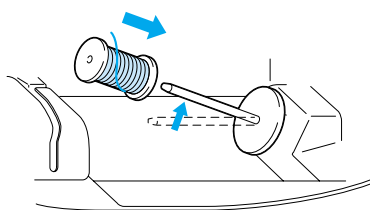
- ▶ (スタート/ストップスイッチ) が橙に点灯します。

5 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



6 下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

糸が手前から出るように差し込みます。

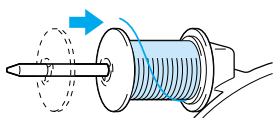


お知らせ

- 刺しゅうをするときは、ブラザー刺しゅう専用下糸を使用してください。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

7 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

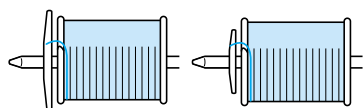
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



注意

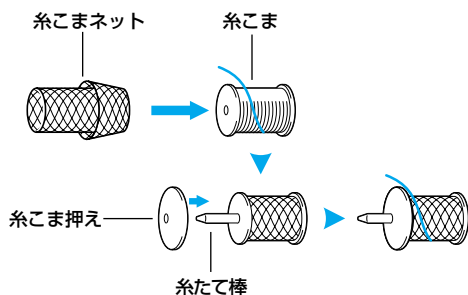


- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



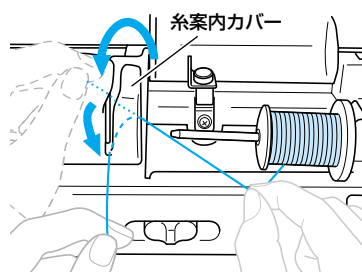
お願い

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。

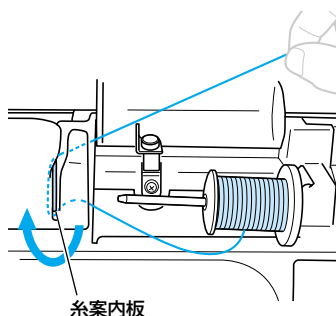


8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

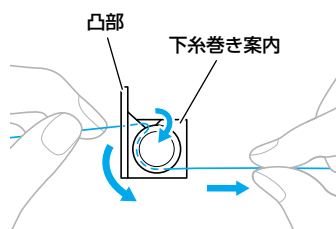
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



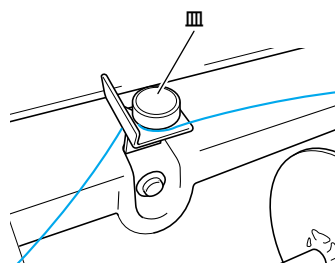
9 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



10 下糸巻き案内の凸部の下から糸をかけて、皿の下に通します。

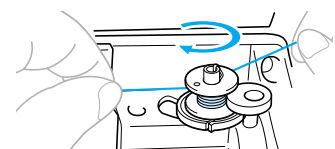


糸が皿の下に確実に通っていることを確認してください。



11 糸を時計まわりに4～5回ボビンに巻きつけます。

引き出した糸がたるまないように左手で持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。

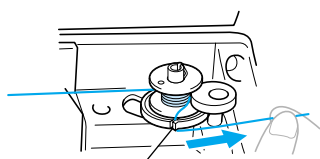


！ 注意



- 糸は、必ずピンと張った状態で時計回りに巻いてください。逆方向へ巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

- 12** 糸端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切りま
す。



ガイドミゾ (カッター付)

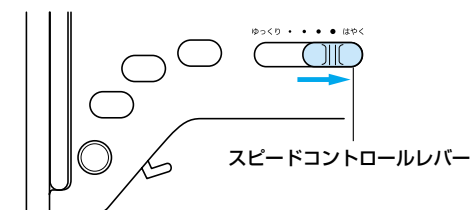
お知らせ

- カッターで糸を切ると糸の端がガイドミゾに固定されるため、下糸をきれいに巻くことができます。

！ 注意

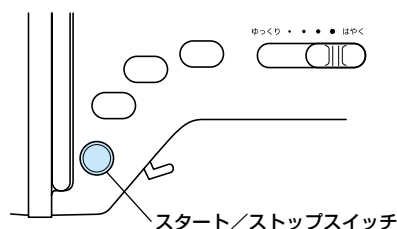
- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 13** スピードコントロールレバーを右側（はやく）へ動かします。



スピードコントロールレバー

- 14** (スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。



スタート/ストップスイッチ

- ▶ ボビンが回転して下糸巻きがスタートし、液晶画面に「下糸巻き中」と表示されます。

お知らせ

- (スタート/ストップスイッチ) を押しても下糸巻きがスタートしないときは、液晶画面にアニメーションが表示されています。指で液晶画面に触れてから、もう 1 回 (スタート/ストップスイッチ) を押してください。

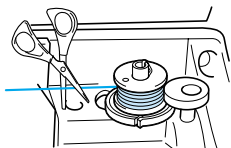
- 15** ボビンの回転がゆっくりになったら、(スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。

- ▶ 下糸巻きがストップします。

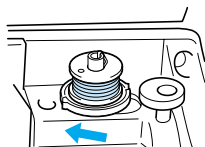
！ 注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。無理に続けると故障の原因となります。

- 16 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 17 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。



- 18 糸こま押えと糸こまを抜きます。

- 19 上ふたを閉めて、スピードコントロールレバーを左側（ゆっくり）へ戻します。



お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりフーリーを回したりすると、ガチャッという音がすることがありますが、故障ではありません。

下糸をセットする

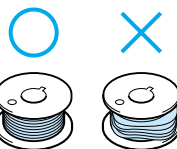
下糸を巻いたボビンをかまにセットします。



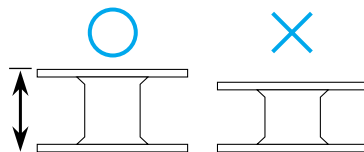
注意



- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 付属のボビンは本製品純正のものです。必ず付属品または純正ボビンを使用してください。

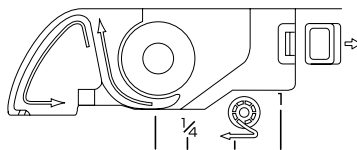


11.5mm
(実物大)

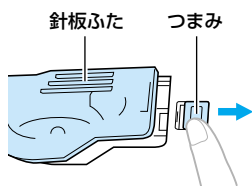


お知らせ

- ボビンのセットのしかたは、針板カバーにも表示されています。



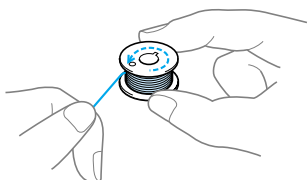
- 1 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせます。



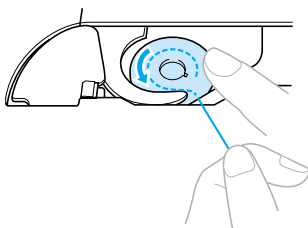
▶ 針板ふたが開きます。

- 2 針板ふたを取り外します。

- 3 糸が左巻きになるように右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。



- 4 右手でボビンをかまに入れます。

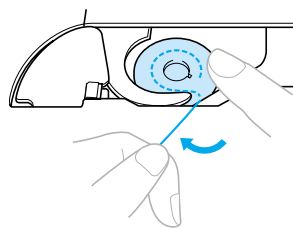


！ 注意

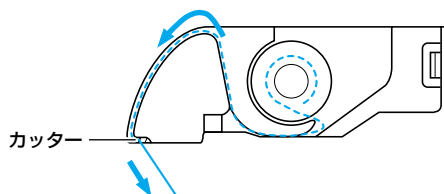


- ボビンをセットするときは、必ず指で押さえてください。ボビンが正しくセットされていないと、糸調子不良の原因となります。
- ボビンは、必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

- 5 右手でボビンを軽く押さえ、左手で糸を引きます。

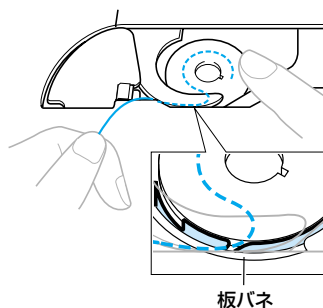


- 6 ミゾに沿って糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。



お願い

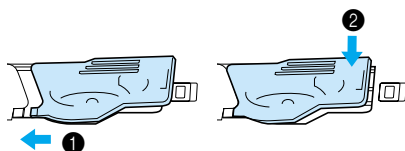
- 内かまの板バネの間に確実に糸が入っていることを確認してください。入っていない場合は、糸をかけ直してください。糸調子不良の原因となります。



板バネ

7 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



▶ 下糸のセットが完了します。

お知らせ

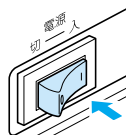
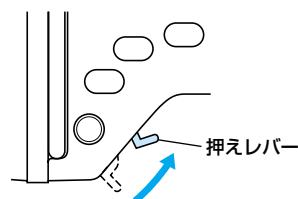
- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「上糸を通す」(→P.41)に従って上糸を通したあと、「下糸を引き出してからぬう」(→P.48)を参照してください。

上糸を通す

上糸用の糸こまをセットし、針に糸を通します。

！ 注意

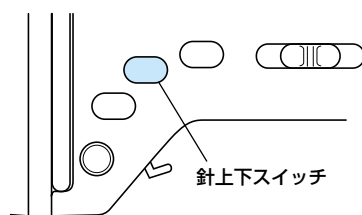
- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

1 電源を入れます。**2 押えレバーを上げます。**

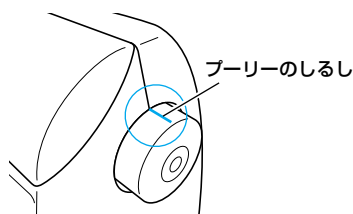
▶ 押えが上がります。

お知らせ

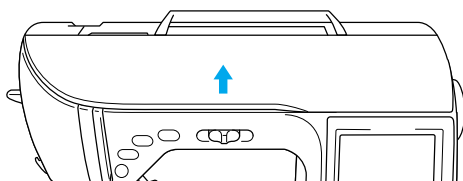
- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

3 (針上下スイッチ) を 1 回または 2 回押して、針を上げます。**お願い**

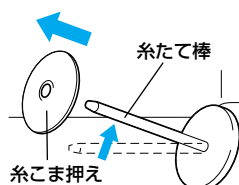
- 針が確実に上がっていないと、糸が針穴に通らないことがあります。必ず、(針上下スイッチ)を押して、針を一番上まで上げてください。
- 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが真上になります。必ず、プーリーのしるしが真上になっていることを確認してください。



4 上ふたを開けます。

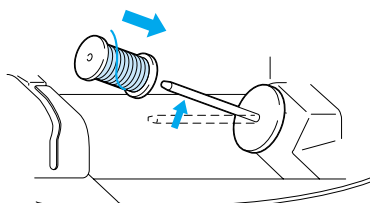


5 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



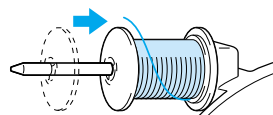
6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

糸が手前から出るように差し込みます。



7 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

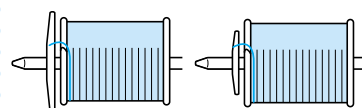
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



！ 注意

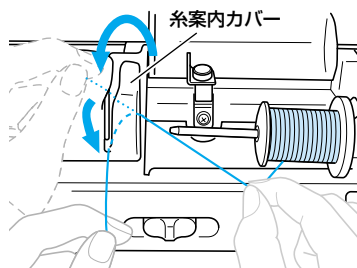


- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。

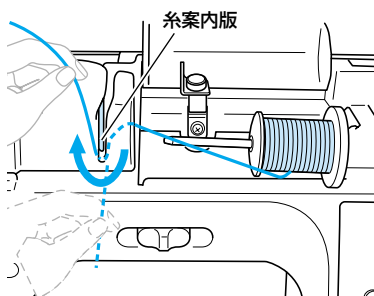


8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。

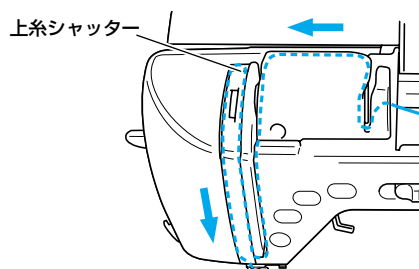


9 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



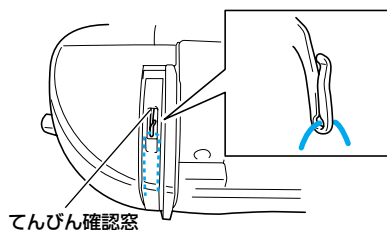
10 矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。

引き出した糸をたるまないように右手で持ち、左手で糸を通します。



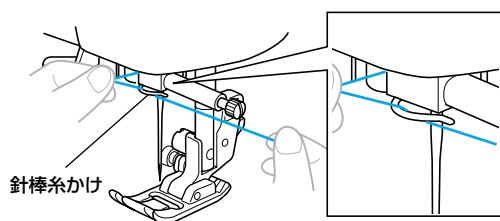
お願い

- 押えを上げると上糸シャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



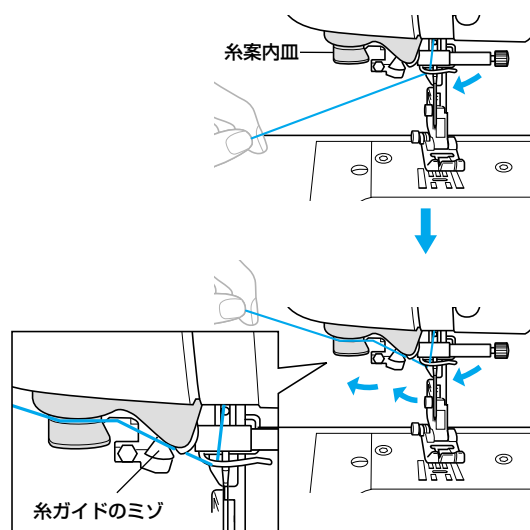
11 針棒糸かけに糸をかけます。

左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。

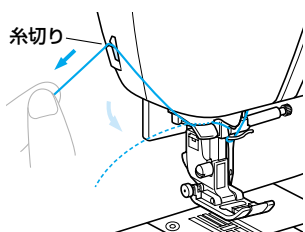


12 糸を左へ引いて、糸案内皿に糸をかけます。

糸が糸ガイドのミゾに確実に通っていることを確認してください。

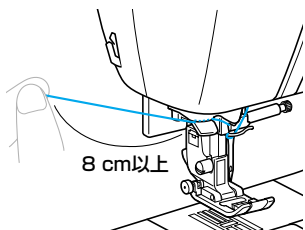


13 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。

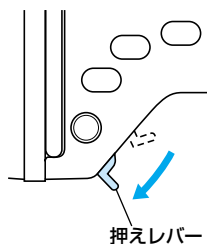


お願い

- 糸切りで糸がうまく切れないときは、押えを下げしてから切ってください。糸が固定されて切りやすくなります。糸を切ったあとは15に進んでください。
- メタリック糸などの張りの強い糸は、糸切りで切ると針穴に通りにくいことがあります。その場合は、糸切りを使用せずに、糸を糸案内皿から8cm以上引き出してから針穴に通してください。

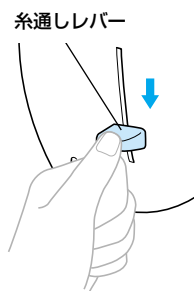


14 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

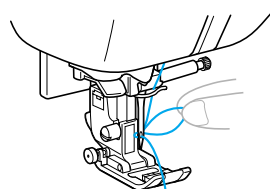
15 ミシン本体左側面の糸通しレバーをカチャッと音がするまで下げ、ゆっくりともとへ戻します。



▶ 針穴に糸が通ります。

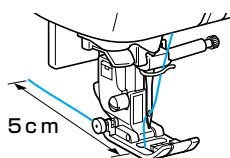
お知らせ

- 針穴に通った糸が輪になった場合は、輪の部分を持ってゆっくりと糸端を後ろ側へ引き出します。



- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- 20番以下の太い糸には、糸通し装置は使用できません。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、「手で針に糸を通すとき」(→P.45)を参照してください。

16 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。



17 上ふたを閉めます。

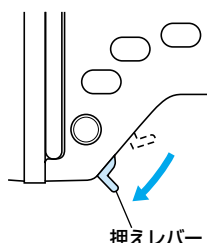
▶ 上糸通しが完了します。

■ 手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できない20番以下の太い糸や特殊な糸、ウィングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

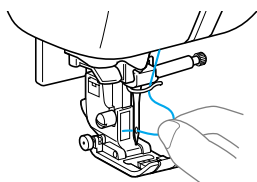
① 「上糸を通す」(→P.41)の①～⑪に従って、針棒糸かけまで上糸を通します。

② 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

③ 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



④ 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。

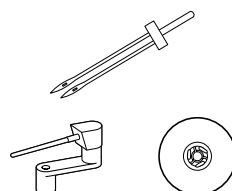
⑤ 上ふたを閉めます。

2本針を使う

2本針と補助糸たて棒を使用すると、2色の上糸で同じ模様を平行にぬうことができます。上糸は同質で同じ太さのものを用意します。

2本針が使用できる模様については、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

※2本針と補助糸たて棒は、EMU17シリーズではオプション品です。



⚠ 注意



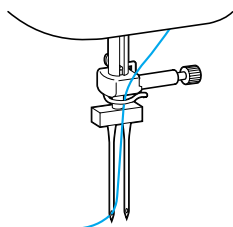
● 2本針は、必ずブラザー専用2本針を使用してください。他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。

● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

① 2本針を取り付けます。

● 針の取り付け方については、「針を交換する」(→P.50)で説明します。

- 2** 「手で針に糸を通すとき」の①～③に従って、1本目の上糸を左側の針に通します。

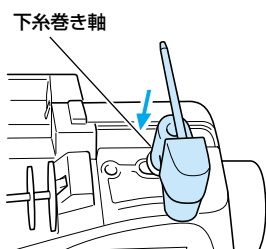


お知らせ

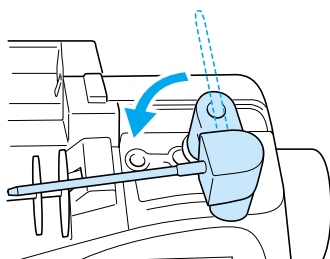
- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

- 3** 補助糸たて棒を下糸巻き軸に差し込みます。

下糸巻き軸に対して垂直になるように差し込みます。

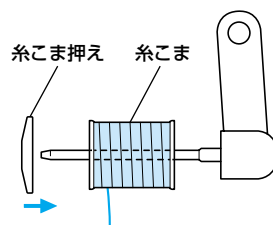


- 4** 補助糸たて棒を左側へ倒します。

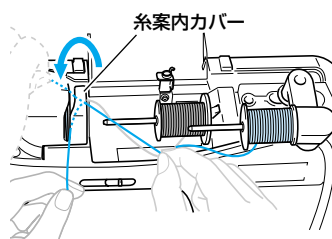


- 5** 2本目の上糸の糸こまと糸こま押えを補助糸たて棒に差し込みます。

糸が奥から出るように差し込みます。

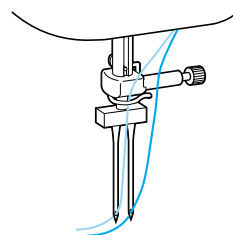


- 6** 1本目の上糸と同様に、2本目の上糸を通します。



- 7** 針棒糸かけにかけずに、2本目の上糸を手で右側の針に通します。

針穴の手前から奥へ通します。

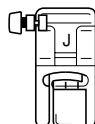


お知らせ

- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

8 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 押えの取り付け方については、「押えを交換する」(→P.52)で説明します。



！ 注意



- 2本針を使用するときは、必ずジグザグ押え<J>を使用してください。他の押えを使用すると、針折れや故障の原因となります。

9 電源を入れ、模様を選択します。

- 模様の選び方については、「模様を選ぶ」(→P.81)で説明します。
- 2本針が使用できる模様については、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

お願い

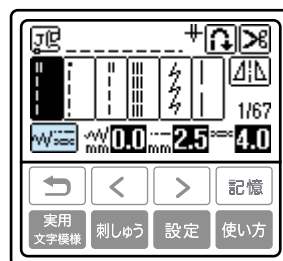
- ピンタック押え(別売り)で、2本針設定の直線ピンタックぬいをするときは、中基線を選択してください。

！ 注意



- 2本針を使用するときは、必ず2本針が使用できる模様を選択してください。2本針が使用できない模様を選択すると、針折れや故障の原因となります。

10 を押します。



- ▶ 糸と1本針/2本針の設定画面が表示されます。

11 を押します。

1本針/2本針の設定状態



- ▶ になり、1本針/2本針の設定状態の表示がに変わります。

12 (戻るキー) を押します。



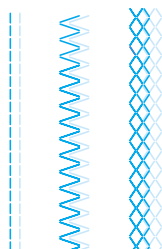
！ 注意



- 2本針を使用するときは、必ず2本針の設定をしてください。設定せずに2本針を使用すると、針折れや故障の原因となります。

13 ミシンをスタートさせます。

- 詳細は、「ミシンをスタートさせる」(→ P.62) で説明します。



お願い

- ぬう方向を変えるときは、 (針上下スイッチ) を押して針を布地から抜いてから、押えを上げて布地を回転させてください。



注意

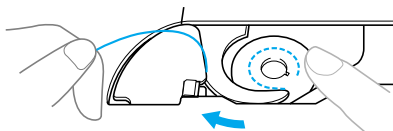
- 布地に 2 本針が刺さったまま布地を回転させると、針折れや故障の原因となります。

下糸を引き出してからぬう

ギャザーやフリーモーションキルトなどをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

- 1 「下糸をセットする」(→ P.39) の  ～  に従って、ボビンをかまに入れます。

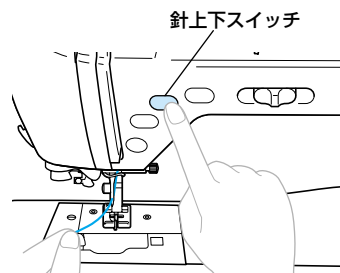
- 2 引き出した糸をミゾに沿って途中まで通します。



お願い

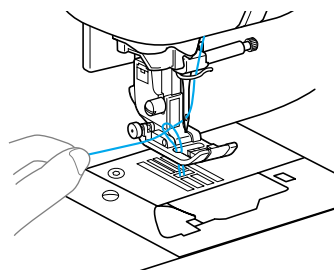
- カッターで糸を切らないでください。
- 針板ふたは取り外したままにしてください。

- 3 左手で上糸の端を軽く持ち、 (針上下スイッチ) を 1 回または 2 回押して、針を上げます。

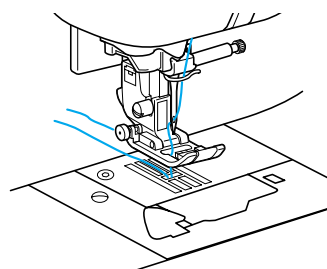


▶ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

- 4 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。

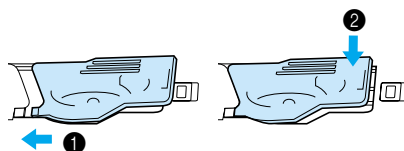


- 5 上糸を押えの間に通し、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ 10～15cm ほど引き出します。



- 6 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



針を交換する

！ 注意



- 針は必ず家庭用ミシン針（HA×1）を使用してください。他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

針の種類と使い分け

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選択してください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60～80	11～14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバシン	絹糸	50	
薄地	ローン	綿糸	60～80	9～11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50	
厚地	デニム	綿糸	30～50	14～16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツイード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60	ゴールデン針 11～14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50～80	9～14
		合繊糸		
		絹糸	50	
ステッチ糸の場合		合繊糸	50	14～16
		絹糸		

ゴールデン針

伸縮性のある布地や、目がとびやすい布地に使用します。

ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14～16 番の針を使用します。

刺しゅう用の針

家庭用ミシン針（HA×1）の 11 番を使用します。デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針（HA×1）の 14 番を使用します。

！ 注意



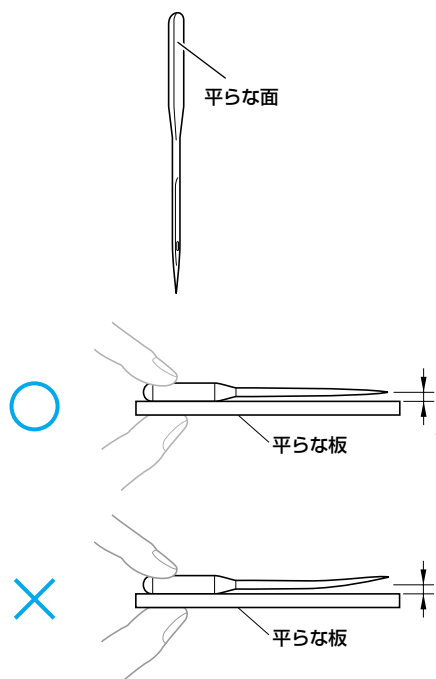
- 布地・糸・針の組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因となります。特に、厚い布地（デニム等）を細い針（9～11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お知らせ

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- 購入時は、11 番の針がミシンに取り付けられています。

■ 正しい針の見分け方

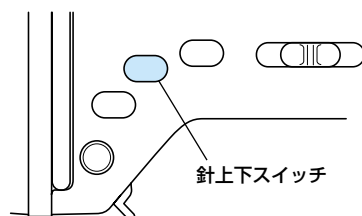
曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



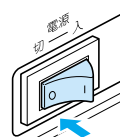
針を交換する

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- 1 (針上下スイッチ) を 1 回または 2 回押して、針を上げます。



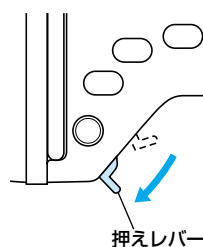
- 2 電源を切ります。



！ 注意

- 針は、必ず電源を切ってから交換してください。万一、(スタート/ストップスイッチ) が押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

- 3 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

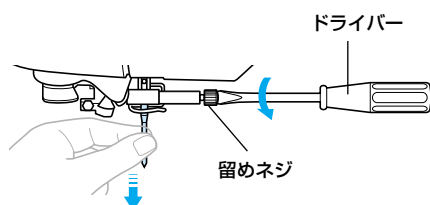
- 4** 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

お願い

- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

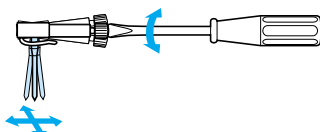
- 5** 針の留めネジをゆるめ、針を抜きます。

左手で針を持ち、右手でドライバーを手前に回します。



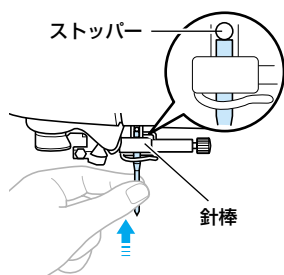
お願い

- 留めネジをしめたりゆるめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。



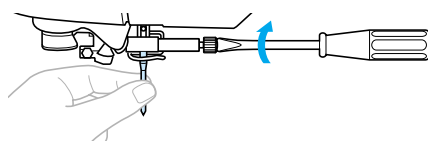
- 6** 新しい針の平らな面が後ろ側になるように、針を針棒に差し込みます。

針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。

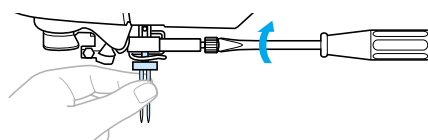


- 7** 針の留めネジをしめます。

左手で針を支え、右手でドライバーを奥に回します。



2本針を使用する場合も、同様に取り付けます。



注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーで留めネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換する

！ 注意



- 模様にあった押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず本製品専用の押えを使用してください。他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

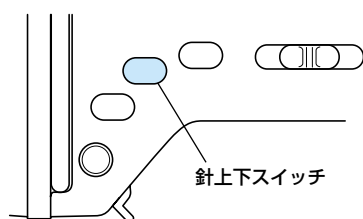


お知らせ

- 刺しゅう押え<Q>の取り付け方は、「刺しゅう押え<Q>を取り付ける」(→P.141)で説明します。
- 購入時は、ジグザグ押え<J>が取り付けられています。

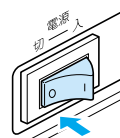
1

(針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



2

電源を切ります。



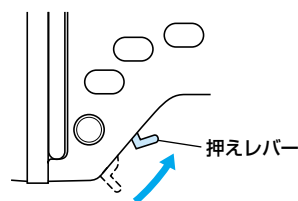
注意



- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、 (スタート/ストップスイッチ) が押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

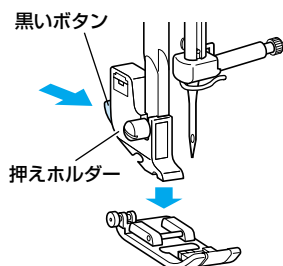
3

押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

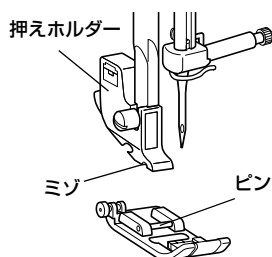
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



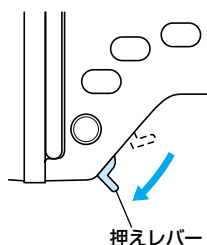
▶ 押えが押えホルダーから外れます。

- 5 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されている押え記号 (A・G・I・J・M・N・R) が読める向きに置きます。

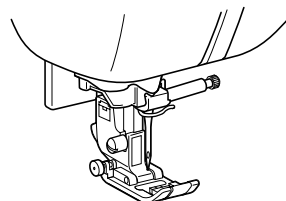


- 6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



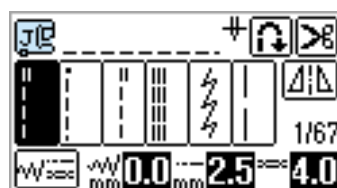
▶ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

- 7 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、手順に従って正しい押えを取り付けてください。



	ボタン穴かがり押え <A>
	たち目かがり押え <G>
	ジグザグ押え <J>
	ボタン付け押え <M>
	模様ぬい押え <N>
	まつりぬい押え <R>
	サイドカッター押え <S>

- 各模様で使用する押えについては、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

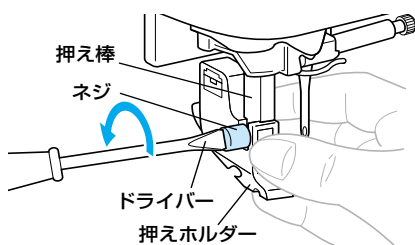
押えホルダーを取り外す

刺しゅう押え<Q>やウォーキングフットを使用するとき、またお手入れをするときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバーを用意します。

1 「押えを交換する」(→P.52)の手順に従って、押えを取り外します。

2 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



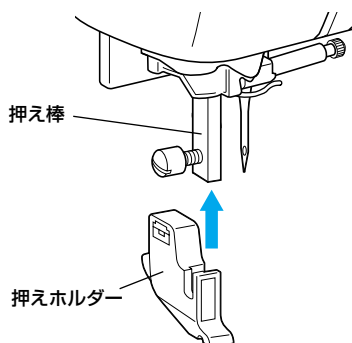
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 押えレバーを上げます。

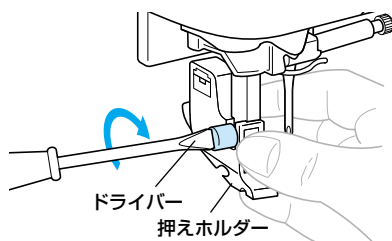
▶ 押えが上がります。

2 押えホルダーを押え棒に合わせます。



3 押えホルダーのネジをしめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前に回します。



お知らせ

- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

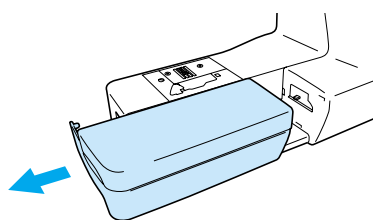
筒ものや大きなものをぬう

筒ものや大きなものをぬうときは、フリーアームにしたり、エクストラテーブルやワイドテーブルを使用したりすると便利です。

フリーアームにする

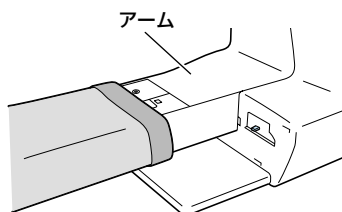
そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。

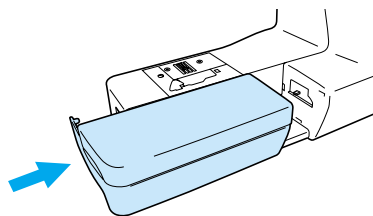


▶ フリーアームになります。

2 布地をアームに通し、布地を回しながらぬっていきます。



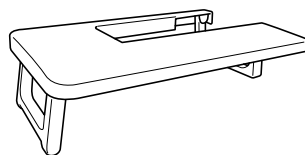
3 ぬい終わったら、補助テーブルをもとに戻します。



エクストラテーブルを使う

エクストラテーブルを使用すると、作業がしやすくなります。また、スカートなどの大きな筒ものをぬうときは、左脚をたたんだままにして、フリーアームにすることもできます。

※ EMU15 シリーズではオプション品です。

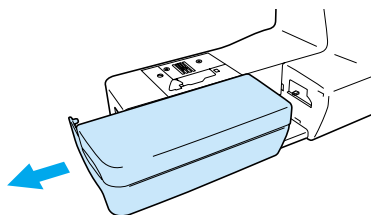


！ 注意



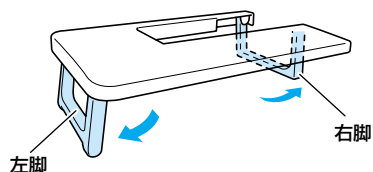
- エクストラテーブルを取り付けたままミシンを移動させないでください。破損やケガの原因になります。
- エクストラテーブルを、アイロン台などの他の目的に使用しないでください。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



2 エクストラテーブルの左右の脚を起こします。

右脚は、カチッと音がするまで起こします。

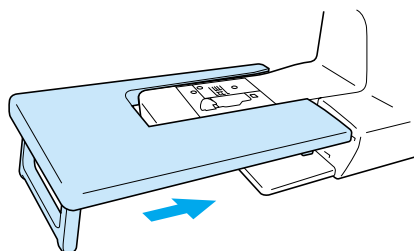


お知らせ

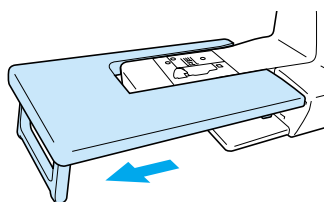
- フリーアームにするときは、右脚のみを起こします。

3 エクストラテーブルをミシン本体に取り付けます。

水平にして、ゆっくりと奥まで差し込みます。

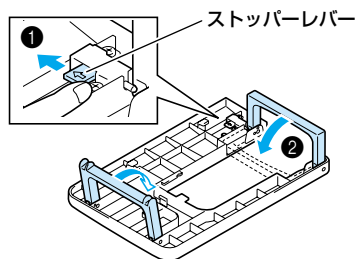


4 めい終わったら、エクストラテーブルを左へ引いて取り外し、補助テーブルをもとに戻します。



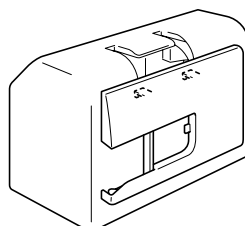
5 エクストラテーブルを裏返し、左右の脚を収納します。

右脚は、ストッパーレバーを矢印の方向へ押しながら収納します。



お知らせ

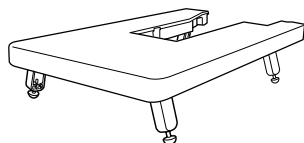
- エクストラテーブルは、脚を収納した状態でハードケースの背面に引っかけて保管することができます。



ワイドテーブルを使う

大きな作品をぬうときは、ワイドテーブルを使用して作業スペースを広げます。

※ EMU17シリーズではオプション品です。

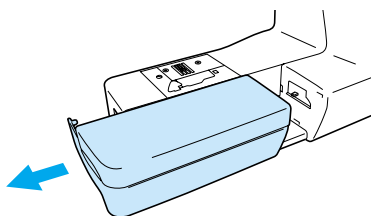


！ 注意



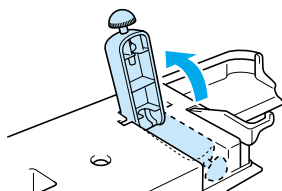
- ワイドテーブルを取り付けたままミシンを移動させないでください。破損やケガの原因になります。
- ワイドテーブルを、アイロン台などの他の目的に使用しないでください。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



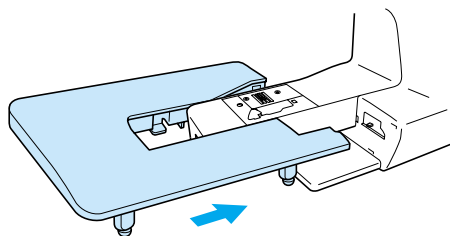
2 ワイドテーブル裏面の脚を起こします。

4本の脚をカチッと音がするまで起こします。

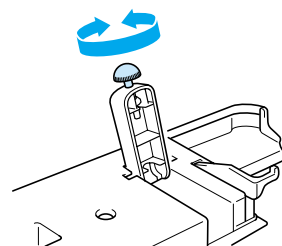


3 ワイドテーブルをミシン本体に取り付けます。

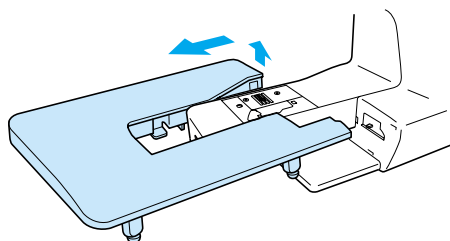
水平にして、ゆっくりと奥まで差し込みます。



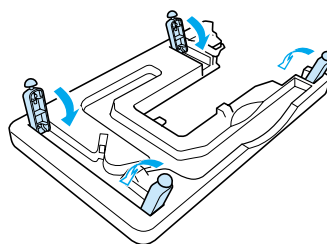
4 脚の先端のゴム足を回して高さを調節します。



5 めい終わったら、ワイドテーブルを左へ引いて取り外し、補助テーブルをもとに戻します。



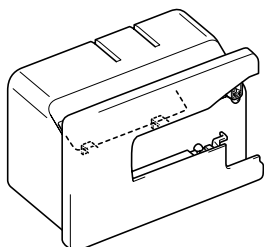
6 ワイドテーブルを裏返し、4本の脚を収納します。





お知らせ

- ワイドテーブルは、脚を収納した状態でハードケースの前面に引っかけて保管することができます。





ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう	60
ぬい目を調節する	68
便利な機能	70
上手にぬうコツ	74

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。

！ 注意



● ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



● 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。ケガや針折れの原因となります。



● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

● 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ソーイングの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1 電源「入」

ミシンの電源を入れます。
「電源を入れる」(→P.29)を参照してください。



2 模様の選択

ぬう箇所に合わせて模様を選択します。
「模様を選ぶ」(→P.81)で説明します。



3 押えの取り付け

模様に合った押えを取り付けます。(必ず電源スイッチを切ってから、押えを交換してください。)
「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



4 布地のセット

ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。
「布地をセットする」(→P.61)で説明します。



5 スタート

ミシンをスタートさせます。
「ミシンをスタートさせる」(→P.62)で説明します。



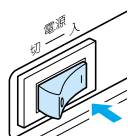
6 糸切り

ぬい終わりの糸を切ります。自動で切ることもできます。
「糸を切る」(→P.66)で説明します。

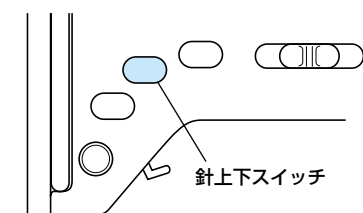
布地をセットする

布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



2 針上下スイッチ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上上げます。



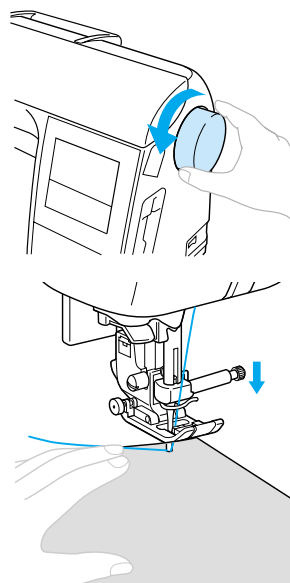
3 押えの下に布地を置きます。



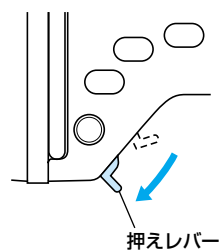
お知らせ

- めいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

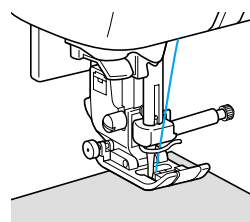
4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。



5 押えレバーを下げます。



▶ 布地がセットできました。



ミシンをスタートさせる

準備ができたらミシンをスタートさせます。操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) または付属のフットコントローラーで操作します。

お知らせ

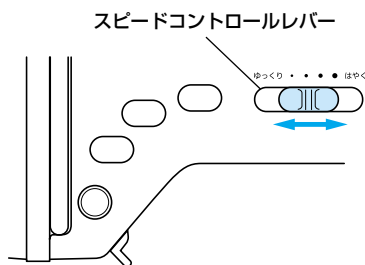
- フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、 (スタート/ストップスイッチ) は使用できません。

■ 操作スイッチを使う

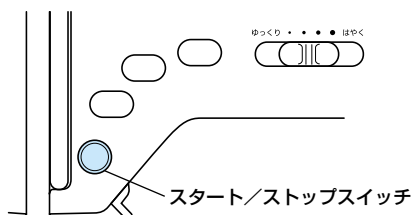
操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) を指で押して操作します。

① スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

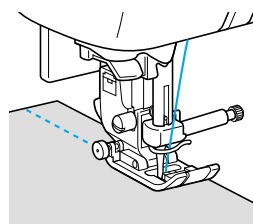


② (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。



▶ ミシンがスタートします。

ぬい始めと  (スタート/ストップスイッチ) を押している間は、ゆっくり進みます。



③ ぬい終わりの位置まできたら、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

▶ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンがストップします。

お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31) を参照してください。

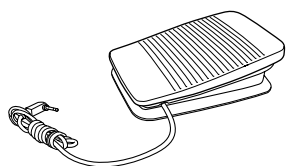
④ (針上下スイッチ) を押して、針を上げます。

⑤ 糸を切ります。

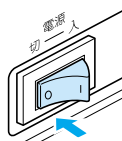
- 「糸を切る」(→P.66) で説明します。

■ フットコントローラーを使う

付属のフットコントローラーをミシン本体に接続して、足で踏んで操作します。



① 電源を切ります。

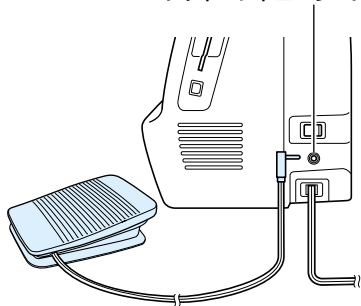


お願い

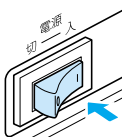
- フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。

② ミシン本体右側面のフットコントローラーjackに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

フットコントローラーjack



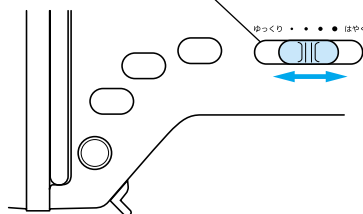
③ 電源を入れます。



④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調節します。

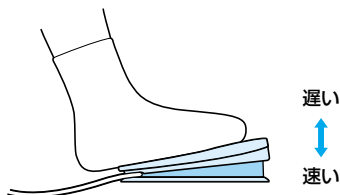
左に動かすと最高速度が遅くなり、右に動かすと最高速度が速くなります。

スピードコントロールレバー



⑤ めう準備ができれば、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

浅く踏むと遅く、深く踏み込むと速くなります。



▶ ミシンがスタートします。

⑥ めい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を放します。

▶ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンがストップします。



お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31)を参照してください。

⑦ (針上下スイッチ)を押して、針を上げます。

⑧ 糸を切ります。

- 「糸を切る」 (→ P.66) で説明します。

！ 注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガや故障の原因となります。
- 長期間使用しないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災や感電の原因となります。

返しぬい／止めぬいをする

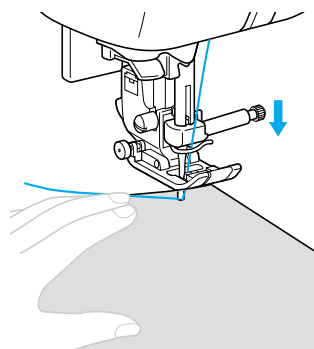
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように返しぬいまたは止めぬいをします。

■ 返しぬいをする

返しぬいは、1 . 3 . 7 の模様に設定されています。

ここでは、直線ぬいの場合を例に説明します。

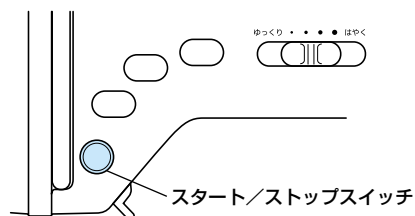
1 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



2 (スタート／ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

(スタート／ストップスイッチ) の場合は、スイッチを押したままにすると、ゆっくりと進みます。

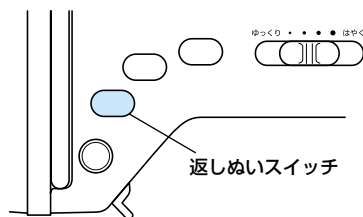
- 詳細は、「ミシンをスタートさせる」 (→ P.62) を参照してください。



▶ ミシンがスタートします。

3 3～5針ほどぬったら、 (返しぬいスイッチ) を押します。

ぬい始めの位置に戻るまで (返しぬいスイッチ) を押したままにします。



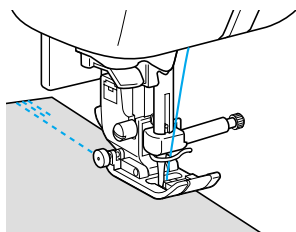
▶  (返しぬいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。

4 ぬい始めの位置まで戻ったら、 (返しぬいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンがストップします。

5 (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

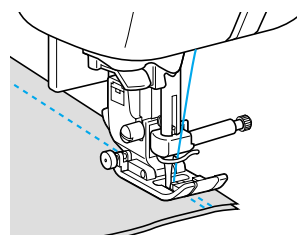
▶ 通常の向きに針が進みます。



6 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を押します。

3～5針戻るまで (返しぬいスイッチ) を押したままにします。

▶  (返しぬいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。



7 3～5針ほどぬったら、 (返しぬいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンがストップします。

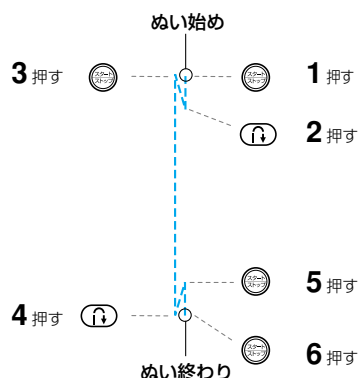
8 (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

 (スタート/ストップスイッチ) の場合は、スイッチを押したままにすると、ゆっくりと進みます。

▶ 通常の向きに針が進みます。

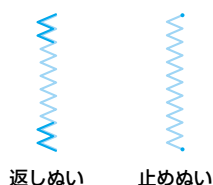
9 ぬい終わりの位置まできたら、ミシンをストップさせます。

 (スタート/ストップスイッチ) を押すか、フットコントローラーから足を放します。



■ 止めぬいをする

1  . 3  . 7  以外の模様で①(返しぬいスイッチ)を押すと、止めぬいになります。スイッチを押したままにすると、同じ場所で3～5針重ねてぬって止まります。



返しぬい

止めぬい

お知らせ

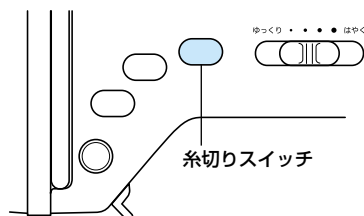
- 返しぬい／止めぬいを自動で行うこともできます。「自動で返しぬい／止めぬいをする」(→P.70)を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら、糸を切ります。操作スイッチの (糸切りスイッチ)またはミシン本体左側面の糸切りを使用します。

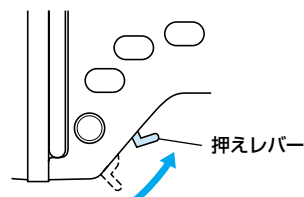
■ 操作スイッチを使う

- ① ぬい終わりの位置で、 (糸切りスイッチ)を1回押します。



- ▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

- ② 押えレバーを上げて、布地を取り出します。



！ 注意



- 糸を切ったあとに、 (糸切りスイッチ)を押さないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。
- 布地が押えの下にないときや、ミシンが動いているときは (糸切りスイッチ)を押さないでください。故障の原因となります。

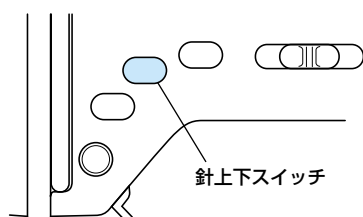
お知らせ

- ぬい終わりに自動的に糸を切るように設定することもできます。「自動で糸を切る」(→P.71)で説明します。

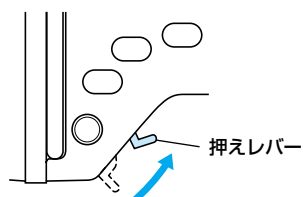
■ 糸切りを使う

30番よりも太い糸やナイロン糸、メタリック糸などの特殊な糸は、ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。

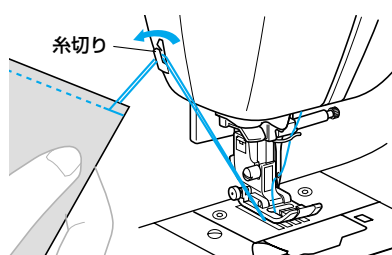
- ① ぬい終わったら、ミシンをストップさせ、 (針上下スイッチ) を1回押して、針を上げます。



- ② 押えレバーを上げます。



- ③ 布地を左へ引き、ミシン本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



ぬい目を調節する

ジグザグの振幅やぬい目の長さ、糸調子（上糸と下糸の強さのバランス）は、あらかじめ模様ごとの適切な数値に設定されています。必要に応じて設定を変更するときは、液晶画面の  を押したあと、次の説明に従って操作してください。

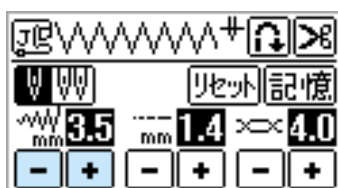


お知らせ

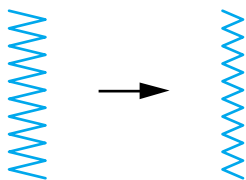
- 思い通りに糸調子を調節できないときは、「困ったとき」(→P.180)を参照してください。
- 模様によって、変更できない設定もあります。詳細は、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。
- 設定を変更したあとに、ミシンの電源を切ったり他の模様を選択したりすると、もとの数値に戻ります。設定を記憶させておきたいときは、「模様の設定を記憶させる」(→P.72)を参照してください。

模様の幅を調節する

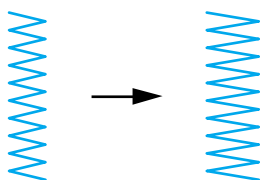
模様の幅（ジグザグの振幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



振幅の  を押すごとに、模様の幅（ジグザグの振幅）がせまくなります。



振幅の  を押すごとに、模様の幅（ジグザグの振幅）が広がります。



 を押すと、もとの数値に戻ります。

お知らせ

-  と表示されているときは、設定を変更することができません。
- 直線模様（直線 [左]、三重ぬい、しつけなど）を選択した場合は、模様の幅を変更すると針の位置が移動します。振幅の  を押すと針は右に移動し、 を押すと左に移動します。
- ぬいながらスピードコントロールレバーで模様の振幅を調節できるように設定することができます。「振幅コントロールを使ったサテンぬい」(→P.112)を参照してください。

！ 注意

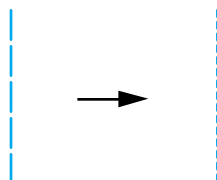
- 振幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

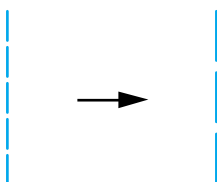
ぬい目の長さをあらくしたり細くしたりすることができます。



ぬい目の長さの $\boxed{-}$ を押すごとに、ぬい目が細くなります。



ぬい目の長さの $\boxed{+}$ を押すごとに、ぬい目があらかくなります。



$\boxed{\text{リセット}}$ を押すと、もとの数値に戻ります。



お知らせ

- $\boxed{\text{リセット}}$ と表示されているときは、設定を変更することができません。



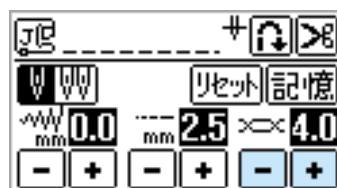
注意



- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さを長くしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

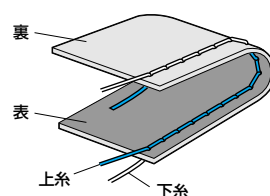
糸調子を調節する

糸調子が合わないときや、特殊な糸や素材を使用するときは、上糸の調子を調節します。



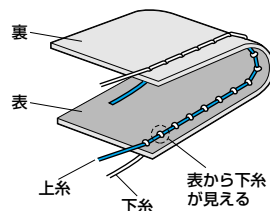
正しい糸調子

上糸と下糸が布地の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸のみが見えます。



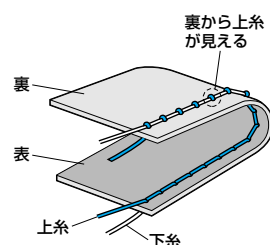
上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えます。 $\boxed{-}$ を押して、上糸を弱くします。



上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見えます。 $\boxed{+}$ を押して、上糸を強くします。



$\boxed{\text{リセット}}$ を押すと、もとの数値に戻ります。



お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

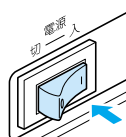
便利な機能

ここでは、役に立つ便利な機能を説明します。

自動で返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりに、自動で返しぬいまたは止めぬいをするように設定します。
詳細は、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

1 電源を入れます。

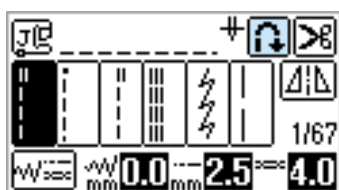


▶ 液晶画面が点灯します。

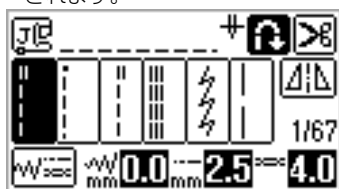
2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

3 を押します。



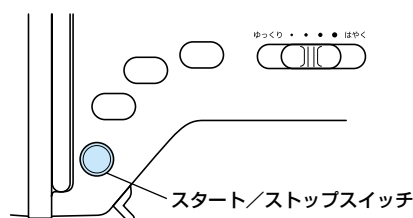
▶ になり、自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



お知らせ

- 自動返しぬい／止めぬいを解除するときは、を押します。
- 電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。

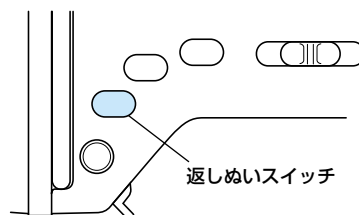
4 布地をセットし、 (スタート／ストップスイッチ) を1回押します。



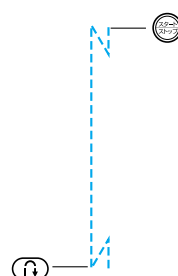
▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ミシンがストップします。



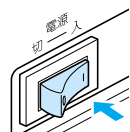
お知らせ

- ぬっている途中で、 (スタート／ストップスイッチ) を押したときは、自動で返しぬい／止めぬいはしません。ぬい終わりで (返しぬいスイッチ) を押してください。

自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。プログラム糸切りを設定すると、自動返しぬい／止めぬいと一緒に設定されます。

1 電源を入れます。

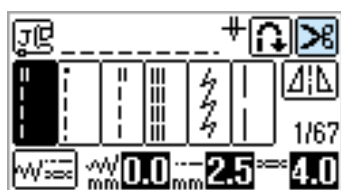


▶ 液晶画面が点灯します。

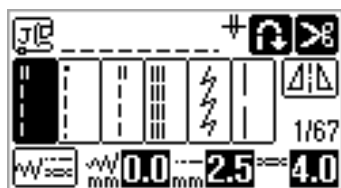
2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

3 を押します。



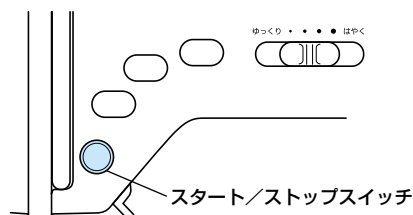
▶   になり、プログラム糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



お知らせ

- プログラム糸切りを解除するときは、を押します。

4 布地をセットし、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

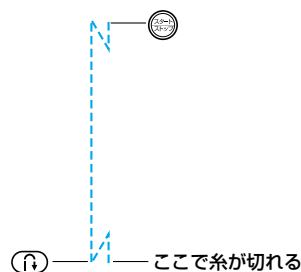


▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。



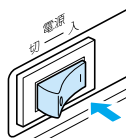
お知らせ

- ぬっている途中で、 (スタート/ストップスイッチ) を押したときは、プログラム糸切りは行われません。ぬい終わりで (返しぬいスイッチ) を押してください。
- 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

模様を反転させる

模様を左右反転させてぬうことができます。

1 電源を入れます。

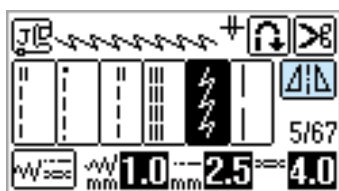


▶ 液晶画面が点灯します。

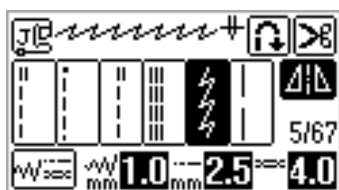
2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

3 を押します。



▶  になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



お知らせ

- 反転を解除するときは、 を押します。
- ボタン穴かがりなど、模様を選択したときに  と表示される模様は反転させられません。
- 電源を切ると、反転は解除されます。

模様の設定を記憶させる

ジグザグの振り幅やぬい目の長さ、糸調子、自動糸切りや自動止めぬいは、あらかじめ模様ごとに設定されています。実用模様では、これらの設定を変更して記憶させることができます。

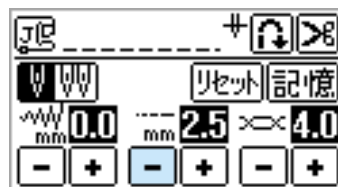
【例】直線のぬい目の長さを、いつも 2.0mm でぬう場合

1 直線模様を選択します。

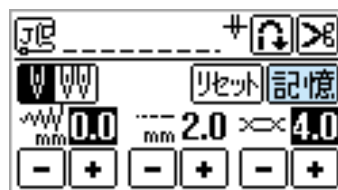
2 を押します。

▶ ぬい目の長さが 2.5mm に設定されています。

3 ぬい目の長さを 2.0mm に変更します。



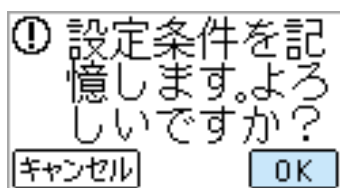
4 を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

お知らせ

- もとの設定に戻すときは、 を押したあと、 を押します。

5 **OK**を押します。

- ▶ 次に同じ直線模様を選択すると、ぬい目の長さが2.0mmに設定されます。

お知らせ

- ぬい目の長さ以外の、ジグザグの振幅や糸調子、自動糸切りや自動止めぬいなどの設定も記憶します。
- 自動糸切りや自動止めぬいの設定を変更した場合、**リセット**を押してももとの設定に戻りません。

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ソーイングをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

本製品は、模様を選択すると、自動的に適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

試しぬいは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

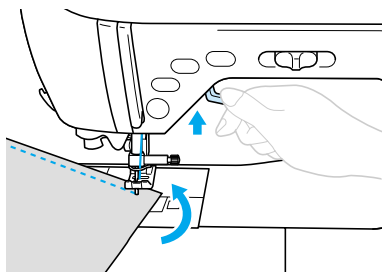
ぬう方向を変える

- 1 角までぬったら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

- 2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

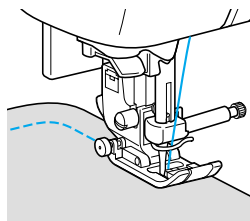
針位置を基点に回転させます。



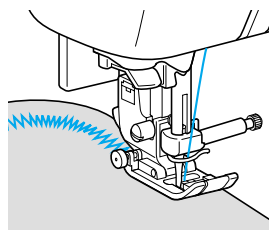
- 3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しずつ向きを変えてぬいます。「ぬいしろの幅をそろえる」（→P.76）を参考に、ぬいしろと平行になるようにぬいます。



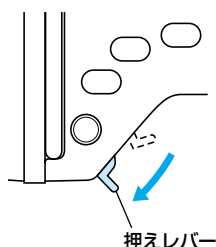
ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。



押え圧を調節する

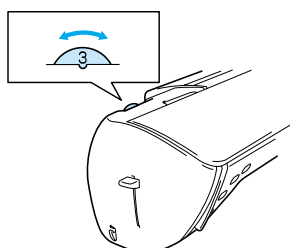
押え圧（押えが布地を押さえる強さ）を調節することができます。伸びる布地や薄地を使用するときは弱く、厚地を使用するときは強くすると、きれいに仕上がります。

1 押えレバーを下げます。



2 ミシン本体背面の押え圧ダイヤルを回して、押え圧を調節します。

押え圧は1～4の4段階で調節します。数字が小さいほど弱く、大きいほど強くなります。

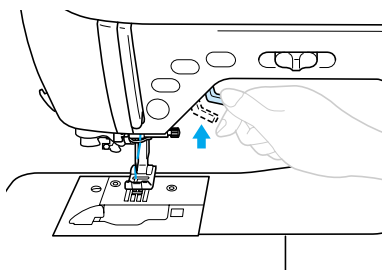


3 ぬい終わったら、ダイヤルを3（標準）に戻します。

厚い布地をぬう

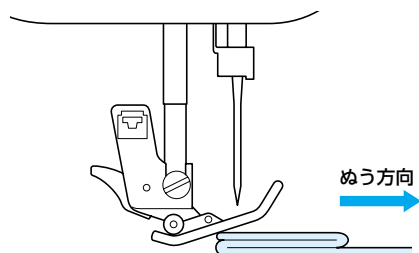
■ 押えの下に布地が入らないとき

押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



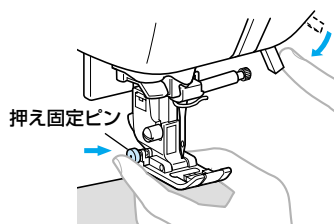
■ ぬい始めに段差があって布地が送られないとき

ジグザグ押え<J>には、押えを水平にする機能が付いています。

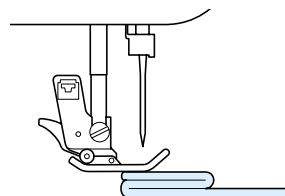


1 押えレバーを上げます。

2 ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタン（押え固定ピン）を押したまま、押えレバーを下げます。



▶ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



▶ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

！ 注意

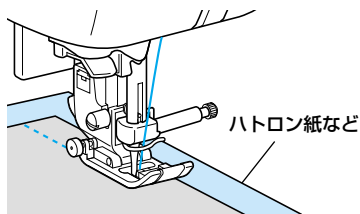


- 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

薄い布地をぬう

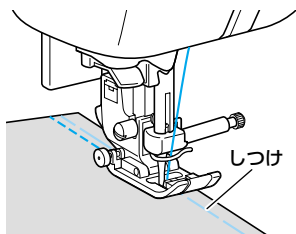
薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

その場合は布地の下にハترون紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。



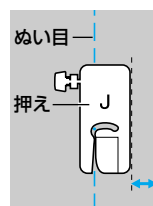
また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

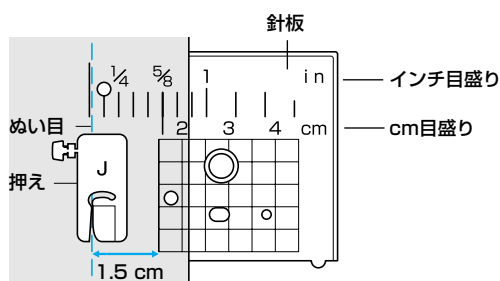
■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。



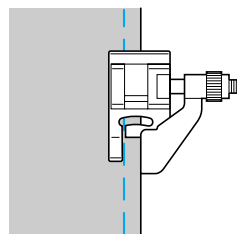
■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ (約 3mm) 単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。



■ ガイド付まつりぬい押えを使用する

別売りのガイド付まつりぬい押えは、ガイドの幅を変更して布端をガイドに合わせてぬうと、ぬいしろの幅をそろえてぬうことができます。



ニーリフターを使う (EMU15シリーズのみ)

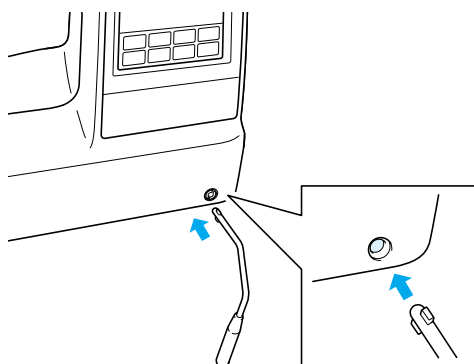
ニーリフターを使用すると、ひざで押えを上げ下げすることができます。キルトなどをぬうときに、両手があき作業がしやすくなります。

※ EMU17シリーズには使用できません。

※ 購入時は、ワイドテーブルの裏面に取り付けられています。

1 ニーリフター差し込み口にニーリフターを差し込みます。

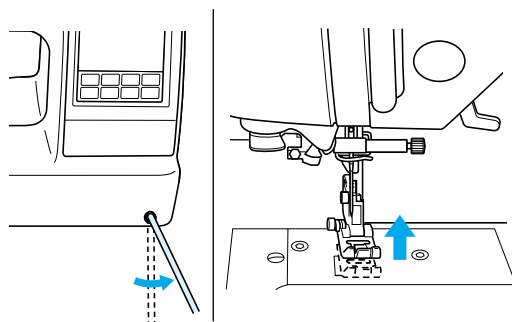
ニーリフターのタブを差し込み口のミゾに合わせて、奥までしっかりと差し込みます。



お願い

- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

2 押えを上げるときは、ニーリフターをひざで右に押します。押えを下げるときは、ニーリフターからひざを放します。



! 注意



- ニーリフターをひざで押したまま、ミシンをスタートさせないでください。針折れや糸調子不良の原因となります。

3

いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬい方を選びましょう	80
ぬいしろを始末する	85
地ぬいをする	89
すそ上げをする	91
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける	93
ファスナーを付ける	100
伸びる布地やゴムテープをぬう	105
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	107
丈夫にしたいところをぬう	114
はとめ穴を作る	119
飾りぬいをする	120
いろいろな模様をぬう	128

ぬい方を選びましょう

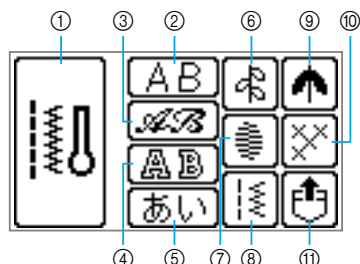
ぬう模様を選択します。

模様の種類

模様は、実用模様・飾り・サテンステッチ・実用飾り模様・クロスステッチ・飾りサテン・アルファベット3種類・ひらがな／カタカナの10グループの模様があります。

模様の種類は、操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

 (実用／文字模様キー) を押すと、次の画面が表示されます。



① 実用模様

直線やたち目かがり、ボタン穴かがりなど、67種類の実用模様があります。

② アルファベット（ゴシック体）

ゴシック体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

③ アルファベット（筆記体）

筆記体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

④ アルファベット（アウトライン）

アウトライン（白抜き文字）のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

⑤ ひらがな／カタカナ

ひらがなやカタカナ、記号、数字、漢字など204文字あります。

⑥ 飾り

葉や花、ハートなど、31種類の飾り模様があります。

⑦ サテンステッチ

16種類のサテンステッチがあります。

⑧ 実用飾り模様

模様を組み合わせることができる39種類の実用模様があります。

⑨ 飾りサテン

10種類の飾りサテンがあります。

⑩ クロスステッチ

5種類のクロスステッチがあります。

⑪ ミシンに記憶させた模様の呼び出し

よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出してぬうことができます。10組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→P.133)を参照してください。

模様を選ぶ

液晶画面を操作して模様を選択します。
電源を入れたときは、自動的に直線〔左〕が選択されています。直線〔中〕が選択されるように設定することもできます。詳細は、「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31)を参照してください。

1 使用する模様に合った押えを用意します。

- 操作早見表の「模様一覧」を参照してください。

2 押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

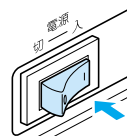
お知らせ

- 購入時は、ジグザグ押え<J>が取り付けられています。

！ 注意

- 模様合った押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

3 電源を入れます。

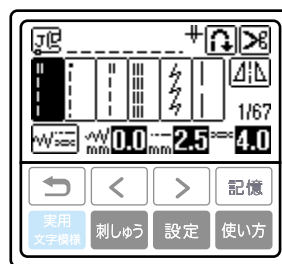


▶ 直線〔左〕が選択されます。

お知らせ

- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れてください。
- 電源を入れると、実用模様の選択画面が表示されます。実用模様を選択するときは6へ進んでください。

4 操作パネルの^{実用}文字模様(実用／文字模様キー)を押します。



▶ 模様グループの選択画面が表示されます。

5 模様グループを選択します。

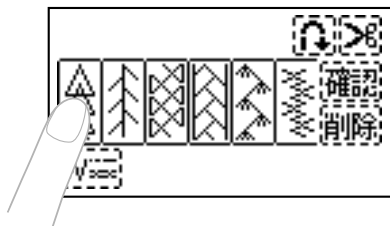
〔例〕 飾り模様を選択する場合



▶ 模様の選択画面が表示されます。

6 模様を選択します。

[<] (前ページキー) で前の画面、[>] (次ページキー) で次の画面が表示されます。



お知らせ

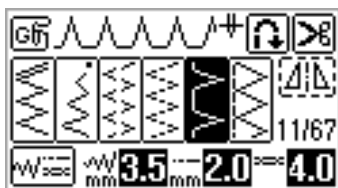
- 他の模様を選択するときは、[削除]を押して選択した模様を消去します。
- [↩]を押すと、模様グループの選択画面に戻ります。

7 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。

- 自動返しぬい／止めぬいなどの設定については、「便利な機能」(→P.70) を参照してください。
- 振り幅・ぬい目の長さ・糸調子設定の設定については、「ぬい目を調節する」(→P.68) を参照してください。



実用模様を選択したときは、模様の番号と振り幅・ぬい目の長さ・糸調子が表示されます。



お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、「押えを交換する」(→P.52) の手順に従って正しい押えを取り付けてください。

■ アルファベットを選ぶ

アルファベットは3書体内蔵されています。文字の選び方はどの書体でも同じです。

- 1 「模様を選ぶ」(→P.81) の①～④に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

- 2 書体を選択します。



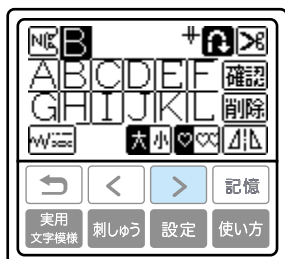
- 3 文字を選択します。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、[削除]を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 書体を変えるときは、[↩]を押してから新しい書体を選択します。
- [確認]を押すと、選択した模様を確認することができます。

【例】「BUS」を選択する場合



■ ひらがな／カタカナを選ぶ

① 「模様を選ぶ」(→ P.81) の①～④に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

② あいを押します。



③ 文字を選択します。

行を選択してから文字を選択します。

あアを押すと、ひらがな／カタカナが切り替わります。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、削除を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 確認を押すと、選択した模様を確認することができます。

【例】「一年かとう」を選択する場合

た ち っ っ と と 確 認
た ち っ っ と と 削 除
w 小 心 大 小

← < > 記憶
実用 刺しゅう 設定 使い方
文字模様

The screenshot shows the Japanese input method interface. At the top, the text '11月11日' (November 11th) is displayed. Below it, the input '11月11日' is shown. The main input area contains the text 'あいうえお' (a i u e o). The character 'あ' is highlighted in blue. To the right of the input area, there are buttons for '確認' (Confirm), '削除' (Delete), and '変換' (Convert). Below the input area, there are buttons for '変換' (Convert), '変換' (Convert), '変換' (Convert), and '変換' (Convert). At the bottom, there are buttons for '変換' (Convert), '変換' (Convert), '変換' (Convert), and '変換' (Convert).



ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で15 模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

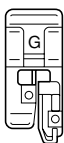
たち目かがり押え <G> を使ったたち目かがり

次の3 模様を選択したときは、たち目かがり押え <G> を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	11 	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5～5.0	2.0	1.0～4.0	G
	12 	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0		2.5		
	13 						

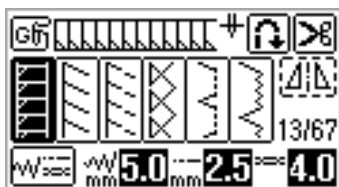
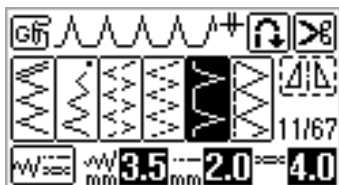
1 たち目かがり押え <G> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。

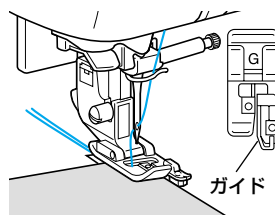


2 模様を選択します。

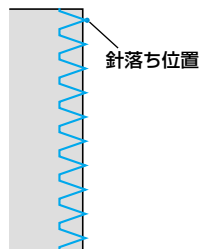
- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



3 押えのガイドと布端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布端を押えのガイドに沿わせてぬいます。



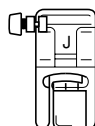
ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり

次の7模様を選択したときは、ジグザグ押え<J>を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ [中]	7 	通常のほつれ止め（中基線／返しぬい）	3.5	0.0～7.0	1.4	0.0～4.0	J
ジグザグ [右]	8 	通常のほつれ止め（右基線／止めぬい）		2.5～5.0		0.3～4.0	
2点ジグザグ	9 	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5～7.0	1.0	0.2～4.0	
3点ジグザグ	10 						
たち目かがり	14 	伸びる布地のほつれ止め		0.0～7.0	2.5	0.5～4.0	
	15 	厚地・伸びる布地のほつれ止め					
		16 	伸びる布地のほつれ止め		4.0	4.0	

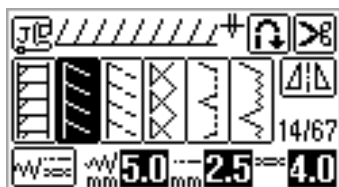
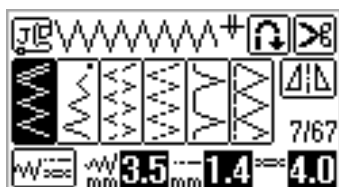
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

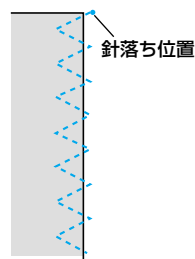
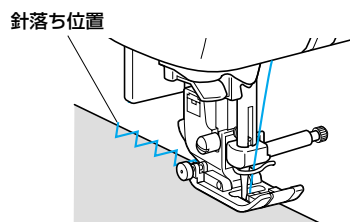


2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



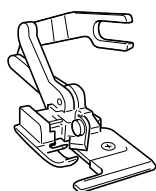
3 布端より少し外側に針を落としてぬいます。



サイドカッター押え<S>を使ったたち目かがり

別売りのサイドカッター押え<S>を使用して、布端を切りながらぬいしろを始末することができます。液晶画面で模様には「S」と表示されている次の5模様から選択します。

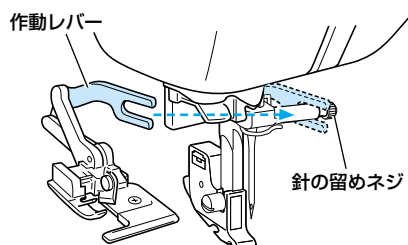
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	63 	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0～2.5	2.5	0.2～5.0	S
	64 	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5～5.0	1.4	0.0～4.0	
	65 	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め			2.0	1.0～4.0	
	66 	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0	2.5			
	67 	布地を切りながら厚地のほつれ止め					



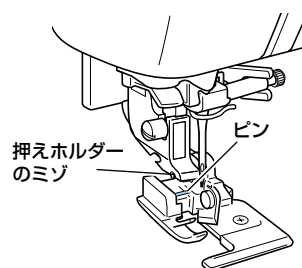
1 押えを取り外します。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

2 サイドカッター押え<S>の作動レバーのふたまた部分で、針の留めネジの棒を後ろからはさみます。



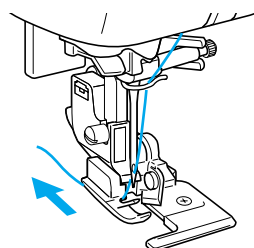
3 サイドカッター押え<S>のピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押え<S>を置き、押えレバーをゆっくり下げます。



- ▶ サイドカッター押え<S>が取り付けられます。

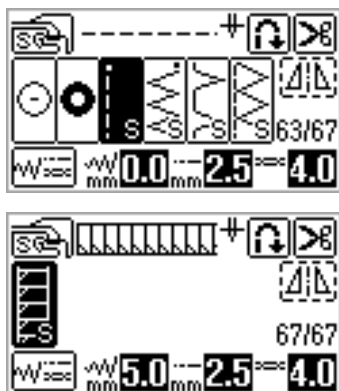
4 押えレバーを上げて、サイドカッター押え<S>が取り付けられていることを確認します。

5 上糸はサイドカッター押え<S>の下を通して、後ろ側に引き出します。

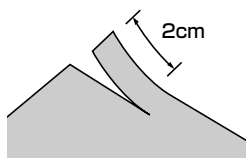


6 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。

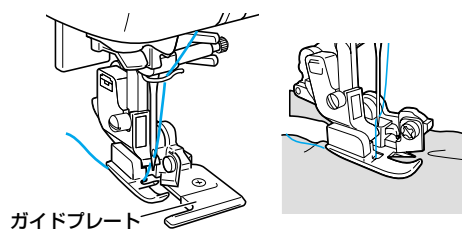


7 布地のぬい始めの部分に2cmの切り込みを入れます。



8 布地をセットします。

布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押え<S>のガイドプレートの上に置きます。

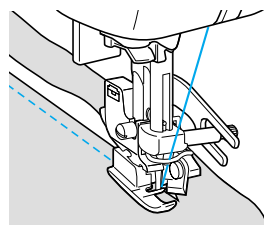


ガイドプレート

お知らせ

- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

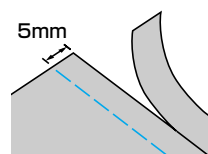
9 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬいしろを裁断しながらぬっていきます。

お知らせ

- 模様を直線⁶³にしてぬった場合、ぬいしろは約5mmになります。



お知らせ

- サイドカッター押え<S>で切れる布地の厚さは、13オンスデニム1枚程度までです。
- サイドカッター押え<S>を使用したあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押え<S>の刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

地ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の5模様から選択します。

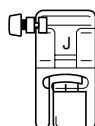
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
しつけぬい	6	仮止め			—	—	
直線【左】	1	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）	0.0	0.0～7.0	2.5	0.2～5.0	J
	2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／止めぬい）					
直線【中】	3	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	—	—			
三重ぬい	4	ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0.0	0.0～7.0		1.5～4.0	

しつけぬい

5mmの長さのぬい目でしつけぬいをします。

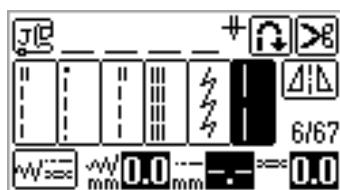
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



2 模様 6 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



3 ミシンをスタートさせます。

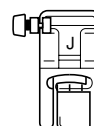
- 「ミシンをスタートさせる」(→P.62)を参照してください。

地ぬい

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

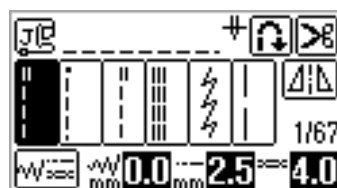
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」 (→P.62) を参照してください。

● 返しぬいをする場合は、「返しぬい／止めぬいをする」 (→P.64) を参照してください。

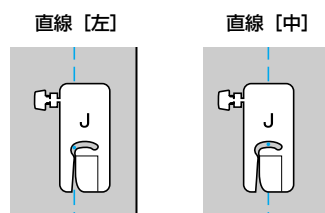
6 ぬい終わったら、糸を切ります。

● 「糸を切る」 (→P.66) を参照してください。

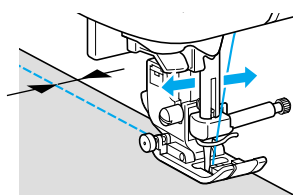
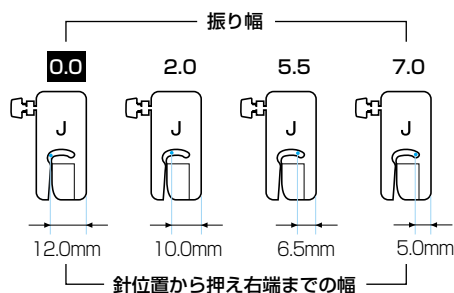


■ 針位置を変えると

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変えられます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



お知らせ

● 「模様の幅を調節する」 (→P.68) を参照してください。

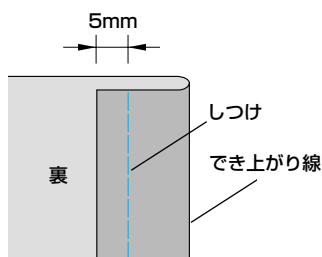
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の2模様から選択します。

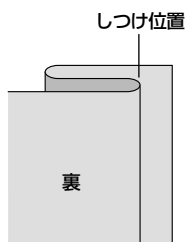
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	17	普通地のまつりぬい	0	3 ← → 3	2.0	1.0~3.5	R
	18	伸びる布地のまつりぬい					

次の手順でまつりぬいをします。

- 1 ぬいしろをでき上がり線で折り、布端から約5mmのところにしつけをします。

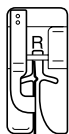


- 2 しつけをしたところから折り返し、布地の裏を上側にします。



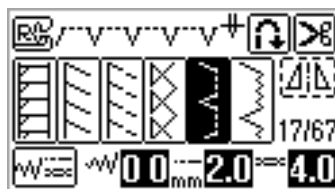
- 3 まつりぬい押え <R> を取り付けます。

●「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

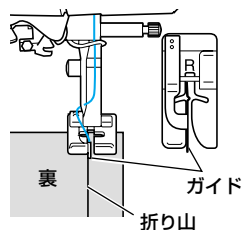


- 4 模様を選択します。

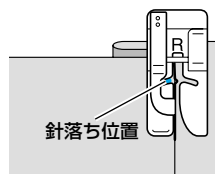
●「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



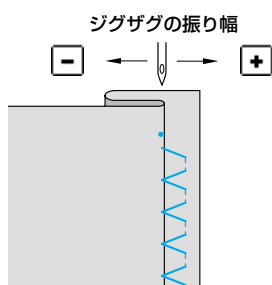
- 5 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



- 6 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。

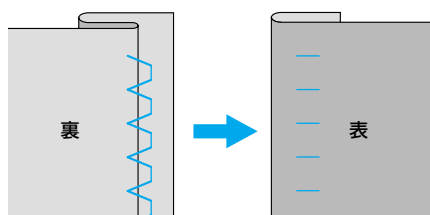


針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。



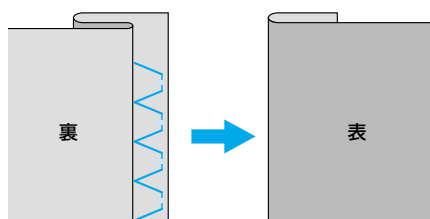
針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。
振り幅の **+** を押して針位置を右に動かし、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



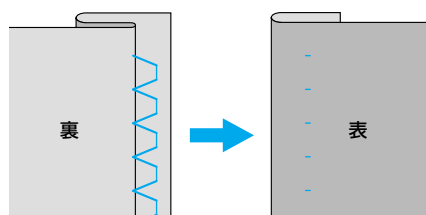
針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
振り幅の **-** を押して針位置を左に動かし、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



7 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

8 しつけをほどき、布地を表に返します。



お知らせ

- 「模様の幅を調節する」 (→ P.68) を参照してください。

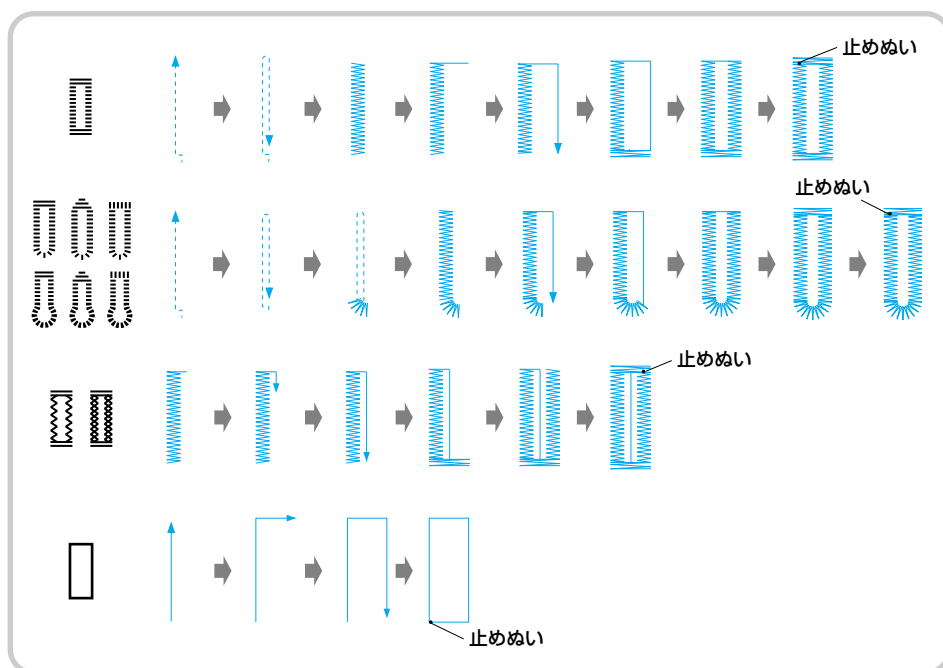
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける

ボタン穴を作ったり、ボタンをぬい付けたりします。ボタン穴は、用途に合わせて次の10模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ボタン穴かがり	48 	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0～5.0	0.4	0.2～1.0	A
	49 	力がかかるところの横穴					
	50 	厚地の横穴					
	51 	張りのある素材の両止め用					
	52 	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0～6.0	1.0	0.5～2.0	
	53 	伸びる布地用			1.5	1.0～3.0	
	54 	玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）	5.0	0.0～6.0	2.0	0.2～4.0	
	55 	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0～7.0	0.5	0.3～1.0	
	56 	普通地・厚地のはとめ穴					
	57 	厚地・毛足の長い布地の横穴					
ボタン付け	61	ボタン付け	3.5	2.5～4.5	—	—	M

ボタン穴かがりをする

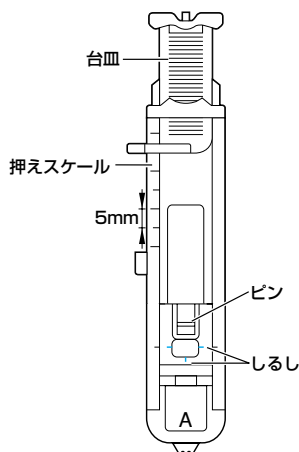
「ボタンの直径+厚み」が約28mm以下のボタン穴を作ることができます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬっていきます。



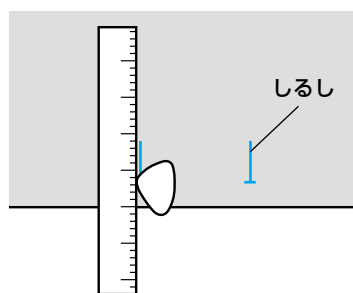
お知らせ

- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

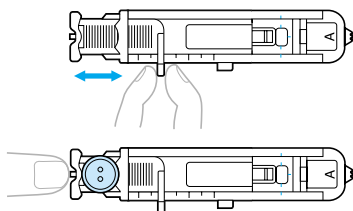
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。



- 1 ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。

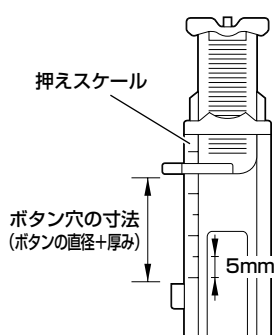


- 2 ボタン穴かがり押え<A>の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

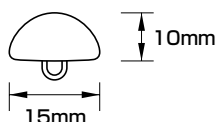


ボタンが台皿にのらないとき

「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り(1目盛り 5mm)に合わせて、ボタンホルルの大きさを決めます。



【例】直径 15mm、厚み 10mm のボタンの場合
→スケールを 25mm に合わせる



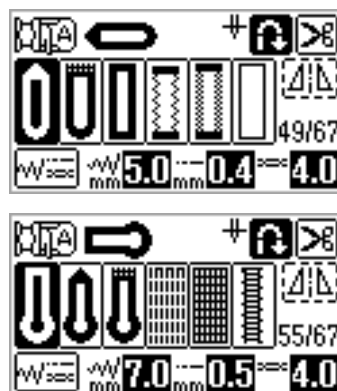
▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

- 3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

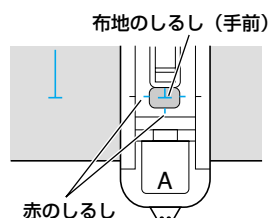
- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

- 4 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



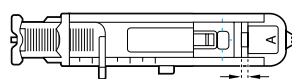
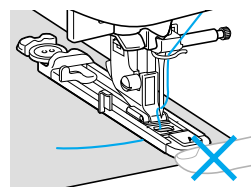
- 5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

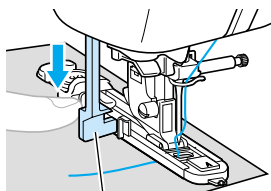
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴かがりを正確な大きさにめえません。



すきまをなくさない

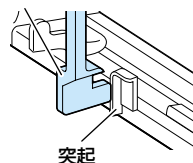
- 6** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバー

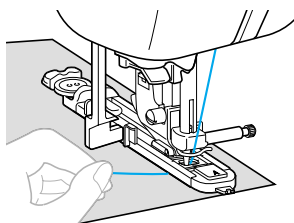
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



突起

- 7** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

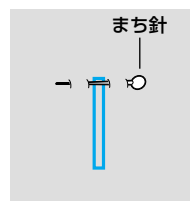


▶ 後ろに向かってぬっていきます。ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 8** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

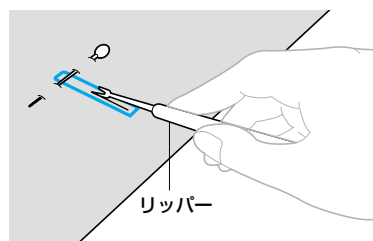
- 9** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

- 10** ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



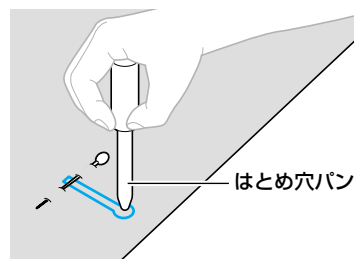
まち針

- 11** 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



リッパー

はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



はとめ穴パンチ



お願い

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。



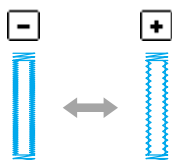
注意



- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

■ めい目のあらさを変えるとき

めい目の長さを調節します。

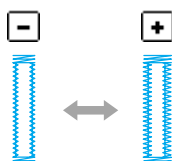


お知らせ

- 「めい目の長さを調節する」 (→ P.69) を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、めい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



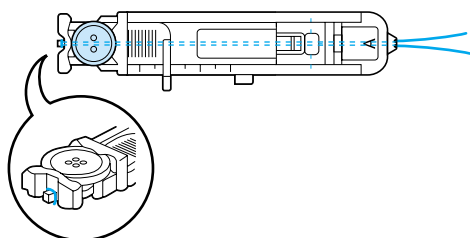
お知らせ

- 「模様の幅を調節する」 (→ P.68) を参照してください。

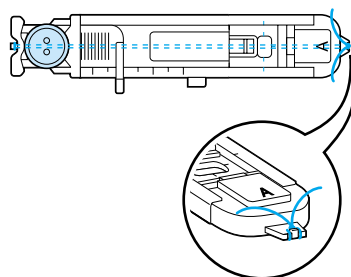
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするとき、芯ひもを入れてぬいます。

- ① ボタン穴かがり押え <A> の図の部分に芯ひもをかけます。



- ② 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



- ③ ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

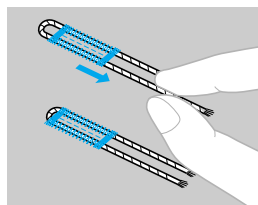
- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。

- ④ 模様 52 または 53 を選択します。

- ⑤ 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- ⑥ 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- ⑦ めいが終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。

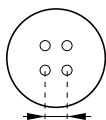


- ⑧ 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

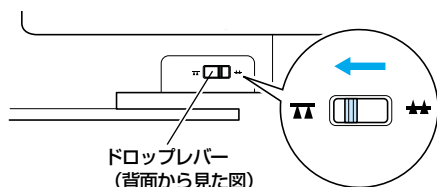
ボタンを付ける

ボタンをぬい付けます。穴が2つまたは4つのボタンが付けられます。

1 ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。



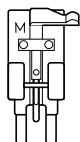
2 押えレバーを上げ、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（) にします。



▶ 送り歯が下がります。

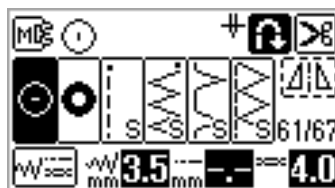
3 ボタン付け押え <M> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。



4 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。

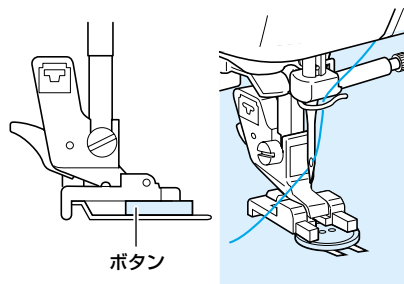


お願い

- あとで糸端を結ぶので、プログラム糸切りは設定しないでください。

5 ジグザグの振りを穴の距離に合わせて調整します。

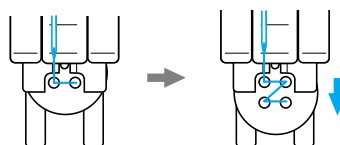
6 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。



▶ ボタンの位置が固定されます。

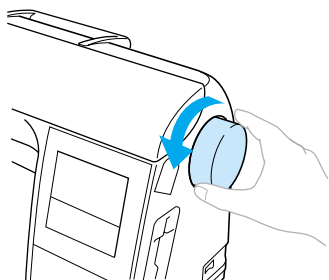
お知らせ

- 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



- 7** プーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直します。



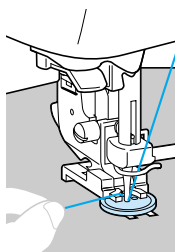
！ 注意



- めう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 8** ミシンをスタートさせます。

スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。



- ▶ めい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

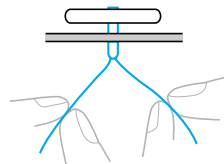


お願い

- あとで糸端を結ぶので、(✕) (糸切りスイッチ)は使用しないでください。

- 9** めい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

めい始めの上糸と下糸は、はさみで切ります。



- 10** ボタン付けが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▲▲) にします。



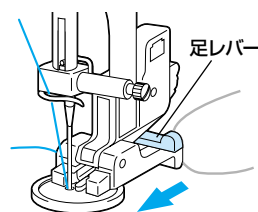
お知らせ

- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。
- 送り歯は、次にめい始めたときに上がります。

■ 足を付けるとき

ボタンの付け根に足 (糸足) を付けるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でめい、あとで手で巻き付けます。ボタンをしっかりと付けることができます。

- 1** ボタン付け押え <M> にボタンを取り付けたら、足レバーを手前に引きます。



- 2** めい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間の糸足に巻き付けて、めい始めの上糸と結びます。

めい始めとめい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



- 3** 余分な糸を切ります。

ファスナーを付ける

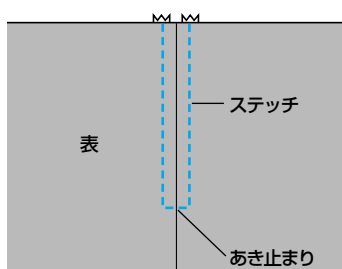
ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線 [中]		ファスナー付け おとしシンやピンタック	—	—	2.5	0.2~5.0	I

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

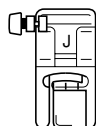
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

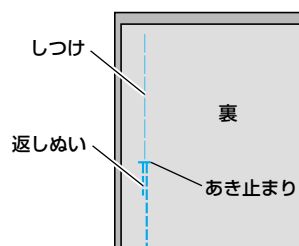


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

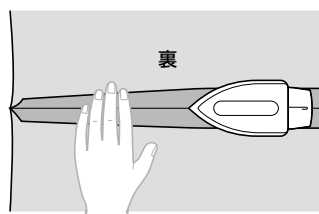
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 「地ぬいをする」(→P.89)を参照してください。

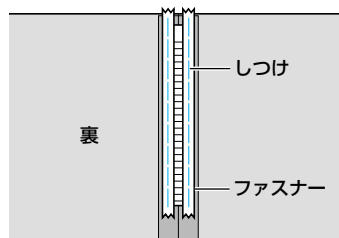
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



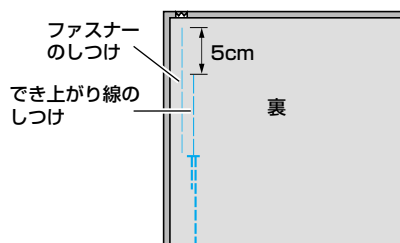
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。

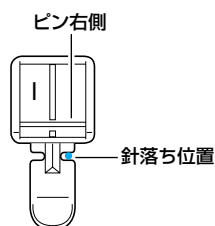


- 6 でき上がり線のしつけを布端から5cm程度ほどきめます。



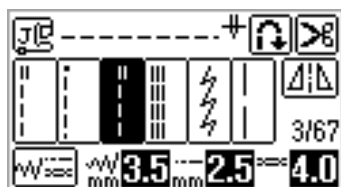
- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→P.52) を参照してください。



- 8 模様³ 直線 [中] を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→P.81) を参照してください。

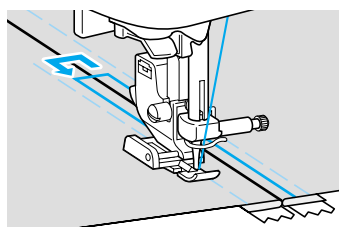
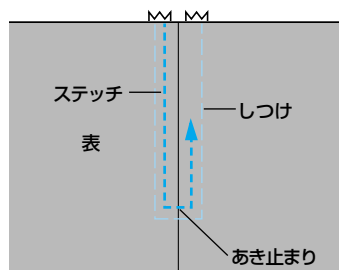


！ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か動かしながらステッチをかけます。



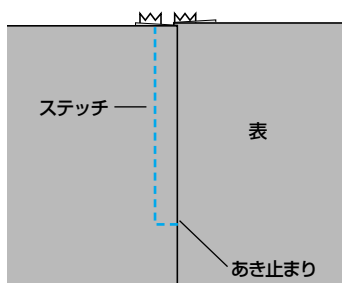
！ 注意

- めう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 しつけをほどきます。

片返し

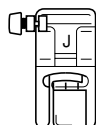
布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに使用します。



ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

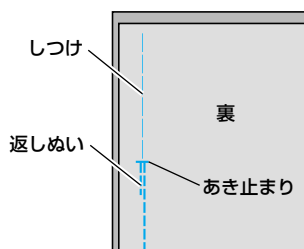


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

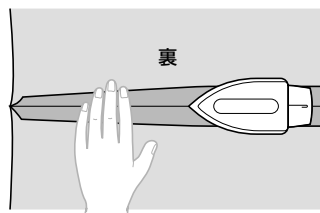
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 「地ぬいをする」(→P.89)を参照してください。

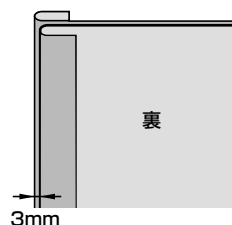
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



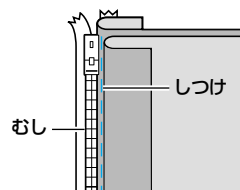
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 右側(ステッチが入らない方)のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



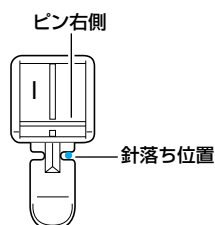
6 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

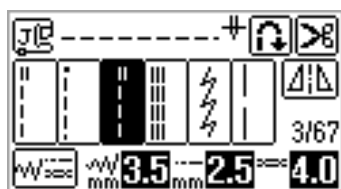
例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



8 模様³ 直線 [中] を選択します。

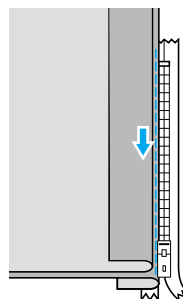
- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



! 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

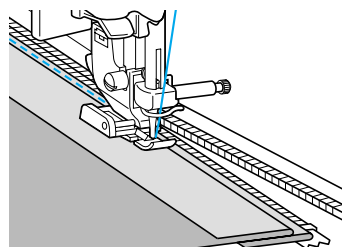


! 注意

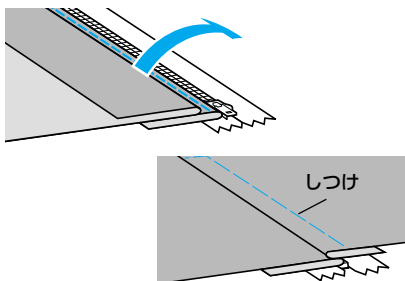
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

10 残り 5cm ほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

11 ファスナーを開いて続きをぬいます。

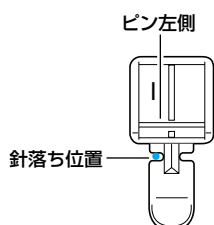


- 12** ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



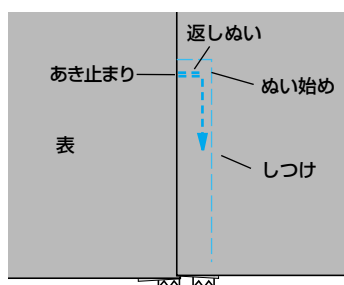
- 13** 片押え<1>のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

⑦ で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



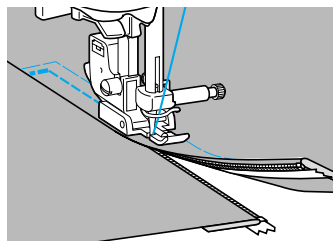
- 14** 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。



- 15** 残り 5cm ほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16** でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



！ 注意



- めう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

伸びる布地やゴムテープをぬう

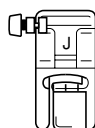
伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けたりします。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	5 	伸びる布地	1.0	1.0～3.0	2.5	1.0～4.0	J
2点ジグザグ	9 	ゴムテープ付け	5.0	1.5～7.0	1.0	0.2～4.0	
3点ジグザグ	10 						
ゴムひもつけ	34 	伸びる布地のゴムテープ付け	4.0	0.0～7.0			

伸縮ぬい

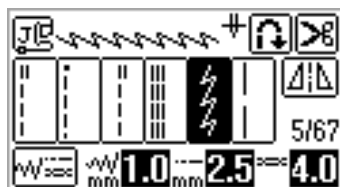
1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。

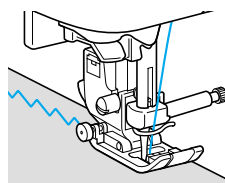


2 模様 5 を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。



3 布地を伸ばさないようにぬいます。



いろいろなぬい方

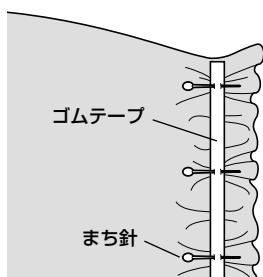
伸びる布地やゴムテープをぬう

ゴムテープ付け

そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

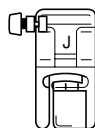
1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所留めます。



2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

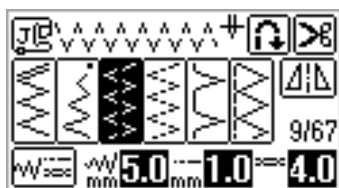
- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。



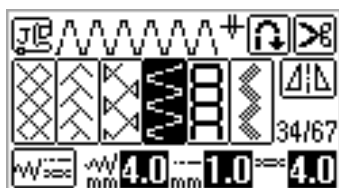
3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。

2点ジグザグ

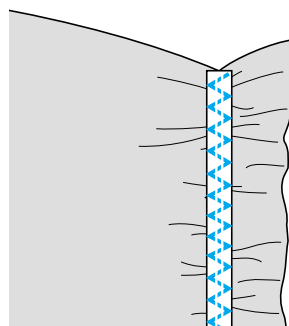
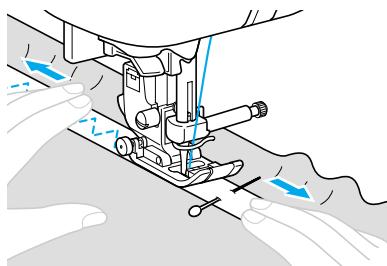


ゴムひもつけ



4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



! 注意

- めう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。
キルトをぬうときは、フットコントローラーやニーリフターを使用すると便利です。フットコントローラーとニーリフターの使い方については、「フットコントローラーを使う」(→P.63)、「ニーリフターを使う(EMU15シリーズのみ)」(→P.77)を参照してください。

※ ニーリフターは、EMU17シリーズでは使用できません。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え		
			自動	手動	自動	手動			
ジグザグ	7 	アップリケ布のぬい付け（中基線／返しぬい）	3.5	0.0～7.0	1.4	0.0～4.0	J		
	24 	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい							
アップリケ	19 	アップリケ布のぬい付け		2.5	1.6	0.2～4.0			
	25 	アップリケ、バインディング	1.5					0.5～5.0	1.2
ピーシング直線	21 	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	5.0	0.0～7.0	1.6	0.2～5.0			
	22 	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	2.0						
つき合わせ	28 	パッチワーク	4.0		1.2	0.2～4.0			
	29 		5.0	2.5～7.0				2.5	1.0～4.0
	30 								
手ぬい風直線	23 	手ぬい風キルト直線	0.0	2.5	1.0～4.0				
キルティング模様	26 	キルトの背景ぬい	7.0			1.0～7.0		1.6	

いろいろなぬい方

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

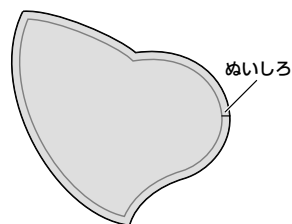


お知らせ

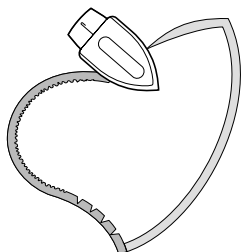
- 液晶画面に「Q」と表示されている模様はキルティング用、「P」はピーシング用の模様です。

アップリケ

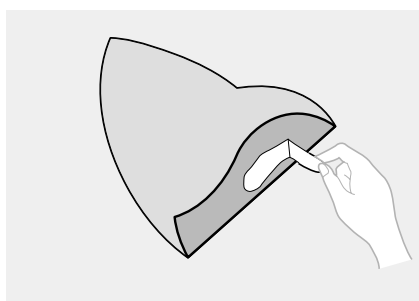
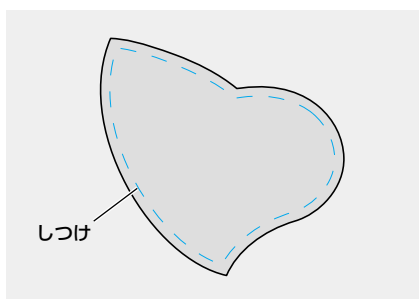
- 1 アップリケ布は3～5mmのぬいしろを付けて裁断します。



- 2** アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。

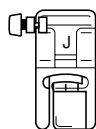


- 3** アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりで留めます。



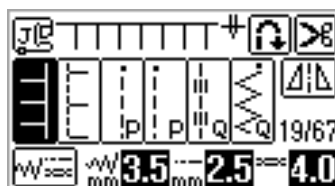
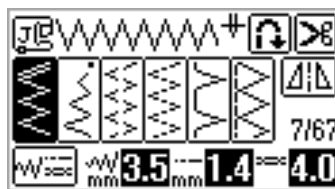
- 4** ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。

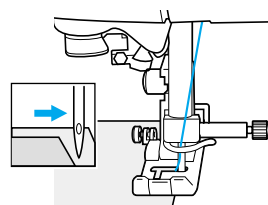


- 5** 模様を選択します。

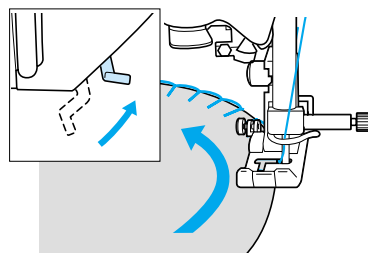
- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



- 6** プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

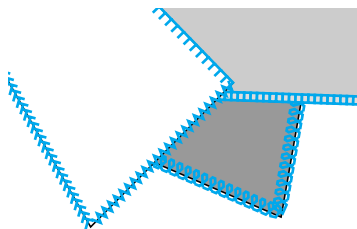
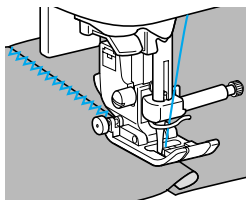


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク（クレイジーキルト）

- 1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- 2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

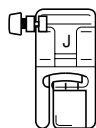


ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

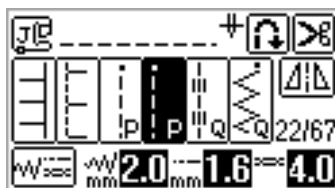
- 1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」（→P.52）を参照してください。



- 3 模様²¹  または²²  を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.81）を参照してください。



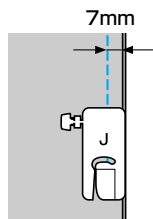
お知らせ

- ピーシング用直線は、液晶画面に「P」と表示されています。

- 4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

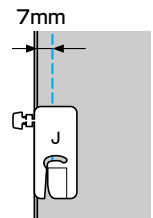
ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、²¹  の模様でぬいます。



ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、²²  の模様でぬいます。



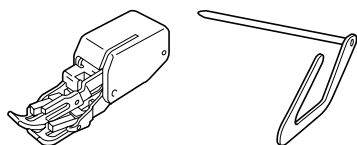
お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、「模様の幅を調節する」（→P.68）を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフットや別売りのキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

※ウォーキングフットは、EMU17シリーズではオプション品です。

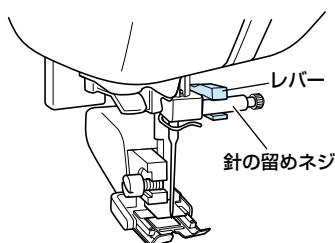


1 キルティングする布地をしつけで留めます。

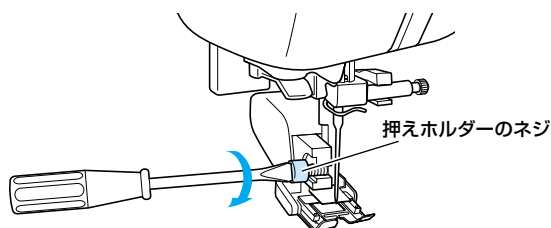
2 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「押えホルダーを取り外す」(→P.54)を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針の留めネジの棒をはさみます。



4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



▶ ウォーキングフットが取り付けられます。

注意

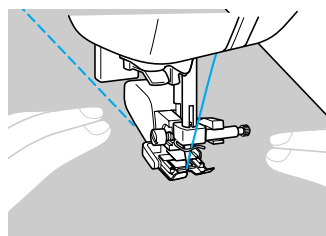


- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。

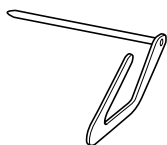


お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- キルティングをするときは、14番の針を使用してください。

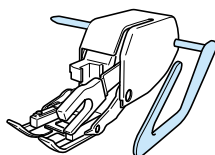
■ キルターを使う

別売りのキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

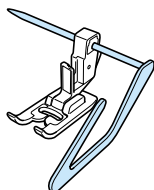


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

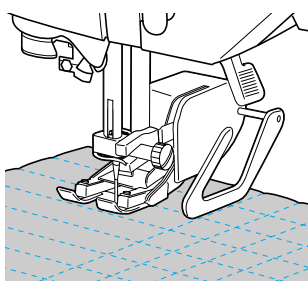
ウォーキングフット



押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。

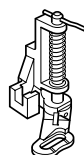


フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地が自由に動かせるようにします。

フリーモーションキルトをするときは、キルト押えを使用します。

※キルト押えは、EMU17シリーズではオプション品です。

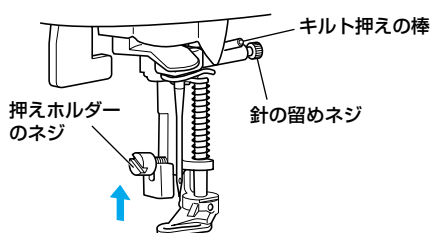


- 1 押えと押えホルダーを取り外します。

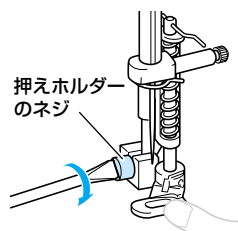
●「押えホルダーを取り外す」(→P.54)を参照してください。

- 2 キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針の留めネジの棒の上になるようにします。



- 3** キルト押えを右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

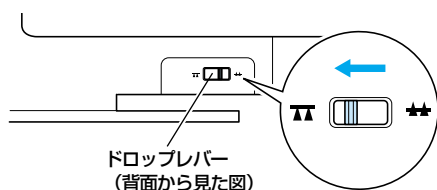


！ 注意



- ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 4** ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（**▲▲**）にします。



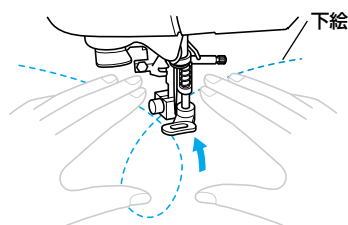
▶ 送り歯が下がります。

- 5** 電源を入れ、模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。

- 6** 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



- 7** ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側（**★★**）にし、送り歯をもとに戻します。

お知らせ

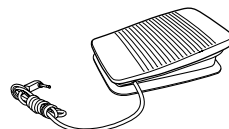
- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。
- 送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

振幅コントロールを使ったサテンぬい

サテン模様でジグザグの振幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

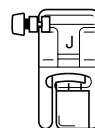
- 1** フットコントローラーを取り付けます。

- 「フットコントローラーを使う」(→P.63) を参照してください。



- 2** ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。



- 3** 電源を入れ、操作パネルの **設定** (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

4 振幅コントロールのONを押します。



- ▶ スピードコントロールレバーでジグザグの振りが変更できるようになります。

お知らせ

- 振幅コントロールをONにすると、糸と1本針／2本針の設定画面の振りの幅の「-」「+」が  に切り替わります。

5 (戻るキー) を押します。



- ▶ もとの画面に戻ります。

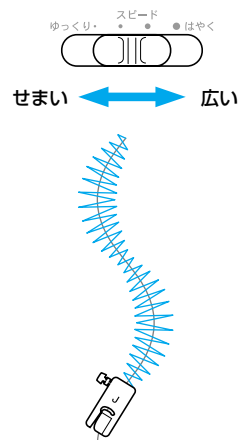
6 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



7 ぬいながらスピードコントロールレバーを動かして振りを調節します。

レバーを左に動かすと振りはせまくなり、右に動かすと広がります。



お知らせ

- ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

8 ぬい終わったら、振幅コントロールをOFFに戻します。

お知らせ

- ぬい目の長さを0.3～5mmに設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使
用します。

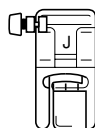
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4 	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0～7.0	2.5	1.5～4.0	J
かんだめ	60 	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0～3.0	0.4	0.3～1.0	A
ダーニング	58 	普通地のつくろいぬい	7.0	2.5～7.0	2.0	0.4～2.5	
	59 	厚地のつくろいぬい					

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

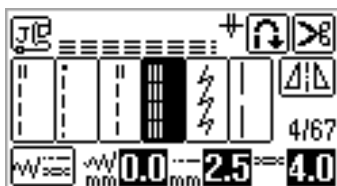
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



2 模様 4 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

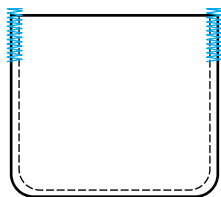


3 ミシンをスタートさせます。

- 「ミシンをスタートさせる」(→P.62)を参照してください。

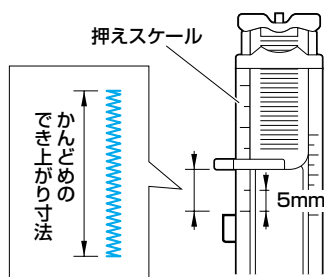
かんどめ

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



お知らせ

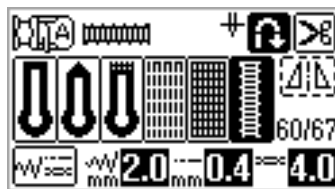
- 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

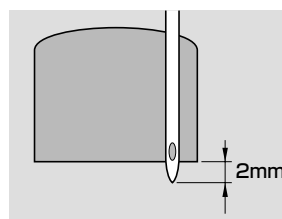
- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。

3 模様 60 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



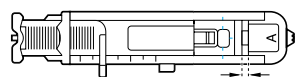
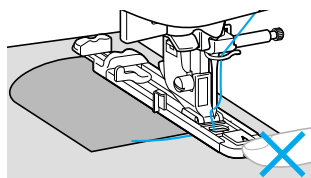
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

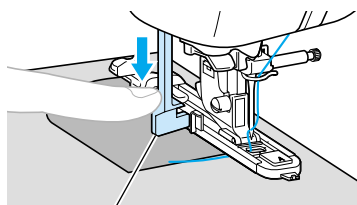
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。かんどめを正確な大きさにぬえません。



すきまをなくさない

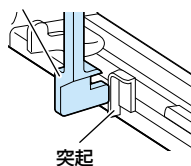
- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバー

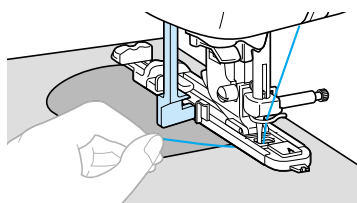
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



突起

- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

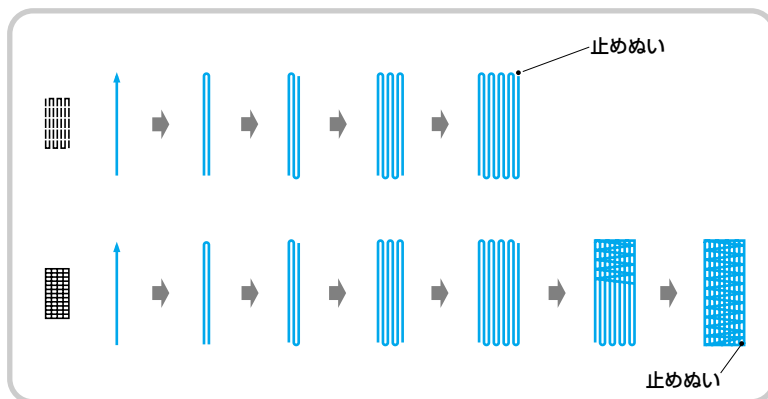


お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→ P.69）を参照してください。

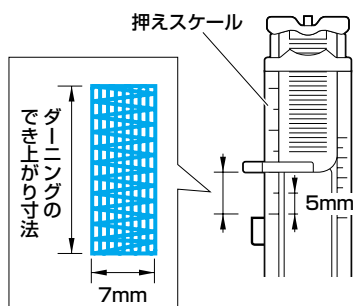
つくろいぬい（ダーニング）

布地がやぶれたときなどに、つくろいぬいをします。
ダーニングは、次の順でぬっていきます。



1 つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。

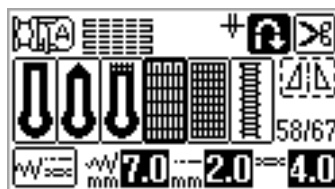


2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

3 模様 58 または 59 を選択します。

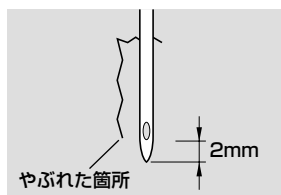
- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



お知らせ

- 最大約28mmのダーニングができます。

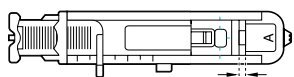
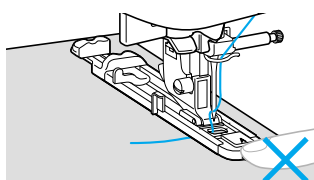
- 4** やぶれた箇所から2mm手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

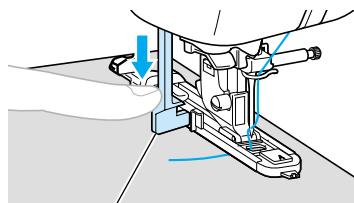
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押ししないでください。ダーニングを正確な大きさにぬえません。



すきまをなくさない

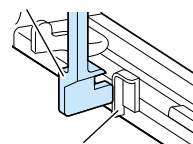
- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバー

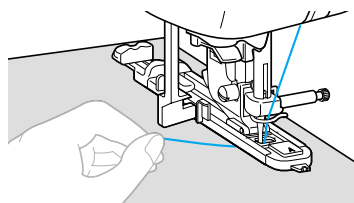
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



突起

- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→P.69）を参照してください。

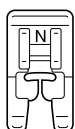
はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	62 	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0/6.0 /5.0	7.0	7.0/6.0 /5.0	N

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→P.52) を参照してください。



2 模様 62 を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→P.81) を参照してください。

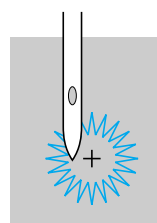


3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。

- 「ぬい目を調節する」 (→P.68) を参照してください。



4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

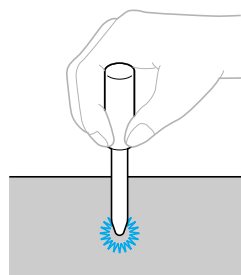


5 ミシンをスタートさせます。

- ▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。

布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけます。



お知らせ

- 細い糸でぬうと、ぬい目があらかなくなる場合があります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ファゴティング	32 	布地と布地の間を離してかかる	5.0	0.0～7.0	2.5	1.0～4.0	J
	33 			2.5～7.0			
つき合わせ	28 	飾りぬい	4.0	0.0～7.0	1.2	0.2～4.0	
	29 		5.0	2.5～7.0	2.5	1.0～4.0	
	30 			0.0～7.0	1.2	0.2～4.0	
シェルタック	20 	シェルタック	4.0		2.5		
スモッキング	31 	スモッキング	5.0		1.6	1.0～4.0	
	32 				2.5		
	33 				2.5～7.0		
スカラップ	27 	サテンスカラップ	3.5 6.0 5.0 5.0 6.0 5.0	2.5～7.0	0.5	0.1～1.0	N
飾りぬい	39 	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど		1.5～7.0	2.5	1.6～4.0	
	40 				3.0	1.5～4.0	
	41 				3.5		
	42 	4.0					
	43 	2.5					
	44 	2.0					
	45 	ふち飾り、リボン通し、ヘアルームなど			3.0		
	46 	ヘアルームなど	6.0		1.6	1.0～4.0	
	47 		5.0				

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
飾りぬい	45	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	J
	36				2.5	1.0~4.0	
	37		5.5	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	
	38		5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	N

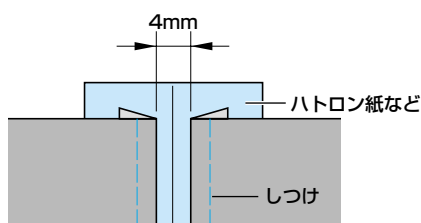
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかかるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

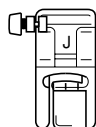
2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙の中央に線を書いておくともいやすくなります。



3 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

●「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。



4 模様 32 または 33 を選択します。

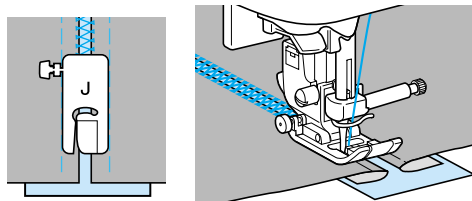
●「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。

●「模様の幅を調節する」(→P.68) を参照してください。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



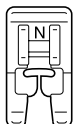
7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

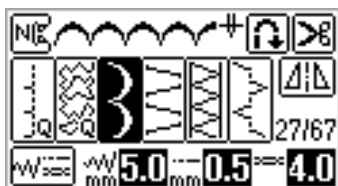
1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。

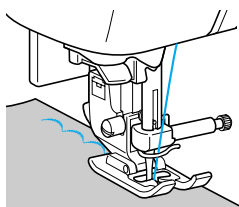


2 模様 27 を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。



3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。

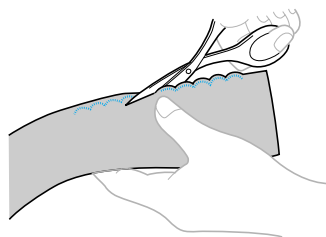


お知らせ

- めう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 めい目に沿って布端を切ります。

糸を切らないように注意してください。

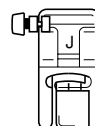


スマッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.52) を参照してください。

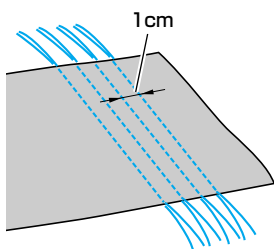


2 直線を選択し、めい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

下糸は上に引き出しておきます。

- 「めい目の長さを調節する」 (→ P.69)、
「糸調子を調節する」 (→ P.69)、「下糸を
引き出してからぬう」 (→ P.48) を参照
してください。

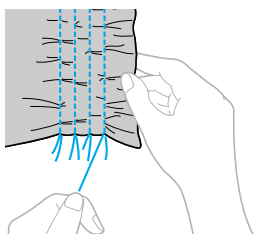
- 3** 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。
ぬい終わりは、糸を5cmほど引き出して
切ります。



お願い

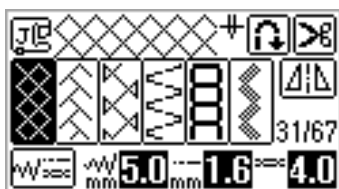
- 返しぬいと糸切りはしないでください。

- 4** 下糸を引いてギャザーを寄せます。
アイロンでギャザーを整えておきます。

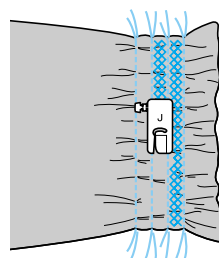


- 5** 模様 ³¹ または ³²、³³ を選択しま
す。

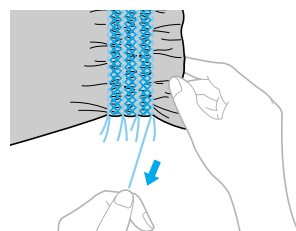
- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してくだ
さい。



- 6** 直線ぬいの間をぬいます。



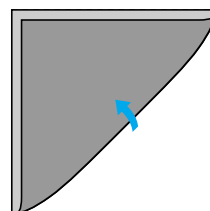
- 7** 直線ぬいの糸を抜き取ります。



シェルタック

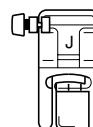
貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

- 1** 布地をバイアスに折ります。



- 2** ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照して
ください。

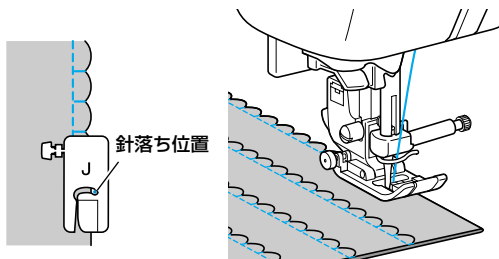


3 模様²⁰ を選択し、上糸を強めにします。

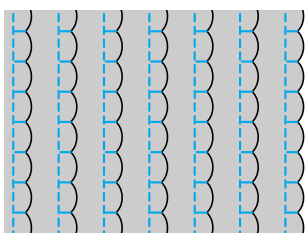
- 「模様を選ぶ」(→P.81)、「糸調子を調節する」(→P.69)を参照してください。



4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。



5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

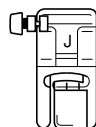


つき合わせ

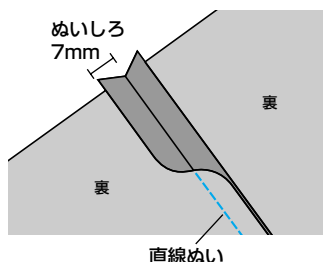
つき合わせたいぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。



2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

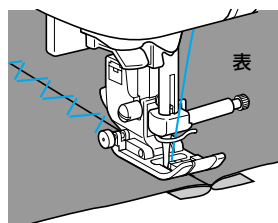


3 模様²⁸ または²⁹ 、³⁰ を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。



4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。

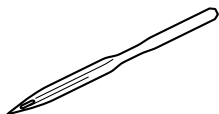


ヘアルーム

別売りのウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。

- 針の取り付け方は、「針を交換する」(→ P.50) を参照してください。

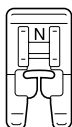


お知らせ

- ウィングニードルは、130/705H 100/16 を使用してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」(→ P.45) を参照してください。

2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

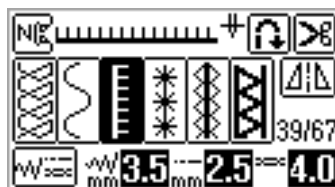
- 「押えを交換する」(→ P.52) を参照してください。



3 模様を選択します。

模様は 39 .40 .41 .42 .43
.44 .45 .46 .47 が適しています。

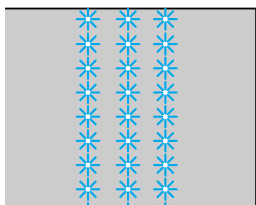
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



お願い

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm 以下に設定してください。

④ ミシンをスタートさせます。



！ 注意

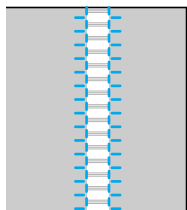


- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

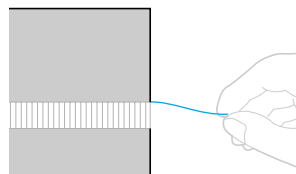
ヘアルームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

■ ドロンワーク（例1）

模様を左右反転させて、2回ぬいます。

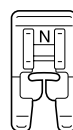


① 布地の織り糸を数本抜き取ります。



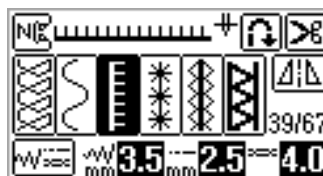
② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。

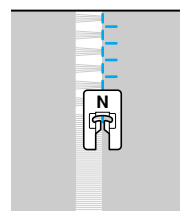


③ 模様 39 を選択します。

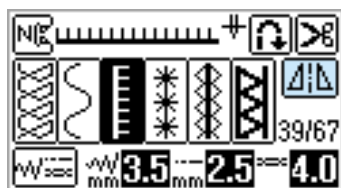
- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



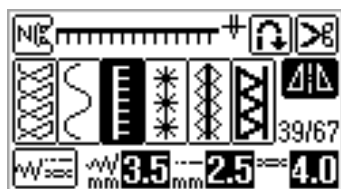
④ 織り糸を抜き取った右端をぬいます。



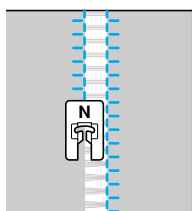
- ⑤  を押します。



- ▶  になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



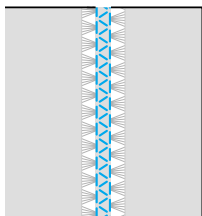
- ⑥ 模様が対照になるように、反対側をぬいます。



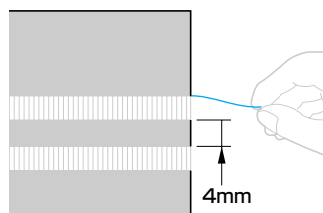
- ⑦  を押し、模様の反転を解除します。

■ ドロンワーク (例2)

布地の織り糸を抜き取った間をぬいます。

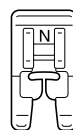


- ① 布地の織り糸を数本抜き取り、約 4mm の間隔をあけて、同様に抜き取ります。



- ② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.52) を参照してください。

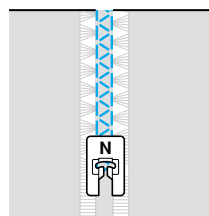


- ③ 模様 ⁴²  選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



- ④ 織り糸を抜き取った間の布地の中心をぬいます。



いろいろな模様をぬう

アルファベット（3種類）、ひらがな／カタカナ、飾り、サテンステッチ、飾りサテン、クロスステッチ、実用飾り模様がぬえます。すべて、模様ぬい押え<N>を取り付けてぬいます。

模様をきれいにぬうには

きれいに模様を仕上げるために、以下の点に注意してください。

布地

伸びる布地や薄地、織りがあらい布地は、裏に別売の接着芯を貼るか、またはトレーシングペーパーなどの薄い紙を布地の下に敷いてぬいます。サテンステッチをぬうときは、ぬい縮みやぬい詰まりが起きることがあるので、必ず接着芯を貼ってください。

針・糸

針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ブラザー専用ゴールデン針、厚地のときは家庭用ミシン針（HA×1）14番を使用します。糸は50～60番を使用します。

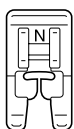
試しぬい

布地の種類や厚さ、接着芯などによって模様がくずれることがあります。必ず試しぬいをしてください。また、ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

模様のぬい方

1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

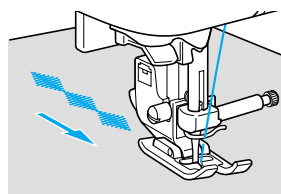
- 「押えを交換する」（→P.52）を参照してください。



2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.81）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。



▶ 模様が矢印の方向にぬわれます。

4 止めぬいをします。

お知らせ

- アルファベット・ひらがな・カタカナ・漢字の場合は、1文字ずつ自動的に止めぬいをします。
- 文字以外の模様をぬうときは、あらかじめ自動止めぬいを設定しておくくと便利です。「自動で返しぬい／止めぬいをする」（→P.70）を参照してください。

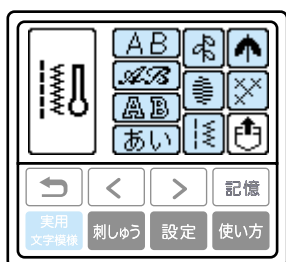
5 ぬい終わったら、ぬい始めの糸や模様の間の渡り糸をはさみで切ります。



模様を組み合わせる

複数の模様を組み合わせてぬうことができます。

- 1 操作パネルの **実用** (実用／文字模様キー) を押して、模様グループを選択します。



- 2 1つ目の模様を選択します。



お知らせ

- この時点でぬうと、ミシンをストップさせるまで1つの模様がくり返されます。

- 3 次の模様を選択します。

グループを変更するときは、**戻る** (戻るキー) を押します。模様グループを選択してから、次の模様を選択してください。選択した模様を取り消すときは、**削除** を押します。最後に選択した模様が取り消されます。



- 4 ③ をくり返します。



- 5 模様を選択したら、ミシンをスタートさせます。



- ▶ 液晶画面に表示された順番に、模様がぬわれます。



お知らせ

- 模様は70個まで組み合わせることができます。
- 実用模様は組み合わせられません。
- 複数の模様を組み合わせたときは、液晶画面に表示された模様をぬい終わると、ミシンはストップします。組み合わせた模様をくり返してぬうときは、「模様をくり返しぬう」(→P.130)を参照してください。
- 組み合わせた模様をミシンに記憶させることができます。「模様を記憶させる」(→P.133)を参照してください。

模様をくり返しぬう

模様をくり返しぬうことができます。

1 模様を選択します。

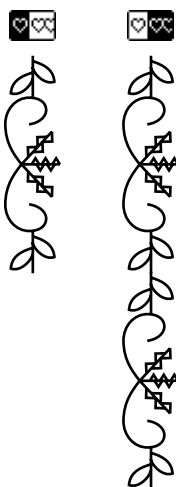
- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

2 を押します。

もう一度押すと、に変わります。



- ▶ がになり、選択した模様がくり返しぬわれます。



お知らせ

- に設定した場合、ミシンをストップさせるまでくり返しぬわれます。
- 電源を切ると、もとの設定に戻ります。

模様を確認する

模様は70個まで組み合わせることができます。選択した模様が液晶画面に表示しきれないときは、次の手順で模様を確認します。

1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81)を参照してください。

2 を押します。



- ▶ 模様の確認画面が表示されます。

3 で表示を切り替えて、模様を確認します。



4 (戻るキー) を押します。

- ▶ もとの画面に戻ります。

模様の大きさを変える

アルファベット（ゴシック体・アウトライン）とひらがな／カタカナは、模様の大きさを大／小に切り替えることができます。

その他の模様は、大きさを切り替えることはできません。

1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.81）を参照してください。

2 大小を押して、サイズを切り替えます。



3 1～2を繰り返します。

LEAF LEAF

お知らせ

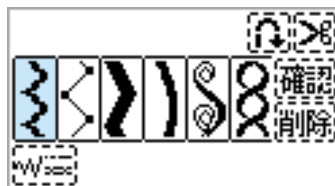
- 通常の大きさは大です。小に切り替えると、小の模様が連続して組み合わせられます。

模様の密度を変える

飾りサテンを選択した場合は、模様の密度を変えることができます。

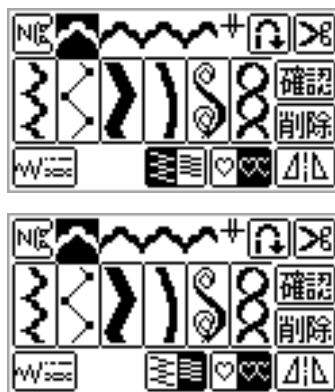
1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.81）を参照してください。



2 密度を押して、密度を切り替えます。

密度はあらく、密度は細かくなります。



注意



- 密度を細かく設定すると、糸によってはぬいづまりが起これ、針が折れることがあります。

模様の長さを変える

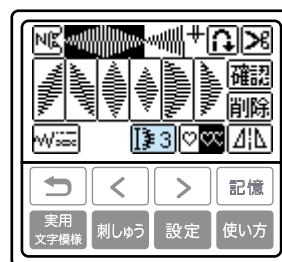
サテンステッチ 1 つ分の模様の長さを、5 段階で変えることができます。

1 模様を選択します。

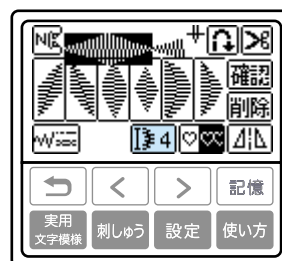
- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



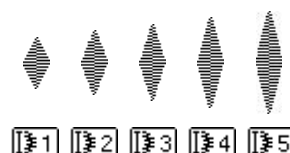
2 [F3]を押します。



▶ [F4] になり、模様が長くなります。



キーを押すごとに、数字が変わります。
[F1]から[F5]の5段階から選択できます。



模様を反転させる

模様を左右反転させることができます。

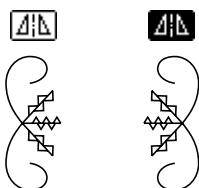
1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。

2 を押します。



▶ 模様が反転します。



お知らせ

- 実用模様の中の一部の模様も反転させることができます。「ドロンワーク」(→P.126) を参照してください。
- 反転させた模様を組み合わせることもできます。



模様を記憶させる

組み合わせた模様をマシンに記憶させることができます。記憶させた模様は電源を切っても消えないので、いつでも呼び出してぬうことができます。名前などの文字の組み合わせ模様を記憶させると便利です。10組までの模様を記憶させることができます。

■ 模様を記憶させる

1 模様を組み合わせます。

- 「模様を組み合わせる」(→P.129) を参照してください。

2 操作パネルの (記憶キー) を押します。



▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。

お願い

- 記憶中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

■ 模様を呼び出す

- ① を押します。



▶ ポケットの選択画面が表示されます。

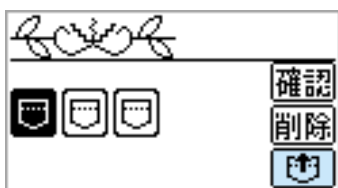
- ② 呼び出す模様を選択します。

を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないときは、**確認**を押すと、確認することができます。



▶ 選択したポケットがになり、模様が表示されます。

- ③ を押します。



▶ 模様が呼び出され、ぬうことができます。



■ 模様を消去する

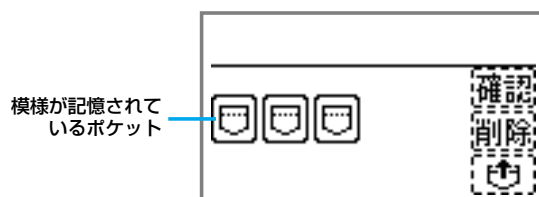
- ① を押します。



▶ ポケットの選択画面が表示されます。

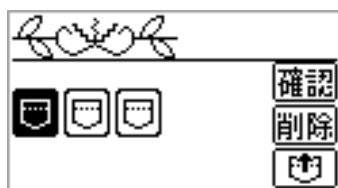
- ② 消去する模様を選択します。

を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないときは、**確認**を押すと、確認することができます。



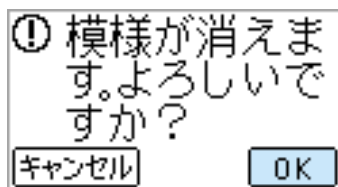
▶ 選択したポケットがになり、模様が表示されます。

- ③ **削除**を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

- ④ **OK**を押します。

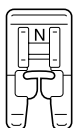


▶ ポケットに記憶されていた模様とポケットが消去されます。

模様を調整する

布地の種類やぬう速度などによって、模様が正しくぬえないことがあります。その場合は、実際にぬう布地のはぎれを用意し、試しぬいをして模様を調整します。

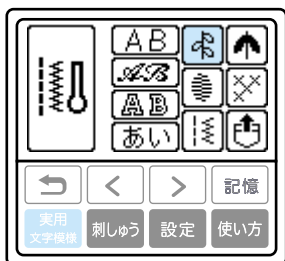
1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。



- 「押えを交換する」(→P.52)を参照してください。

2 操作パネルの **実用文字模様** (実用／文字模様キー)

を押して、を選択します。

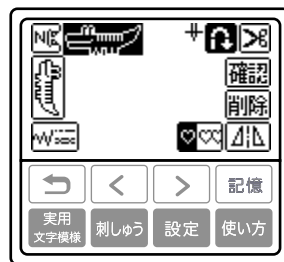


- ▶ 飾り模様が表示されます。

3 を選択します。



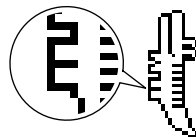
4 ミシンをスタートさせます。



- ▶ 模様が最後までぬわれると、ミシンがストップします。

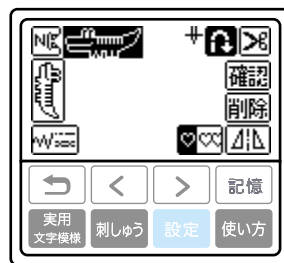
5 ぬわれた模様を確認します。

正しい状態のときは、模様の図の部分均等になっています。



正しくぬえなかったときは、次の手順に従って模様を調整します。

6 操作パネルの **設定** (設定キー) を押します。

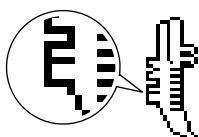


- ▶ 設定画面が表示されます。

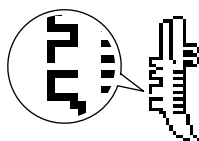
7 模様調整の **-** **+** を押します。



ぬわれた模様の状態によって調整します。



+ を押すごとに表示の値が大きくなり、模様が伸びていきます。



- を押すごとに表示の値が小さくなり、模様がつまっていきます。



8 **↶** (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

10 もう一度 をぬって、模様を確認します。

正しくぬえるようになるまで調整します。

4

刺しゅう（EMU17シリーズのみ）

ここでは、刺しゅうの手順を説明します。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

きれいに刺しゅうをするには	138
刺しゅう押え <Q> を取り付ける	141
刺しゅう機を取り付ける	144
布地を用意する	148
刺しゅう枠を取り付ける	152
刺しゅう模様を選びましょう	154
刺しゅうをしてみましょう	162
こんなとき	166
模様の記憶機能を使う	172

きれいに刺しゅうをするには

ここでは、刺しゅうをする前に必要なことを説明します。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

用意するもの

刺しゅうをするときは、次のものが必要です。

布地

刺しゅうする布地を用意します。刺しゅう模様の大きさに合わせて、刺しゅう枠より少し大きめの布地を用意します。



お願い

- 薄地や伸びる布地など、ぬいにくい布地には、あらかじめブラザー専用接着芯を貼ってください。
- 大きな布地に刺しゅうするときは、ミシンを置いたテーブルから布地が垂れ下がらないようにしてください。布地が垂れ下がった状態で刺しゅうすると、刺しゅう機の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。



注意



- 刺しゅうができる布地の厚さは、布地を張った刺しゅう枠をミシンにセットし、 (針上下スイッチ) を押して針を上げたときに、布地と押えにすきまができるものまでです。それ以上の厚さのものをぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 刺しゅうを重ねると、針が布地に刺さりにくくなり、針が折れたり曲がったりするおそれがありますので、ご注意ください。

接着芯

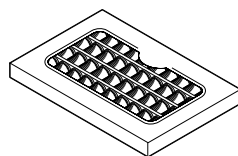
ぬい縮みや模様がくずれることを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



接着芯は、別売りのブラザー専用刺しゅう用接着芯をおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売オプション (EMU 17 シリーズ)」(→ P.16)、「別売オプション (EMU 15 シリーズ)」(→ P.19) を参照してください。

刺しゅう糸

上糸は、別売りのブラザー専用刺しゅう糸 (ウルトラパス)、またはカントリー刺しゅう糸を使用してください。



下糸は、別売りのブラザー専用刺しゅう下糸を使用してください。



お知らせ

- 上記以外の糸を使用すると、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
- ぬい始める前に、下糸の残量を確認してください。下糸が少ない状態で刺しゅうを続けると、糸がらみなどが起きる場合があります。

針

家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番を使用します。
デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針 (HA × 1) の 14 番を使用してください。



お知らせ

- 購入時は、11 番の針がミシンに取り付けられています。
- 針を交換するときは、「針を交換する」(→P.49)を参照してください。



注意



- プラザーゴールデン針は、模様ぬいや伸びる布地など、目とびしやすい布地用の針です。刺しゅうぬいには絶対に使用しないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

その他

別売オプション品として、刺しゅう枠 [LL] [S] などを用意しています。詳細は、「別売オプション (EMU 17 シリーズ)」(→P.16)、「別売オプション (EMU 15 シリーズ)」(→P.19) を参照してください。



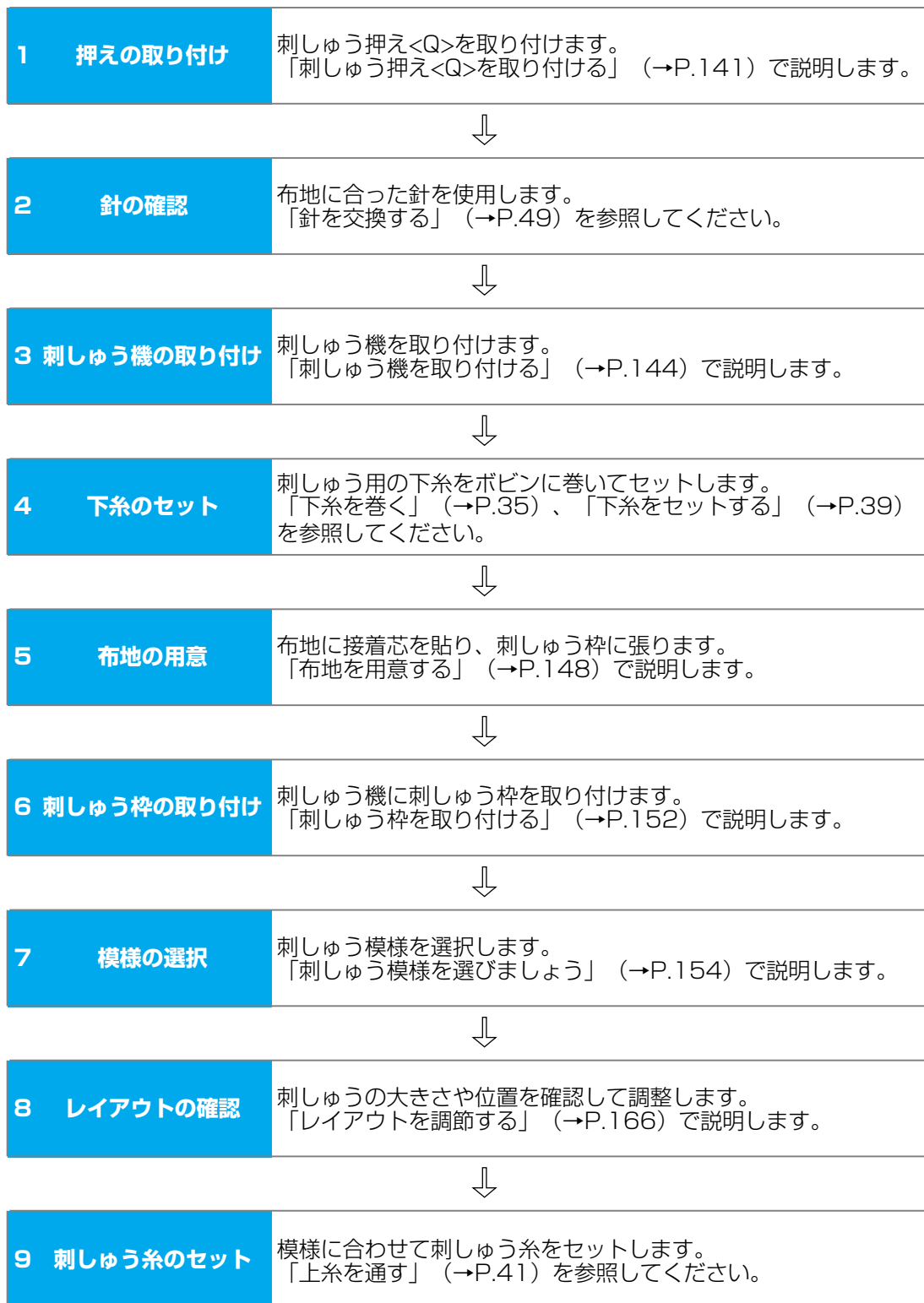
お知らせ

- EMU 15 シリーズで刺しゅうをする場合は、別売刺しゅう機セット (モデル: ES150) をお買い求めください。刺しゅう機セットには、次の部品が同梱されています。

刺しゅう機
刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]
刺しゅう押え <Q>
USB ケーブル
取扱説明書

刺しゅうの手順

刺しゅうをするときの基本の手順は次のとおりです。

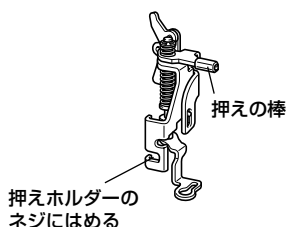


刺しゅう押え<Q>を取り付ける

刺しゅう押え<Q>の取り付け方を説明します。
※ EMU15 シリーズではオプション品です。

刺しゅう押え<Q>を取り付ける

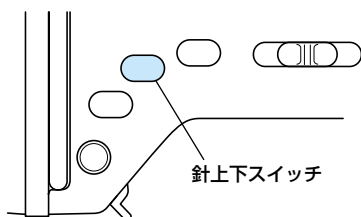
刺しゅうをするときは、刺しゅう押え<Q>を取り付けます。刺しゅう押え<Q>とドライバーを用意します。



！ 注意

- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう押え<Q>を使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

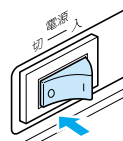
- 1 針上下スイッチ（針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。



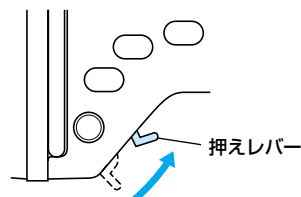
お願い

- 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが真上になります。必ずプーリーのしるしが真上になっていることを確認してください。

- 2 電源を切ります。

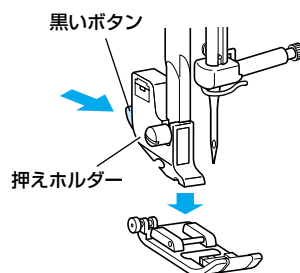


- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

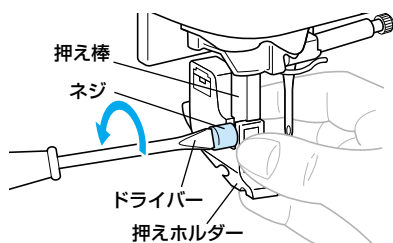
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



▶ 押えが押えホルダーから外れます。

5 押えホルダーのネジをゆるめます。

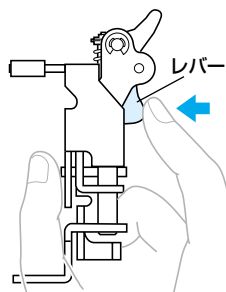
右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



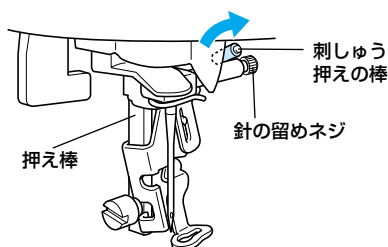
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

6 図のように、右手で刺しゅう押え<Q>を持ちます。

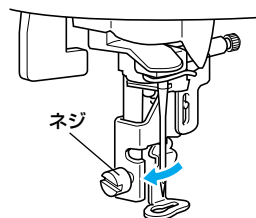
右手の人差し指が押えの後ろ側のレバーにかかるように持ちます。



7 刺しゅう押え<Q>のレバーを指で押しながら、刺しゅう押え<Q>の棒が針の留めネジの上にかかるように、刺しゅう押え<Q>を奥へ倒して押え棒に合わせます。

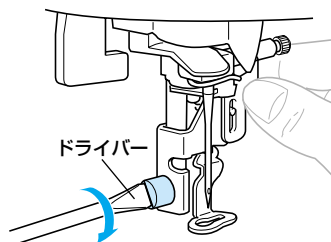


8 刺しゅう押え<Q>が垂直になるように、刺しゅう押え<Q>を押えホルダーのネジに取り付けます。



9 押えホルダーのネジをしめます。

右手で刺しゅう押え<Q>を支え、左手でドライバーを手前に回します。



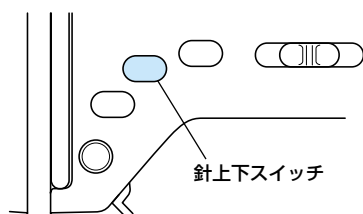
! 注意



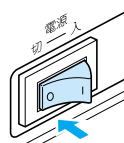
- 刺しゅう押え<Q>を取り付けるときは、指や押えが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、ケガの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬい始める前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

刺しゅう押え <Q> を取り外す

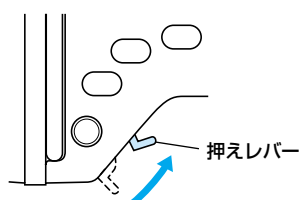
- 1 ④(針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



- 2 電源を切ります。



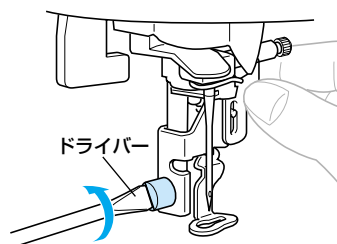
- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

- 4 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で刺しゅう押え<Q>を支え、左手でドライバーを奥に回します。



- 5 刺しゅう押え<Q>のレバーを右手の人差し指で押しながら、刺しゅう押え<Q>を押え棒から取り外します。

- 6 押えホルダーを取り付けます。

●「押えホルダーを取り付けるとき」(→P.54)を参照してください。

刺しゅう機を取り付ける

刺しゅうをするときは、刺しゅう機を取り付けます。
※ EMU15 シリーズではオプション品です。

！ 注意

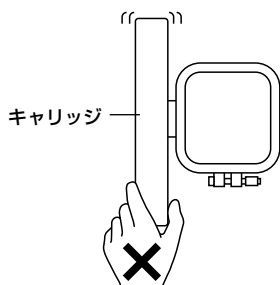


- 刺しゅう機を取り付けたままミシンを移動させないでください。刺しゅう機が落下してケガをするおそれがあります。
- 刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。



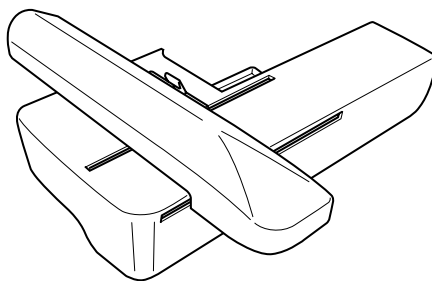
お願い

- ミシン本体の刺しゅう機差し込み口および刺しゅう機のコネクターに触れないでください。コネクターピンが破損し、故障の原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って、刺しゅう機を持ち上げたり無理に動かしたりしないでください。故障の原因となります。

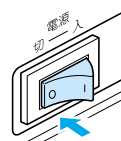


刺しゅう機を取り付ける

刺しゅう機を用意します。



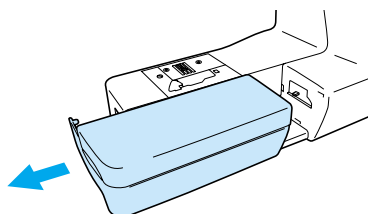
1 電源を切ります。



お願い

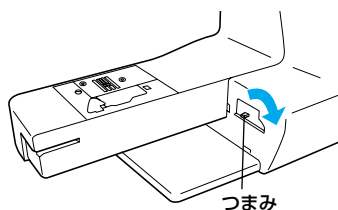
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り付けてください。故障の原因となります。

2 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



3 刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを開けます。

ふたは手前に引いて収納します。



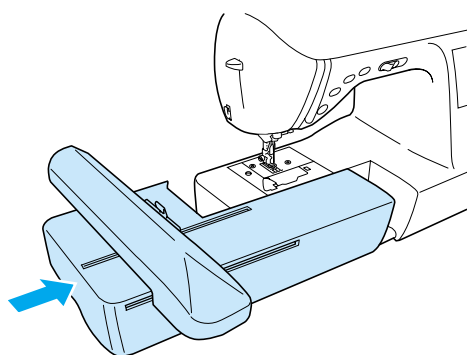
注意



- ふたが完全に開いていることを確認してください。ふたが開いていない状態で刺しゅう機を取り付けると、故障の原因となります。

4 刺しゅう機を右へスライドさせ、刺しゅう機のコネクターをミシン本体の刺しゅう機差し込み口に差し込みます。

カチッと音がするまで刺しゅう機を押します。



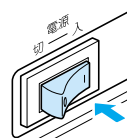
▶ 刺しゅう機が取り付けられます。



お願い

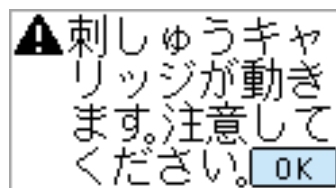
- ミシン本体と刺しゅう機の間にすきまがあると、模様くすれの原因となります。必ず奥まで確実に差し込んでください。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。故障の原因となります。

5 電源を入れます。



▶ 液晶画面にメッセージが表示されます。

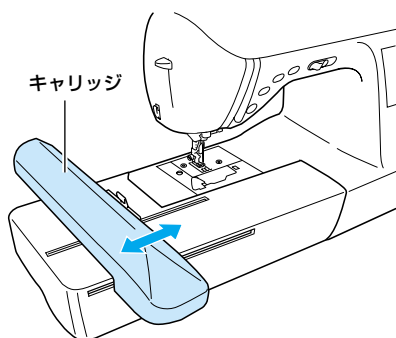
6 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、**OK**を押します。



お知らせ

- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れるとメッセージが表示されます。

▶ 刺しゅう機のキャリッジが初期設定の位置へ移動します。



注意



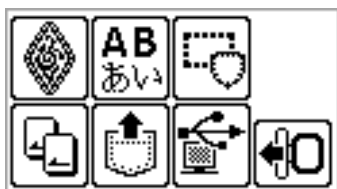
- キャリッジに手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。



お願い

- キャリッジの近くに手や物を置いたまま初期設定を行うと、液晶画面が初期表示に戻ることがあります。その場合は、キャリッジの近くにあるものを取り除いてから電源を入れ直してください。

- ▶ 刺しゅう模様グループの選択画面が表示されます。



お知らせ

- 刺しゅう機が取り付けられているときは、実用模様は選択できません。
- 刺しゅう模様については、「刺しゅう模様を選びましょう」(→P.154)で説明します。

刺しゅう機を取り外す

刺しゅう枠を取り外してから、刺しゅう機を取り外します。

- 1 ミシンが動いていないことを確認し、刺しゅう枠を取り外します。

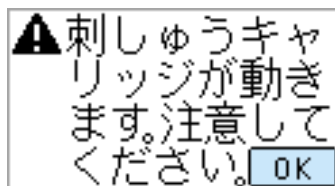
- 「刺しゅう枠を取り外す」(→P.153)で説明します。

- 2  を押します。



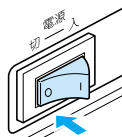
- ▶ メッセージが表示されます。

- 3 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、**OK** を押します。



- ▶ 刺しゅう機のキャリッジが収納の位置へ移動します。

4 電源を切ります。

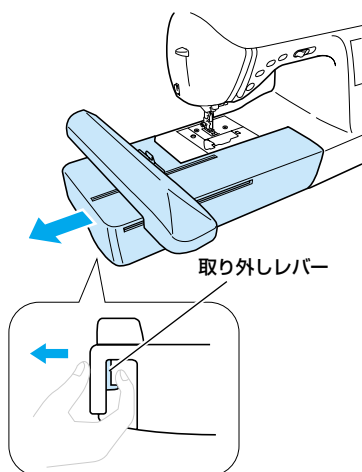


! 注意



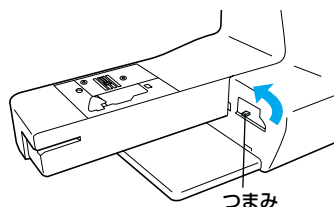
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り外してください。故障の原因となります。

5 刺しゅう機左側面の裏側にある取り外しレバーをつかみながら、刺しゅう機をゆっくりと左に引きます。



▶ 刺しゅう機がミシン本体から外れます。

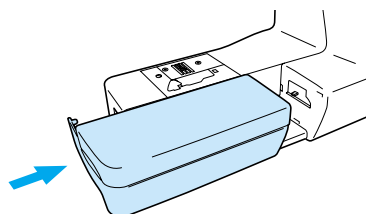
6 刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを閉めます。



お願い

- 刺しゅう機を使用しないときは、必ずふたを閉めてください。

7 補助テーブルをもとに戻します。



注意



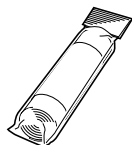
- 刺しゅう機を持ち運ぶときは、取り外しレバーの部分を持たないでください。故障の原因となります。

布地を用意する

刺しゅうする布地に接着芯を貼ってから、刺しゅう枠に張ります。

布地に接着芯を貼る

ぬい縮みや模様くすれを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



お知らせ

- 接着芯は、別売りのブラザー専用刺しゅう用接着芯をおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売オプション (EMU17シリーズ)」(→P.16)、「別売オプション (EMU15シリーズ)」(→P.19)を参照してください。

お願い

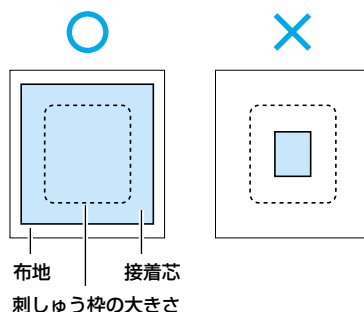
- 伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ってください。

注意

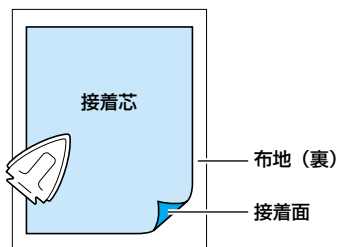


- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。特に、薄地や伸びる布地に接着芯を使用せずに刺しゅうをすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。また模様くすれの原因となります。

- 1 使用する刺しゅう枠より大きめに刺しゅう用接着芯を用意します。



- 2 布地の裏に接着芯の接着面をあて、スチームアイロンをかけて貼ります。



お知らせ

- タオルなどのアイロンがかけられない布地や、アイロンがかけられないところに刺しゅうをするときは、布地の下に接着芯を置いて、接着せずに刺しゅう枠に張ります。

お願い

- 刺しゅうが完成したら、接着芯はやぶって取り除いてください。

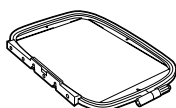
布地を刺しゅう枠に張る

接着芯を貼った布地と刺しゅう枠を用意し、布地を刺しゅう枠に張ります。

刺しゅう枠 [L]

縦 18 × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。

※ EMU15 シリーズではオプション品です。



刺しゅう枠 [M]

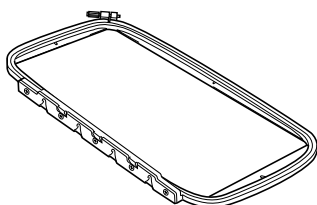
縦 10 × 横 10cm までの模様を刺しゅうできます。

※ EMU15 シリーズではオプション品です。



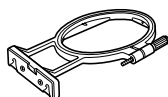
刺しゅう枠 [LL] (別売オプション)

縦 30 × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。



刺しゅう枠 [S] (別売オプション)

縦 2 × 横 6cm までの模様を刺しゅうできます。文字などの小さな刺しゅうをするときに使用します。



お知らせ

- 模様によっては、刺しゅう枠 [S] が使用できないことがあります。



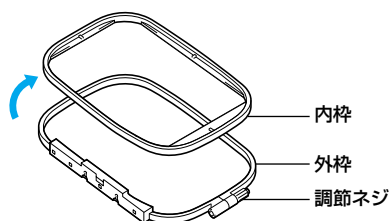
注意



- 刺しゅう枠は、刺しゅうする模様の大きさに合わせて使用してください。誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガや針折れの原因となります。

1

刺しゅう枠の調節ネジをゆるめて内枠を外枠から取り外し、平らなところに置きます。

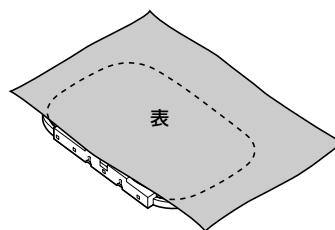


2

接着芯を貼った布地を外枠の上に置きます。

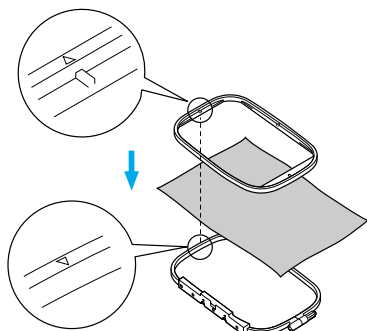
布地の表が上になるように置きます。

- 接着芯の貼り方については、「布地に接着芯を貼る」(→P.148)を参照してください。

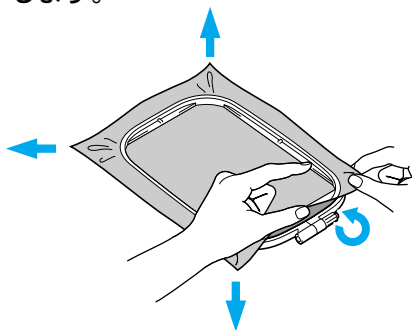


3 布地の上から内枠をはめます。

内枠の △ と外枠の ▽ のしるしを合わせます。

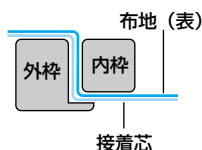


4 調節ネジを軽くしめ、内枠を押さえながら布地の四方を引っ張ってたるみをなくします。



5 さらに布地のたるみをなくしながら、調節ネジをしめます。

外枠の底面まで内枠をしっかりとめ込み、調節ネジをしめます。



お知らせ

- 布地を軽くたたくと、太鼓のような音がするくらいが目安です。



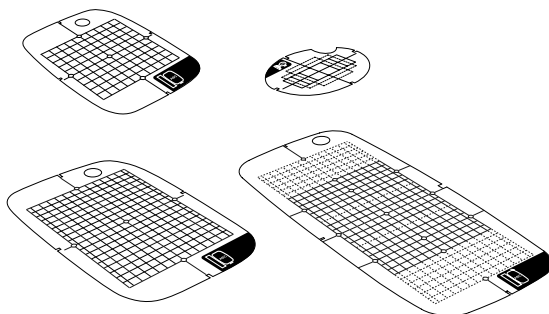
お願い

- 布地がたるんでいると、模様くすれやぬい縮みの原因となります。必ずたるみのないよう刺しゅう枠に張ってください。

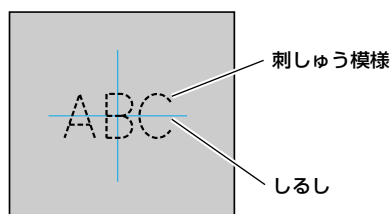
■ 刺しゅうシートを使う

刺しゅうシートを使用すると、布地の正確な位置に刺しゅうすることができます。

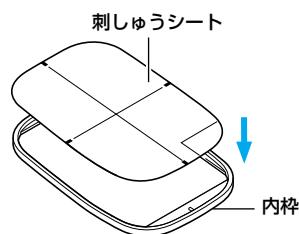
※ EMU15 シリーズではオプション品です。



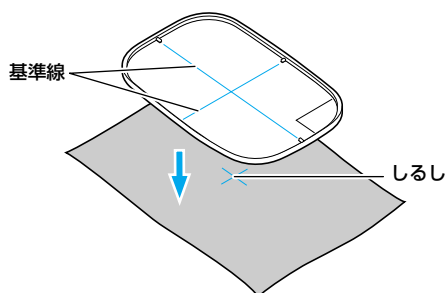
1 布地の刺しゅうをしたい位置に、チャコペンでしるしを付けます。



2 内枠の上に刺しゅうシートをのせます。



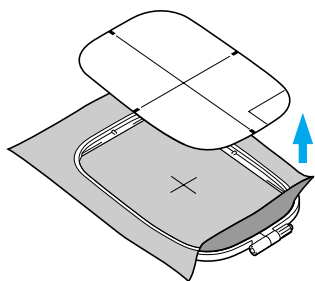
3 布地のしるしと刺しゅうシートの基準線を合わせます。



④ 外枠の上に布地と内枠を置き、布地を張ります。

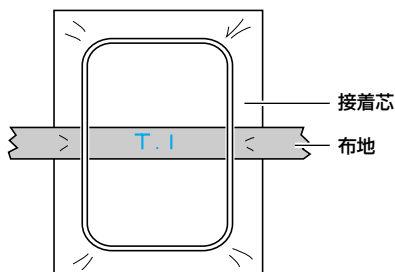
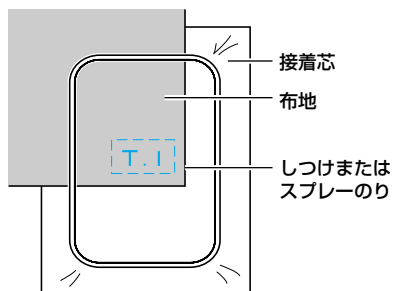
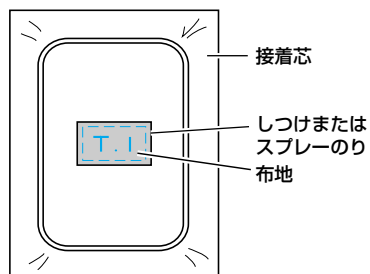
- 布地の張り方については、「布地を刺しゅう枠に張る」(→P.149)を参照してください。

⑤ 刺しゅうシートを取り外します。



■ 刺しゅう枠に張れない布地に刺しゅうをするとき

刺しゅう枠に張ることができない小さい布地や、テープのような細い布地に刺しゅうをする場合は、接着芯を土台にして刺しゅう枠に張ります。接着芯は、ブラザー専用接着芯をおすすめします。



刺しゅうが終わったら、接着芯をていねいに取り除きます。

刺しゅう枠を取り付ける

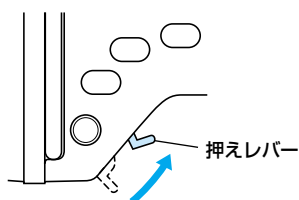
布地を張った刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。
※刺しゅう機と刺しゅう枠は、EMU15 シリーズではオプション品です。

刺しゅう枠を取り付ける

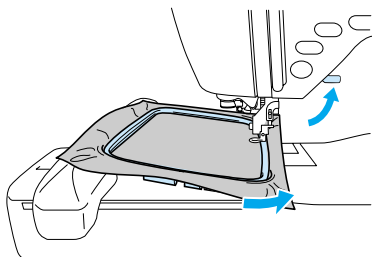
- 1 ブラザー刺しゅう専用下糸をボビンに巻いて、かまにセットします。

●「糸をセットしましょう」(→P.35) を参照してください。

- 2 押えレバーを上げます。



- 3 押えレバーをさらに上げながら、押えの下に刺しゅう枠を通します。



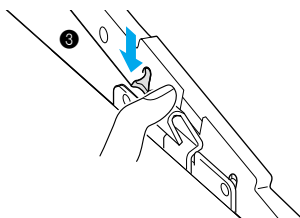
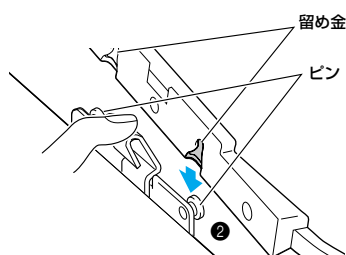
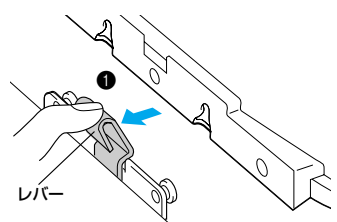
注意



- 指や刺しゅう枠が針に当たらないように注意してください。ケガや針折れの原因となります。

- 4 刺しゅう枠ホルダーのレバーを指で左へ軽く押さえながら、刺しゅう枠の2つの留め金を刺しゅう枠ホルダーのピンに合わせて押し込みます。

手前の留め金をカチッと音がするまでピンに押し込んでから、奥の留め金を押し込みます。



▶ 刺しゅう枠が取り付けられます。



お願い

- 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーの2つのピンに確実に取り付けられていることを確認してください。いずれか一方が取り付けられていないと、模様くずれの原因となります。

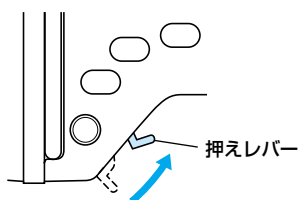
！ 注意



- 刺しゅう枠は、刺しゅう枠ホルダーに正しくセットしてください。正しくセットされていないと、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガの原因となります。

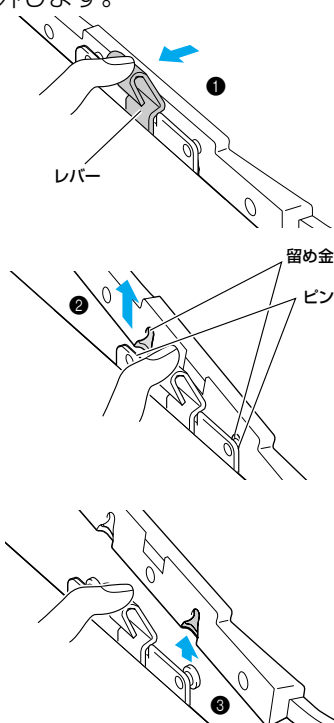
刺しゅう枠を取り外す

- 1 押えレバーを上げます。



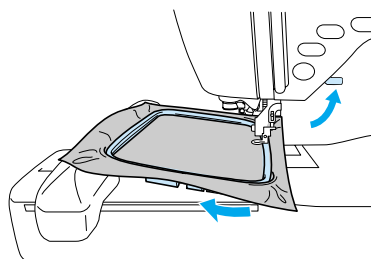
- 2 刺しゅう枠ホルダーのレバーを指で左へ軽く押さえながら、刺しゅう枠の2つの留め金を刺しゅう枠ホルダーのピンから外します。

奥の留め金を外してから、手前の留め金を外します。



▶ 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーから外れます。

- 3 押えレバーをさらに上げながら、押えの下から刺しゅう枠を取り出します。



！ 注意



- 指や刺しゅう枠が針に当たらないように注意してください。ケガや針折れの原因となります。

刺しゅう模様を選びましょう

刺しゅうする模様を選択します。

※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

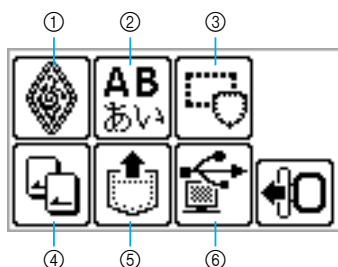


お願い

- ミシン本体や別売りの刺しゅうカードに内蔵されている刺しゅう模様は、一般家庭用としてのみご利用いただけます。営利または業務目的で使用することは、著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

刺しゅう模様の種類

刺しゅう模様には、次のグループがあります。



① 絵柄模様

くだものや動物など、75の模様があります。液晶画面に表示される指示に従って上糸を交換しながら刺しゅうを完成させます。模様の選び方については、「絵柄模様を選ぶ」(→P.159)を参照してください。

② アルファベット (3 書体)

大文字／小文字／数字／記号 (11 文字)／ヨーロッパ文字があります。連続して18文字まで選択することができます。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→P.156)を参照してください。

かな (ゴシック体／明朝体／丸文字)

ひらがな／カタカナ／漢字 (38 文字)／数字／記号 (7 文字) があります。連続して18文字まで選択することができます。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→P.156)を参照してください。

③ 枠模様

四角や円などの10種類の形と、12種類のステッチを組み合わせることができます。模様の選び方については、「枠模様を選ぶ」(→P.159)を参照してください。

④ 刺しゅうカード

別売りの刺しゅうカードの模様を刺しゅうするときに押します。模様の選び方については、「刺しゅうカードを使う」(→P.160)を参照してください。

⑤ ミシンに記憶させた模様の呼び出し

よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出して刺しゅうすることができます。12組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→P.174)、「模様を呼び出す」(→P.174)を参照してください。

⑥ パソコンからの模様の呼び出し

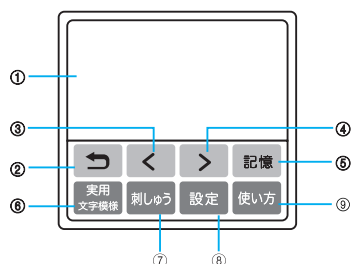
パソコンから模様を呼び出して刺しゅうすることができます。模様の呼び出し方については、「パソコンから模様を呼び出す」(→P.175)を参照してください。

液晶画面の操作

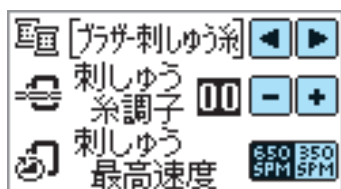
操作パネルの操作キーを使用しながら、液晶画面を操作します。

ここでは、刺しゅうをするときのキーの使い方を説明します。

■ 操作キー



- 1 つ前の画面に戻ります。
- 液晶画面に表示されていない模様があるとき（< または > が表示されているとき）に、前候補／次候補を表示します。
- 刺しゅう模様グループを選択する画面に戻ります。選択していた模様は取り消されます。
- 刺しゅうの色替の糸色表示を切り替えるときや、糸調子や最高速度を変更するときに押します。



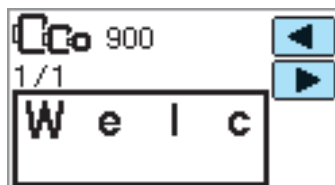
ブラザー刺しゅう糸： ウルトラボスの色番号
カントリー糸： カントリー糸の色番号
時間： 刺しゅうに必要な時間
針数： 針が進んだ数
糸色名： 一般的な色の名称

刺しゅう糸調子： 糸調子を -8 から +8 の範囲で調節します。
刺しゅう最高速度： 最高速度を 650SPM（速い）または 350SPM（ゆっくり）の間で切り替えます。

■ 液晶画面のキー



- 選択した文字模様の文字列を確認することができます。 で表示を切り替えます。



- 自動糸切りや糸調子などの糸の設定をします。

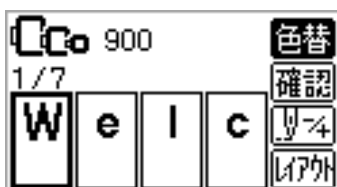


- 自動糸切りを設定／解除します。設定されているときは反転表示されます。
- で糸調子を調節します。
- で糸密度を調節します。（文字模様と枠模様のみ）

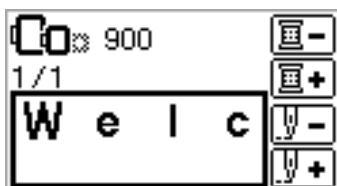
- 刺しゅうのしかたを設定したり、模様のレイアウトを調整したりするときに押します。



- 文字模様を 1 文字ずつ色を替えて刺しゅうするときを押します。1 文字刺しゅうするごとにミシンがストップします。色替が設定されているときは反転表示されます。



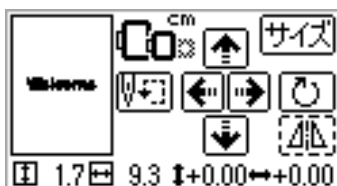
ぬい目を戻したり進めたりします。特定の糸色のみ刺しゅうしないときや、ミシンの電源を切ったあと、途中から再開するとき 사용합니다。詳細は、「刺しゅうし直したいとき」(→P.168)で説明します。



- 1 色戻る
- 1 色進む
- 1 針戻る（押したままにすると、9針ずつ戻ります。）
- 1 針進む（押したままにすると、9針→30針ずつ進みます。）



刺しゅう枠内の模様の位置を確認したり、模様の大きさや角度を変更したりします。詳細は、「レイアウトを調節する」(→P.166)で説明します。



選択した模様の色替の順番を確認することができます。 で表示を切り替えます。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線で表示されているとき（例：）は、その機能は使用できません。

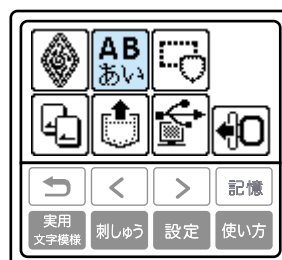
文字模様を選ぶ

刺しゅうする文字を選択します。同じグループ内で、連続して最大18文字まで組み合わせることができます。

お知らせ

- 「模様が枠からはみだします。」と表示されたときは、それ以上文字を選択することはできません。
- 異なるグループ（アルファベットとかな、ゴシック体と明朝体など）の文字を組み合わせることはできません。

- 1 を押します。



2 文字グループを選択します。



3 文字を選択します。

誤って文字を選択したときは、**削除** を押します。

【例】「Welcome」を選択する場合

Aa 大文字／小文字切り替え

大中小 大／中／小切り替え



刺しゅう（EMU17
シリーズのみ）

刺しゅう模様を選びましょう

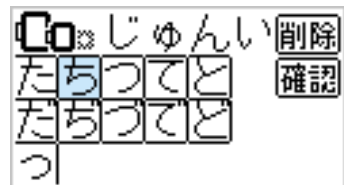
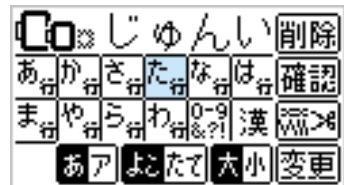
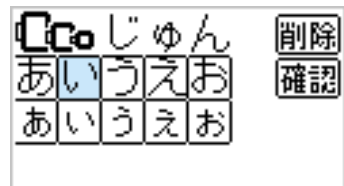
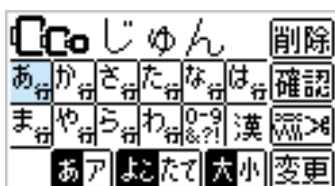
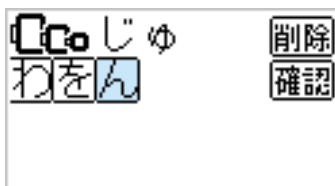
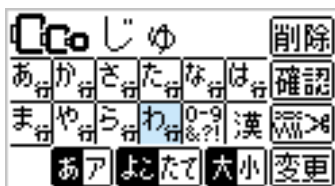
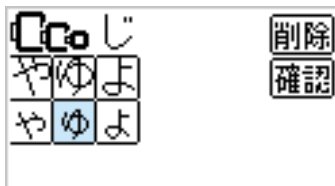
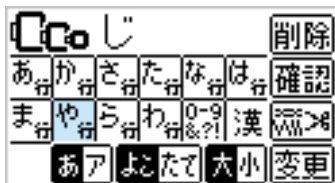
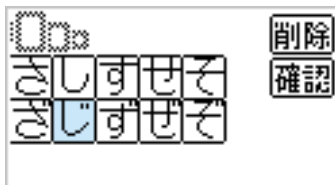
【例】「じゅんいち」を選択する場合

行を選択してから文字を選択します。

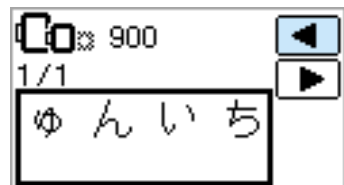
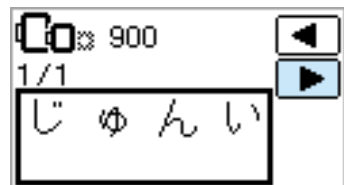
あア ひらがな／カタカナ切り替え

大 小 大／小切り替え

よなて 横書き／縦書き切り替え



選択した文字を確認するときは、**確認** を押します。



お知らせ

- 組み合わせた文字をミシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」(→P.174)で説明します。

絵柄模様を選ぶ

くだものや動物など 75 種類の絵柄模様が内蔵されています。

お知らせ

- 模様のできあがり見本と使用する糸については、操作早見表の「刺しゅう模様一覧」を参照してください。

1 絵柄模様を選択します。



▶ 模様を選択画面が表示されます。

2 模様を選択します。

[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えます。



[-10] [+10] を押すと、- 10 番目 / + 10 番目の模様を表示することができます。



▶ 縫製画面が表示されます。



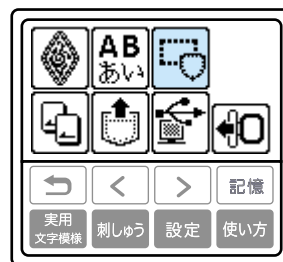
枠模様を選ぶ

四角や円などの 10 種類の形と、12 種類のステッチを組み合わせることができます。

お知らせ

- 枠の形とステッチについては、操作早見表の「刺しゅう模様一覧」を参照してください。

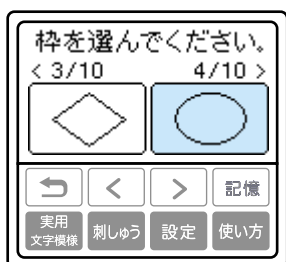
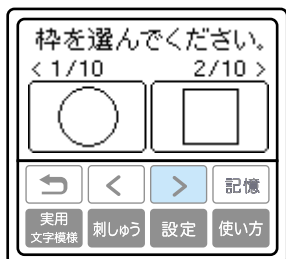
1 [枠] を押します。



▶ 枠の形の選択画面が表示されます。

2 枠の形を選択します。

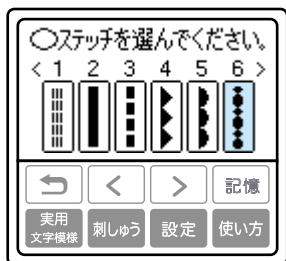
[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えて、10 種類の中から選択します。



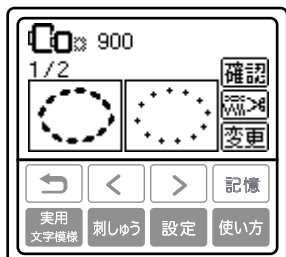
▶ 枠のステッチの選択画面が表示されます。

3 枠のステッチを選択します。

[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えて、12 種類の中から選択します。



▶ 縫製画面が表示されます。



刺しゅうカードを使う

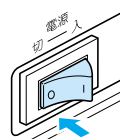
ミシン本体に内蔵されている模様以外に、別売りの刺しゅうカードの模様を刺しゅうすることができます。刺しゅうカードには、テーマ別にいろいろな模様があります。



お願い

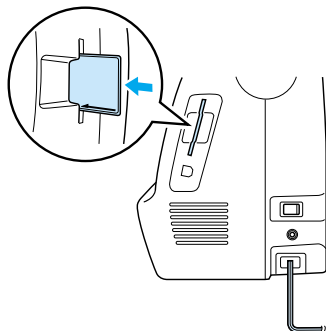
- 刺しゅうカードは、必ず電源を切って抜き差ししてください。
- 刺しゅうカードは、刺しゅうカード差し込み口に正しい方向に差し込んでください。
- 刺しゅうカード差し込み口に、刺しゅうカード以外のものを入れないでください。
- 刺しゅうカードを使用しないときは、収納ケースに入れて保管してください。
- 当社の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。必ず、当社正規の刺しゅうカードを使用してください。
- 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。
- 刺しゅうカードに内蔵されている大きな模様は、液晶画面で見にくい場合があります。ご了承ください。

1 電源を切ります。

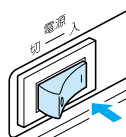


2 ミシン本体右側面の刺しゅうカード差し込み口に刺しゅうカードを差し込みます。

刺しゅうカードに記されている矢印を手前にして、まっすぐ差し込みます。



3 電源を入れます。



4 を押します。



▶ 模様を選択画面が表示されます。

5 模様を選択します。

「絵柄模様を選ぶ」(→P.159)と同様に操作します。



■ 漢字カードの場合

漢字カードに添付されている文字コード表を参照して、4桁の数字(文字コード)を入力します。

1 刺しゅうする漢字の文字コードを入力します。



誤って数字を入力したときは、**削除**を押します。

▶ 入力した文字コードの漢字が表示されます。

2 漢字を組み合わせるときは、続けて次の文字コードを入力します。



刺しゅうをしてみましょう

準備ができたなら刺しゅうしてみましょう。ここでは、絵柄模様の場合を例に説明します。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

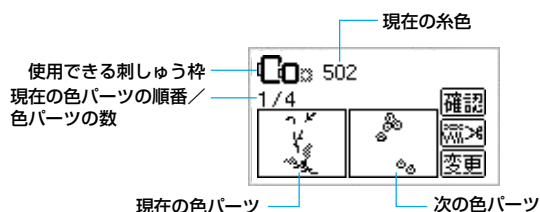
絵柄模様を刺しゅうする

絵柄模様は、1 色ごとに糸色を替えて刺しゅうします。

お願い

- 下糸は、必ず刺しゅう用の下糸を使用してください。

1 液晶画面に表示される色の刺しゅう糸を用意します。



液晶画面の糸色表示は、**設定** (設定キー) を押して、ブラザー刺しゅう糸番号／カントリー糸番号／ぬい時間／針数／糸色名の間で切り替えることができます。糸色表示の切り替え方については、「液晶画面の操作」(→P.155) を参照してください。



【例】糸色名で表示する場合



2 刺しゅう糸をセットし、針に糸を通します。

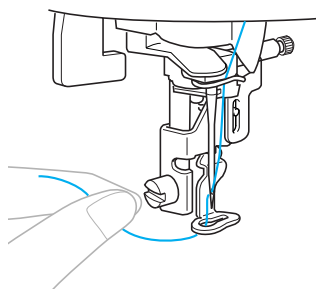
- 「上糸を通す」(→P.41) を参照してください。

お願い

- 糸通し装置を使用するときは、必ず押えを下げてください。

- 3** 刺しゅう押え<Q>の穴に糸を通し、左手で軽く持ちます。

糸にたるみを持たせておきます。

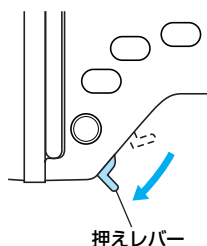


注意

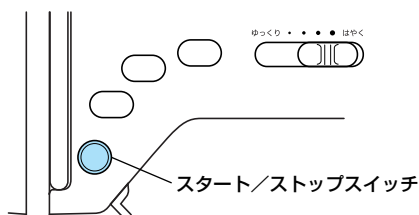


- 糸を引っ張りすぎると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 縫製中に手や物がキャリッジに当たらないようにしてください。模様がくずれるおそれがあります。

- 4** 押えレバーを下げます。

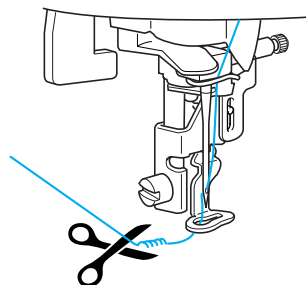


- 5** (スタート/ストップスイッチ) を押します。



- 6** 5～6針めったら (スタート/ストップスイッチ) を押して、ミシンをストップさせます。

- 7** ぬい始めの余分な糸をはさみで切ります。
ぬい目のきわで糸を切ります。



お願い

- ぬい始めの余分な糸を残したまま刺しゅうを続けると、模様の中に糸がぬい込まれてきれいに始末しにくくなります。ぬい始めの糸は、1色ごとに はさみで切ってください。

- 8** (スタート/ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを再開します。

- ▶ 1色目を刺しゅうし終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。自動糸切りを設定しているときは、糸が切れます。

お知らせ

- 自動糸切りの設定については、「液晶画面の操作」(→P.155) を参照してください。

- 9** 次の色の刺しゅう糸を用意し、2～8を繰り返します。

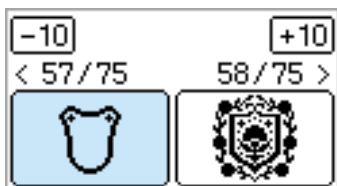
- ▶ 最後の色を刺しゅうし終わると、「ぬい終わりました」と表示されます。OKを押すと、もとの画面に戻ります。

- 10** 余分な渡り糸を切ります。

アップリケをする

土台になる布地とアップリケをする布地（アップリケピース）を用意します。[設定]（設定キー）を押して糸色表示を糸色名に設定すると、液晶画面に「アップリケピース」、「アップリケノイチ」、「アップリケ」と表示されます。

1 アップリケ模様を選択します。



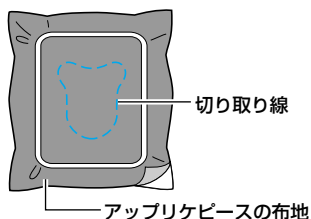
▶ 液晶画面に「アップリケピース」と表示されます。

2 アップリケピースの布地の裏に接着芯を貼り、布地を刺しゅう枠に張ります。

3 押えレバーを下げ、（スタート/ストップスイッチ）を押します。

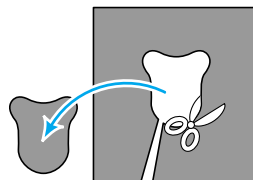


▶ アップリケピースの切り取り位置をぬって、ミシンがストップします。液晶画面に「アップリケノイチ」と表示されます。



4 布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目に沿って切り取ります。

ぬい目の上をていねいに切り、糸を取り除きます。



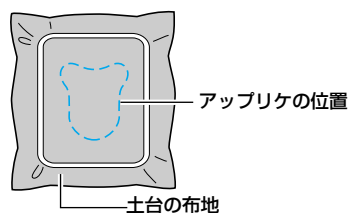
5 土台になる布地を刺しゅう枠に張ります。

6 アップリケをぬう糸をセットします。

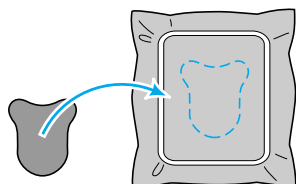
7 押えレバーを下げ、（スタート/ストップスイッチ）を押します。



▶ アップリケの位置をぬって、ミシンがストップします。液晶画面に「アップリケ」と表示されます。



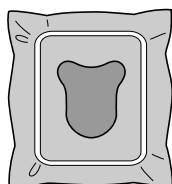
- 8 アププリケピースの裏にのりを薄く付け、アププリケ位置に貼り付けます。



- 9 押えレバーを下げ、 (スタート/ストップスイッチ) を押します。



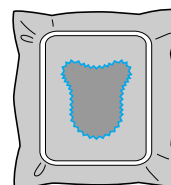
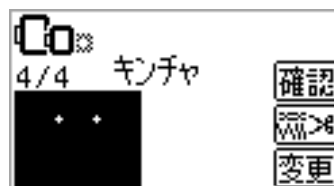
- ▶ アププリケピースを土台の布地にぬって、ミシンがストップします。



お知らせ

- 液晶画面に「アププリケピース」、「アププリケノイチ」、「アププリケ」と表示されるときは、使用する糸色が表示されません。アププリケ模様にあった糸色を選択してください。

- 10 画面に従って残りのパーツを刺しゅうします。



こんなとき

ここでは、模様のレイアウト調整のしかたや他の便利な機能を説明します。
※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

レイアウトを調整する

模様を選択すると、刺しゅう枠の中心に配置されます。刺しゅうを始める前にレイアウトを確認し、位置や大きさを変更することができます。

- 1 刺しゅう模様を選択したら、**変更**を押します。

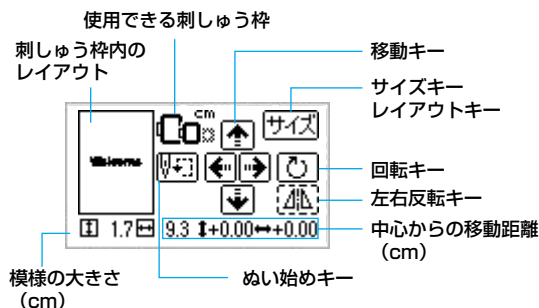


- 2 **レイアウト**を押します。



▶ レイアウト調整画面が表示されます。

- 3 レイアウトを確認し、調整します。



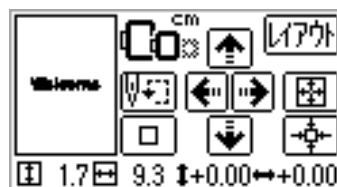
刺しゅう枠のサイズ

使用できる刺しゅう枠のサイズを表示します。薄く表示されているサイズの刺しゅう枠は使用できません。模様の大きさを変更したり模様を移動させたりして、使用できる刺しゅう枠のサイズが変更されたときは、点滅します。



サイズキー

模様を拡大／縮小します。押すと、**レイアウト**に変わります。**レイアウト**を押すと、もとの画面に戻ります。



- 縮小 (Shrink)
- もとの大きさに戻す (Return to original size)
- 拡大 (Enlarge)



移動キー

模様を上下左右に移動させます。



もとの位置に戻す (移動キーで模様を移動させた場合) (Return to original position (if pattern moved with move key))

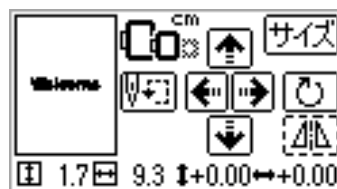
お知らせ

- 模様の大きさや位置を変更したときは、液晶画面に表示される「中心からの移動距離」や「模様の大きさ」を控えておくと、電源を入れ直しても同じように模様を刺しゅうすることができます。



レイアウトキー

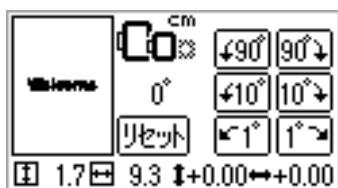
模様を回転させたり、左右反転させたりします。





回転キー

模様を1° ずつ、10° ずつ、または90° ずつ回転させます。 (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。



反時計回りに90° 回転

時計回りに90° 回転

反時計回りに10° 回転

時計回りに10° 回転

反時計回りに1° 回転

時計回りに1° 回転

もとの角度 (0°) に戻す



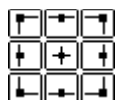
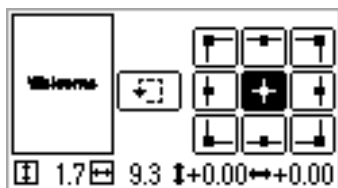
左右反転キー

模様を左右反転させます。



ぬい始めキー

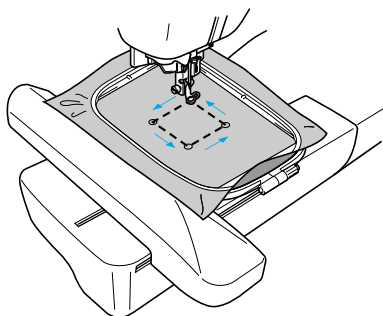
ぬい始めの位置を切り替えます。 (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。



ぬい始めの位置を切り替える



刺しゅう範囲を確認する



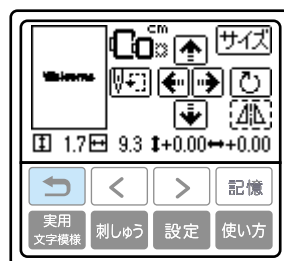
注意



- 刺しゅう枠が動いているときは、針を絶対に下げないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- レイアウトを調整したあとは、必ず使用できる刺しゅう枠のサイズを確認してください。使用できないサイズの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガの原因となります。

4

(戻るキー) を押して、もとの画面に戻ります。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線で表示されているとき (例:) は、その機能は使用できません。
- レイアウトを調整した模様をミシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」 (→ P.174) を参照してください。

糸調子を調節する

刺しゅうを失敗すると、糸をほどこくことが難しく、布地をいためることがあります。刺しゅうを始める前に、同じ布地のはぎれを使用して糸調子などを確認してください。

糸調子を変更するときは、**[設定]** (設定キー) を押します。



[-] を押すと、上糸の調子が弱くなります。

[+] を押すと、上糸の調子が強くなります。

正しい糸調子

布地の裏に上糸が少し見えます。



上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている場合は、上糸を弱くします。



上糸が弱いとき

上糸がたるんでいる場合は、上糸を強くします。



お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

刺しゅうし直したいとき

上糸の色を誤って刺しゅうしたときは、正しい色の上糸をセットして刺しゅうし直します。

- 1 **[スタート/ストップスイッチ]** を押してミシンをストップさせます。

- 2 **[変更]** を押します。



- 3 **[V-4]** を押します。



- 4 **[色戻り]** (1 色戻る) を押して、色を誤ったパーツの先頭に戻します。



- 5 正しい色の糸を上糸にセットし、**[スタート/ストップスイッチ]** を押して刺しゅうします。

途中で糸がなくなったとき

刺しゅうの途中で上糸または下糸がなくなると、ミシンが自動的にストップします。その場合は、10針ほど前に戻して重ねてぬいます。

1 上糸または下糸をセットします。

2 変更を押します。



3 1/4を押します。



4 1/4 (1針戻る) を押して、ミシンがストップしたところより10針ほど前まで針数を戻します。

針数を進めるときは、1/4+ (1針進む) を押します。



5 刺しゅうを再開します。



刺しゅうを中断するとき

刺しゅうを中断するときは、電源を切る前に現在の針数を確認しておきます。

お知らせ

- 電源を切ると、模様の大きさやレイアウトはもとに戻ります。

1 (スタート/ストップスイッチ) を押してミシンをストップさせます。

2 液晶画面に表示されている現在の針数を控えます。



針数が表示されていないときは、設定 (設定キー) を押して表示を切り替えます。
1/4 (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。

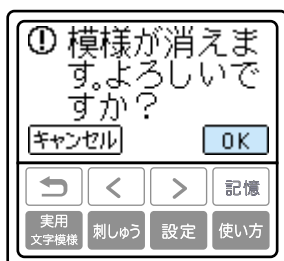


3 刺しゅう (刺しゅうキー) を押します。



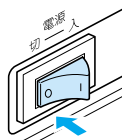
▶ 確認メッセージが表示されます。

4 OK を押します。



▶ 選択した模様が消え、模様を選択画面に戻ります。

5 電源を切ります。



お願い

- ミシンを移動させるときは、必ず刺しゅう機を取り外してください。

6 電源を入れ、模様を選択します。

7 変更を押します。



8 1/4 を押します。



9 色+ (1色進む) を押して、刺しゅうする色パーツの先頭に進めます。



10  (1針進む) を押して、針数を進めます。

 を押したままにすると、1針→9針→30針ずつ進みます。



中断したところより10針ほど前まで針数を進めます。



11 刺しゅうを再開します。

模様の記憶機能を使う

よく使用する模様をミシンに記憶させたり、呼び出して刺しゅうしたりすることができます。また、パソコンから模様データを読み出して刺しゅうすることもできます。

※ EMU15 シリーズでは、別売りの刺しゅう機が必要です。

■ 刺しゅうデータに関する注意

このミシンで作成・記憶させたデータ以外の刺しゅうデータを扱うときは、次の点に注意してください。

！ 注意



- 当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や3回以上の重ねぬいをする場合があります。糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、当社正規のデータ作成装置（刺しゅう PRO など）で、刺しゅうデータを修正して使用してください。

使用可能な刺しゅうデータの種類

- ・ このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pen、.pes、.dst ファイルのみです。.pen ファイルはコピー防止機能付きの刺しゅうデータ、.pes ファイルは当社正規のデータ作成装置（刺しゅう PRO など）で作成された刺しゅうデータです。
- ・ 当社正規のデータ作成装置またはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤作動するおそれがあります。
- ・ .pen ファイルについては、当社インターネットの刺しゅうデータダウンロードサイト「ハートステッチズ」（<http://www.heartstitches.com>）で今後掲載される情報をご参照ください。

タジマフォーマット (.dst) の刺しゅうデータについて

- ・ .dst データは、模様一覧画面にファイル名で表示されます。（実際の絵柄は表示されません。）ファイル名は、8 文字までのアルファベット・数字で表示されます。
- ・ タジマフォーマット (.dst) には、模様の色情報がないため、どの模様を選択しても当社指定の色系順で表示されます。

使用可能なパソコンの種類と OS

- ・ パソコンの種類
USB ポート標準装備の IBM-PC またはその互換機
 - ・ 対応 OS
Microsoft Windows 98SE/Me/2000/XP
- ※ Windows 98SE を使用する場合、パソコンドライバのインストールが必要です。ドライバはブラザー工業のホームページ（<http://www.brother.co.jp>）よりダウンロードしてください。なお、「Second Edition」の場合のみ、ドライバをご利用いただけます。

パソコンで作成・保存するときの注意

- ・ 刺しゅうデータのファイル名に、特殊記号等を使用すると識別できずに模様が表示されないことがあります。その場合は、ファイル名を変更してください。
- ・ 縦 30cm × 横 13cm より大きな刺しゅうデータは扱うことができません。
- ・ 針数、色数の制限を越えて保存した .pes ファイルは使用できません。当社正規のデータ作成装置で、制限内の模様に変更してご使用ください。
- ・ リムーバブルディスクにはフォルダを作成しないでください。フォルダを作成し、フォルダ内に刺しゅうデータを保存した場合、ミシンで模様データを表示することはできません。
- ・ 刺しゅう PRO などで作成した模様データは、作成時に選択した糸ブランドを変更することはできません。



お知らせ

- 本取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。ただし、本文中には® および™ 等のマークは明記しておりません。

模様を記憶させる

名前などのよく使用する文字の組み合わせや、大きさや位置を調整した模様などをミシンに記憶させることができます。12組までの模様を記憶させることができます。

- 1 記憶させる模様を選択したら、**記憶** (記憶キー) を押します。



- ▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。

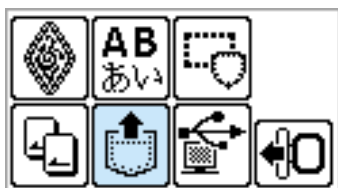
お願い

- 記憶中は、ミシンの電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

模様を呼び出す

ミシンに記憶させた模様を呼び出して、刺しゅうすることができます。

- 1 **呼び出し** を押します。



- ▶ ミシンに記憶させた模様が表示されます。

- 2 呼び出す模様を選択します。

< (前ページキー) **>** (次ページキー) で画面を切り替えて、呼び出す模様のキーを押します。



- ▶ 模様が反転表示されます。

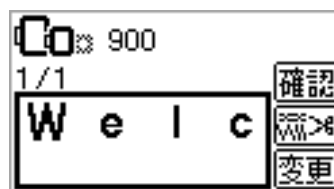
- 3 **削除** を押します。

削除 を押すと、選択した模様を消去します。



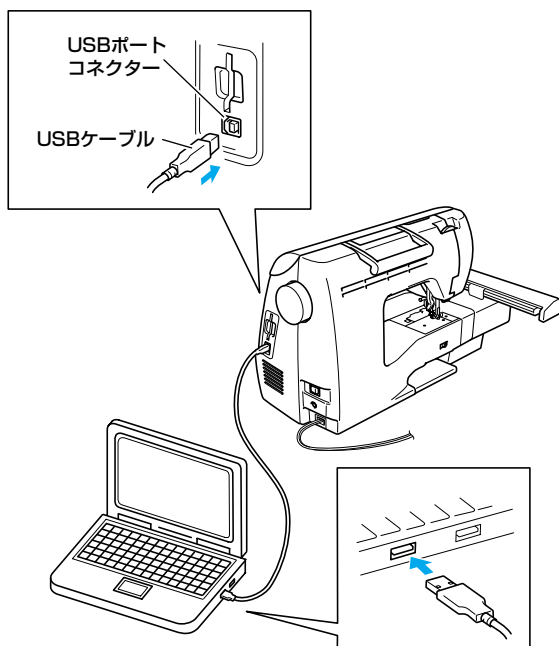
- ▶ 模様呼び出され、縫製画面が表示されます。

- 4 必要に応じて模様を調整してから、刺しゅうします。



パソコンから模様を呼び出す

- 1 ミシンとパソコンのUSBポートコネクタにUSBケーブルを差し込みます。



お知らせ

- ミシンおよびパソコンの電源が入った状態でUSBケーブルを接続することができます。

- 2 パソコンで「マイコンピュータ」を開き、「リムーバブルディスク」を選択します。



- 3 模様データを「リムーバブルディスク」にコピーします。

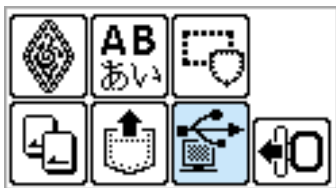


- ▶ 「リムーバブルディスク」内の模様データがミシンに書き込まれます。

お願い

- データ書き込み中はUSBケーブルを抜かないでください。
- 「リムーバブルディスク」にフォルダを作成しないでください。フォルダは表示されませんので、フォルダ内の模様データは呼び出すことができません。
- 縫製中は「リムーバブルディスク」にデータを書き込んだり、「リムーバブルディスク」のデータを削除したりしないでください。

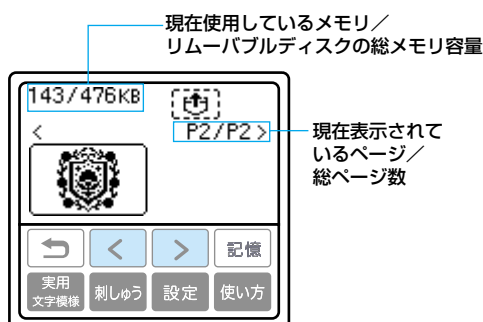
4 を押します。



▶ 模様が表示されます。

5 呼び出す模様を選択します。

[<] (前ページキー) [>] (次ページキー)
で画面を切り替えて、呼び出す模様の
キーを押します。



▶ 模様が反転表示されます。

6 を押します。



▶ 模様が呼び出され、縫製画面が表示されま
す。

7 必要に応じて模様を調整してから、刺
しゅうします。



 お知らせ

- リムーバブルディスクにコピーした模様数が13
個以上の場合、ミシンの液晶画面に模様は表示
されず、「12模様までしか扱えません。模様を減
らしてください。」というエラーメッセージが表
示されます。その場合は、パソコン上でリムーバ
ブルディスクの模様を削除して、12個以下にし
てください。その後エラーメッセージを閉じ、
4に戻って を押してから模様を呼び出して
ください。



5 付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

お手入れ	178
困ったとき	180
アップグレードの方法	190
本体仕様	191
さくいん	192

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

ミシン本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

！ 注意

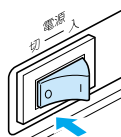


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

かまの掃除

針板の下にあるかまを掃除します。かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。



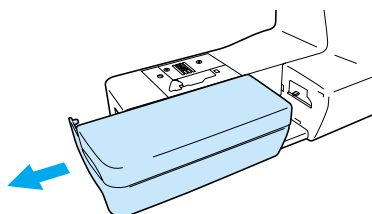
2 電源プラグをコンセントから抜きます。

！ 注意

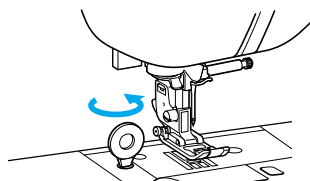


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

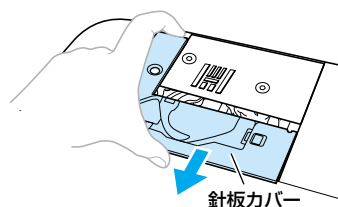
3 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



4 付属の針板ドライバーで針板カバーのネジを外します。



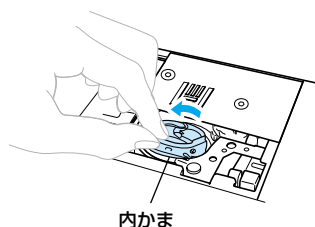
5 針板カバーの向こう側に指を引っ掛け、手前にスライドさせます。



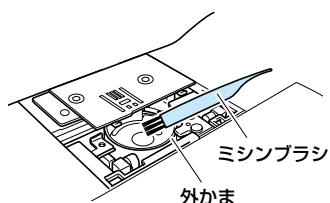
▶ 針板カバーが外れます。

6 内かまを取り出します。

内かまの手前部分を持って、上に引き出します。



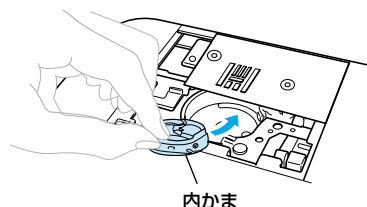
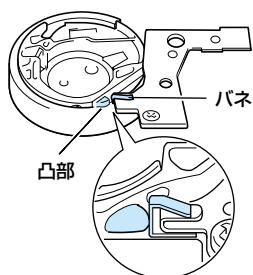
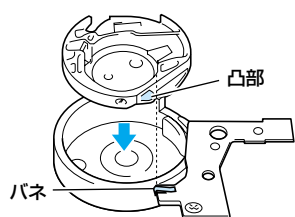
- 7 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



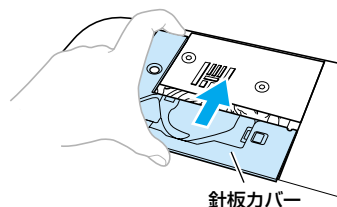
お願い

- 内かまに油をささないでください。

- 8 内かまの凸部とバネが合うように内かまを取り付けます。



- 9 針板カバーのツメの部分を針板に差し込んでから、奥へスライドさせます。



- 10 針板ドライバーで針板カバーのネジをしめ、補助テーブルをもとに戻します。



注意



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 29
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P. 62
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P. 61
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P. 62
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 49
	針の留めネジがゆるんでいる。	ドライバーで留めネジをしっかりとめます。	P. 51
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 50
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 49
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P. 52
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 69
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	—
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P. 42
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
上糸が切れる	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P. 35
	糸こまが正しくセットされていない。 糸こま押えの大きさが合っていない。 針棒糸かけから糸が外れている。	上糸を正しくセットします。	P. 41
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	—

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P. 49
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 69
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 178
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 50
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P. 35
下糸がボビンにきれいに巻けない	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに4～5回ボビンに巻き付けます。	P. 37
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	P. 38
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 39
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	—
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、かまを掃除します。	P. 178
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P. 35
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 41
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 39
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 49
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P. 54
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 69
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P. 35

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P. 39 P. 41
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P. 42
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 49
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 50
	薄地の場合に、ぬい目があらずぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハترون紙などを敷いてぬいます。	P. 69 P. 76
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 69
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 41
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 49
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 50
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下やかまにほこりなどがたまっている。	針板ふたを取り外してかまを掃除します。	P. 178
ぬっているときの音が 高い ガタガタと音が する	送り歯やかまにほこりがたまっている。	かまを掃除します。	
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 41
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119番」(フリーダイヤル0120-340- 233)にご相談ください。	—
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P. 35
針穴に糸が通ら ない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチで針を上げます。	P. 41
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 50
模様がきれいに ぬえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 52
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 69
	糸がからまって、かまなどに詰まっ ている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰 まっていた場合は、掃除します。	P. 178
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P. 112
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P. 69
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 52
	糸がからまって、かまなどに詰まっ ている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰 まっていた場合は、掃除します。	P. 178
ランプが 点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「ミシン 119番」(フリーダイヤル0120-340- 233)にご相談ください。	—
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 29
液晶画面に何も表 示されない	液晶画面の明るさが明るすぎる、または 暗すぎる。	液晶画面の明るさを調整します。	P. 187

こんなとき	原因	対処	参照ページ
スイッチを押しても動かない	液晶画面にアニメーションが表示されている。	液晶画面に指で触れてアニメーションを消去します。	P. 30
刺しゅうキーを押しても動かない	刺しゅう機が取り付けられていない。	刺しゅう機を取り付けます。 EMU15シリーズの場合は、別売りの刺しゅう機をお買い求めください。	P. 144
刺しゅう機が動かない	模様を選択していない。	模様を選択します。	P. 154
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	P. 144
刺しゅう機が取り付けられない	刺しゅう機差し込み口のふたが閉まっている。	刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを開けます。	P. 145
きれいに刺しゅうできない	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない。布地の張り方がゆるい。	刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	P. 149
	接着芯を貼っていない。	伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ってください。	P. 148
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 178
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 168
	キャリッジや刺しゅう枠の周辺にものがある。	刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠がものにぶつかると、模様がくずれます。刺しゅう枠が動く範囲には、ものを置かないようにしてください。	P. 146
	刺しゅう枠からはみ出した布地が、じゃまになっている。	刺しゅう枠からはみ出した布地がじゃまにならないように布地を張り替え、模様を回転させて刺しゅうをします。	—
	重たい衣類に刺しゅうしていて、テーブルから布地が垂れ下がっている。	布地がテーブルから垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。布地が垂れ下がらないようにしてください。	—
	布地がひっかかっている。はさみ込まれている。	ミシンをストップさせて、布地を正しい状態にします。	—
	刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を取り外したり取り付けたりしたときに、キャリッジを動かした。	途中でキャリッジを動かすと、模様くずれの原因となります。刺しゅう枠を取り外したり取り付けたりするときは、注意してください。	—

液晶画面のメッセージ表示

誤った操作をしたときのメッセージや操作のアドバイスが、液晶画面に表示されます。表示された内容に従ってください。

表示	原因
▲ 説明書のエラーメッセージをみてください。 閉じる	上糸がかまにからんだ、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止した (→P.180参照)
① 上糸が切れていないか確かめてください。 閉じる	上糸が切れた 上糸が正しくセットされていない 上糸がなくなった
① 押えレバーを上げてください。	押えが下がった状態で、刺しゅう機の初期設定を行おうとした
① 押えレバーを下げてください。 閉じる	押えが上がった状態で、スタート/ストップスイッチ・返しぬいスイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押した
記憶中	模様の記憶中
① このカードは使用できません。 閉じる	本製品で使用できない模様カードをセットして、カードの模様を選択しようとした
① この画面ではぬえません。 閉じる	縫製画面以外で、スタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
① この模様は使えません。 閉じる	このミシンで使用できない模様を選択しようとした
① これ以上組合せできません。 閉じる	19文字以上の文字を組み合わせようとした
① 刺しゅうカードを入れてください。 閉じる	刺しゅうカードがセットされていないときに、液晶画面の  を押した

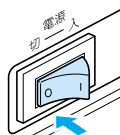
表示	原因
① 刺しゅう機がついていない時には使えませ [閉じる] せん。	刺しゅう機が取り付けられていないときに、刺しゅうキーを押した
① 刺しゅう機がついている時には使えませ [閉じる] ん。	刺しゅう機が取り付けられているときに、使用できない機能を使用しようとした
▲ 刺しゅうキャ リッジが動き ます。注意して ください。[OK]	刺しゅう機を取り付けた
① 下糸が少なく なりました。 下糸を巻いて [閉じる] ください。	下糸がなくなった 下糸が残り少なくなった
① 下糸巻き軸を 左に戻してく ださい。 [閉じる]	下糸巻き軸を右にした状態で、返しぬいスイッチ・針上下スイッチ・糸切り スイッチのいずれかを押した
下糸巻き中	下糸巻き装置で下糸巻き動作中
① 設定条件を記 憶します。よろ しいですか？ [キャンセル] [OK]	実用模様の設定を変更して、[記憶]を押したとき
① 電源を切って 刺しゅう機を 取り外してく ださい。 [閉じる]	刺しゅう機が取り付けられているときに、実用／文字模様キーを押した
① 針が下の時に はこのスイッ チは使えませ [閉じる] ん。	針が下がった状態で、刺しゅう模様の選択やレイアウトの変更をしようとし た
① 針上下スイッ チで針を上 に上げてくだ さい。	針が下がっているときにミシンが動く動作をしようとした
① 2本針設定を 解除して針を 交換してくだ さい。[キャンセル] [VV+V]	2本針の設定をした状態で、2本針が使用できない模様を選択した

表示	原因
① フットコントローラーをはずしてください。 [閉じる]	刺しゅうのときに、フットコントローラーを使用しようとした フットコントローラーが取り付けられた状態で、スタート/ストップスイッチを押した
① 振幅コントロールをOFFにしてください。 [閉じる]	振幅コントロールがONの状態で、フットコントローラーを接続せずにスタート/ストップスイッチを押した 振幅コントロールが使用できない模様を選択した
① 模様が消えます。よろしいですか？ [キャンセル] [OK]	刺しゅう模様を選択した状態で、戻るキーまたは刺しゅうキーを押した
① 縫製範囲からはみ出します。回転しますか？ [キャンセル] [90°]	刺しゅう枠からはみ出すまで文字を組み合わせようとした
① ボタン穴かがりレバーを上げてください。 [閉じる]	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニング以外の模様を選択してスタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
① ボタン穴かがりレバーを下げてください。 [閉じる]	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニングを選択してスタート/ストップスイッチを押した
① 模様を選んでください。 [閉じる]	模様を選択していない状態で、スタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
① 模様が枠からはみだします。 [閉じる]	刺しゅう枠に入りきらない文字数を設定しようとした
① 容量がたりません。模様を消してください。 [キャンセル] [削除]	記憶エリアがいっぱいのときに、さらに記憶させようとした
① 12模様しか扱えません。模様を減らしてください。 [閉じる]	リムーバブルディスクに13個以上の模様データが入っているときに、模様を呼び出そうとした

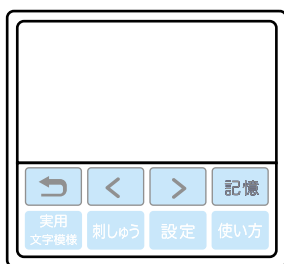
液晶画面に何も表示されないとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる場合があります。その場合は、次の操作をしてください。

1 電源を切ります。



2 操作パネルのいずれかのキーを押しながら、電源を入れます。



3 [-] [+] を押して、画面の明るさを調整します。



4 もう一度電源を切って、電源を入れ直します。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

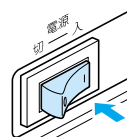
「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。OK ボタンを押すと、操作可能な状態に戻ります。

必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

■ 電子音を消したいとき

購入時は、操作パネルのキーを操作すると音が鳴るように設定されています。この音を鳴らないように変更できます。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

2 操作パネルの [設定] (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

3 [>] (次ページキー) を押します。

④ ブザーの OFF を押します。



▶ 電子音が鳴らないように設定されます。

⑤ (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。（保証書は外箱に付いています。）
また無料修理保証期間は、お買い上げ日より3年間です。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

■ お客様相談室（ミシン119番）0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）

TEL：0120-340-233

FAX：052-824-3031

営業時間：

月曜日～金曜日 9：00～17：30

土曜日 9：00～12：00 13：00～17：00

（祝祭日、ブラザー販売（株）休日を除く）



お願い

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

アップグレードの方法

パソコンを使用して、マシンにインストールされているソフトウェアをアップグレードすることができます。アップグレード情報については、お近くの販売店または「マシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせいただくか、ブラザー工業のホームページ(<http://www.brother.co.jp>)で今後掲載される情報を参照してください。

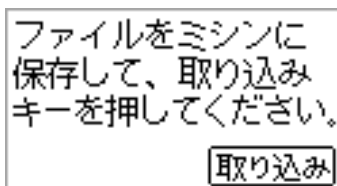


お知らせ

- ソフトウェアのアップグレード中は、キーを押してもブザーが鳴りません。

- 1 操作パネルの **設定** (設定キー) を押しなが
ら、電源を入れます。

▶ 次の画面が表示されます。



- 2 USB ケーブルでマシンとパソコンを接
続します。

▶ 「リムーバブルディスク」が「マイコンピュータ」
に表示されます。

- 3 アップグレードファイルを「リムーバ
ブルディスク」にコピーします。



▶ 液晶画面に「PC と通信中です。USB ケー
ブルを抜かないで下さい。」と表示されます。

- 4 ① の画面に戻ったら、**取り込み** を押し
ます。

▶ 「アップグレードファイルを書き込んでいま
す。電源を切らないで下さい。」と表示されま
す。

- 5 次の画面が表示されたら、アップグレー
ドは終了です。

アップグレードファイルが2つある場合
は、2 つ目のファイルを取り込みます。

③ から ⑤ の手順を繰り返します。

アップグレードが
完了しました。



お願い

- エラーが発生すると、エラーメッセージが表示さ
れます。その場合は、電源を切り、もう一度 ①
からやり直してください。

- 6 USBケーブルを抜き、マシンの電源を入
れ直します。

本体仕様

項目	仕様
本体寸法	幅435mm×高さ292mm×奥行201mm
製品質量	EMU17シリーズ：8.0kg（刺しゅう機：2.0kg） EMU15シリーズ：8.5kg
液晶画面	バックライト拡散式タッチパネル
使用ミシン針	家庭用ミシン針HA×1
ランプ	白色発光ダイオード
ぬい速度	毎分70～850針
搭載模様	実用：67 飾り：31 サテンステッチ：16 クロステッチ：5 飾りサテン：10 アルファベット：55×3書体 ひらがな：75 カタカナ：76 数字：10 記号：28 漢字：15
最大振り幅	7.0mm
最大送り幅	5.0mm
刺しゅう	刺しゅう範囲 180mm×130mm
	刺しゅう速度 毎分最大650針
	最少ピッチ 0.1mm
	搭載模様： 絵柄模様：75 枠模様：10種、12ステッチ 英数：3書体 かな・カナ：3書体

さくいん

記号

2本針 16, 18, 45

P

PL 1

Q

Q&A 180

U

USB ケーブル 15, 20, 175

USB ポートコネクタ 23, 175

ア

アーム 55

アイレット 119

あき止まり 114

アップグレード 190

アップリケ 107, 164

厚地をぬう 75

アドバイス 184

アフターサービス 189

アルファベット 80, 82, 154, 156

安全にお使いいただくために 1

イ

位置 166

糸案内カバー 22, 37, 42

糸案内皿 23, 43

糸案内板 22, 37, 43

糸色 162

糸色名 155

糸切り 22, 66, 71

糸切りスイッチ 24, 66

糸こま押え 12, 35, 42

糸こまネット 12, 36

糸たて棒 22, 35, 42

糸調子 69, 168

糸通し装置 44

糸通しレバー 44

糸をまちがえてぬったとき 168

色替 155

ウ

ウイングニードル 16, 125

ウォーキングフット 16, 18, 110

受け座 38

薄地をぬう 76

ウルトラパス 17, 19, 155

上糸 41

上ふた 22, 35, 42

エ

絵柄模様 159

液晶画面 25, 30, 155, 187

液晶画面の操作 30, 155

エクストラテーブル 15, 19, 55

エラーメッセージ 184

オ

オープニング画面 31

大きなもの 55

お客様相談室 189

送り歯 23

押え 13

押え圧ダイヤル 23, 75

押え固定ピン 13, 75

押えの交換 52

押えホルダー 53, 54

お手入れ 178

カ

カーブをぬう 74

回転キー 167

ガイド付まつりぬい押え 16, 19, 76

ガイドミゾ 38

返しぬい 64, 70

返しぬいスイッチ 24, 65

確認 155

飾り 80

飾りサテン 80, 131

飾りぬい 120

片押え 13, 101

片返し 102

カタカナ 83, 154, 158

カッター 38, 40

角をぬう 74

かな 83, 156

かま 40, 178

画面調整	31
画面の明るさ	31, 187
換気口	23
漢字カード	161
かんどめ	115
カントリー糸	17, 19, 155

キ

記憶	72, 133, 172
記憶キー	25
基線	90
ギャザー	122
キャリッジ	146
曲線をぬう	74
キルター	16, 19, 111
キルティング	110
キルト押え	16, 18, 111

ク

組み合わせ	129
くり返し	130
クレイジーキルト	109
クロスステッチ	80

ケ

ケース	12
-----	----

コ

ゴムテープ付け	106
コンセント	29

サ

サイズキー	166
サイドカッター押え	16, 19, 87
サテンステッチ	80
サテンぬい	112
左右反転	72, 133
三重ぬい	114
サンフェロン	13

シ

シエルタック	123
時間	155
ジグザグ押え	
.....	13, 86, 89, 100, 105, 107, 114, 121
ジグザグの振幅	68
刺しゅう	138
刺しゅう糸	138
刺しゅう押え	15, 20, 141
刺しゅうカード	17, 20, 160
刺しゅうカード差し込み口	23, 161

刺しゅう機	144
刺しゅうキー	25
刺しゅう機差し込み口	22, 145
刺しゅうシート	15, 17, 20, 150
刺しゅうの記憶	172
刺しゅう範囲	167
刺しゅう模様	154
刺しゅう用水溶性シート	17, 19, 138
刺しゅう用接着芯	17, 19, 138
刺しゅう枠	15, 17, 20, 149
刺しゅうを中断するとき	169
下糸	35
下糸巻き案内	22, 37
下糸巻き軸	39
下糸を引き出す	48
しつけぬい	89
実用／文字模様キー	25
実用飾り模様	80
実用模様	80
自動糸切り	71
自動返しぬい	70
自動止めぬい	70
地ぬい	89
次ページキー	25
伸縮ぬい	105

ス

水溶性シート	17, 19, 138
スラップ	122
すそ上げ	91
スタート	62
スタート／ストップスイッチ	24, 62, 163
ストッパー	51
スピードコントロールレバー	24, 38, 62, 113
スモッキング	122

セ

接着芯	17, 19, 138
設定キー	25
設定の確認・変更	31
前ページキー	25
前面	22

ソ

操作音	187
操作スイッチ	24
操作パネル	25
操作早見表	14
掃除	178
速度	62
側面	23
そで付け	114

タ

ダーニング	117
たち目かがり	85
たち目かがり押え	13, 85
試しぬい	74

チ

直線ぬい	89
著作権	154

ツ

使い方	33
使い方キー	25
つき合わせ	100, 124
つくろいぬい	117
筒もの	55

テ

手で針に糸を通す	45
電源	28
電源コード	23, 29
電源コンセント	29
電源スイッチ	23, 29
電子音	187
てんびん確認窓	43

ト

特長	11
途中で糸がなくなったとき	169
止めぬい	64, 70
留めネジ	51
ドライバー	12, 51
トラブル	180
取扱説明書	13
取扱説明 DVD	14
取り外しレバー	147
ドロップレバー	23, 98, 112
ドラコンワーク	126

ナ

長さ	69, 132
----------	---------

ニ

ニーリフター	18, 77
ニーリフター差し込み口	22, 77

ヌ

ぬい糸	13
ぬい方	60
ぬいしろの始末	85
ぬいしろの幅をそろえる	76
ぬい目の長さ	69
布地のセット	61
布地ブロード	13

ノ

伸びる布地	76, 105
-------------	---------

ハ

バージョン	31
ハードケース	12
背面	23
はさみ	12
パッチワーク	109
はとめ穴	119
はとめ穴パンチ	12, 96, 119
幅	68
針板	23, 76
針板カバー	23, 39, 178
針板ドライバー	12, 178
針板ふた	23, 40
針位置	31, 76
張りが強い糸	36
針上下スイッチ	24
針数	155, 169
針停止位置	31
針の交換	50
針の種類	49
針棒糸かけ	23, 43
反転	133, 167
ハンドル	23

ヒ

ピーシング	109
表示言語	31
ひらがな	80, 83, 154, 158

フ

フーリー	23, 41, 61, 99
ファゴティング	121
ファスナー付け	100
付属品	12
付属品トレイ	13
フットコントローラー	12, 63
フットコントローラーjack	23
ブラザー刺しゅう糸	155
フリーアーム	55

フリーモーションキルト	111
振り幅	68
振幅コントロール	113
プログラム糸切り	71
プロダクトNo.	31

へ

ヘアルーム	125
別売刺しゅう機セット	20

ホ

方向を変える	74
補強	114
ポケット口	114
補助糸たて棒	16, 18, 46
保証書	14, 189
ボタン穴かがり	93
ボタン穴かがり押え	13, 94, 115, 117
ボタン穴かがりレバー	23, 96, 116, 118
ボタン付け	98
ボタン付け押え	13, 98
ほつれ止め	64, 85
ボビン	35, 13
ボビン受け座	38

マ

まつりぬい	91
まつりぬい押え	13, 91

ミ

ミシン119番	189
ミシンの使い方	33
ミシン針	13, 49
ミシンブラシ	12, 179
密度	131

メ

名称	22
メッセージ	184

モ

文字刺しゅう	156
戻るキー	25
模様ぬい押え	13, 119, 128
模様の位置	166
模様の大きさ	131
模様の確認	130
模様の記憶	133, 172
模様の組み合わせ	129
模様のくり返し	130
模様の種類	80, 154

模様の選択	81, 154
模様の調整	135
模様の長さ	132
模様の幅	68
模様の反転	133, 167
模様の密度	131
模様の呼び出し	134

ヨ

呼び出し	134
------------	-----

ラ

ランブ	29
-----------	----

リ

リップパー	12, 96
-------------	--------

レ

レイアウトの調節	166
----------------	-----

ワ

ワイドテーブル	16, 18, 57
枠模様	159

アフターサービス

- ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より3年間です。詳しくは保証書をご覧ください。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室へお問い合わせください。

お客様相談室（ミシン119番）0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合はお買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）：TEL:0120-340-233

Fax:052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日 9：00～17：30

休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン119番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

- ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
<http://www.brother.co.jp/>
- ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。
http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

ブラザー工業株式会社

取扱店

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

114-U17/U15
XD1042-221④
Printed in China